一	氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關				丙種機關																
			A	B	A	B																	
一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七	一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七	一二・六〇	一・五二	一〇・八〇	一・三〇	一三・八三	一・四八	一一・八六	一・二七	一四・五一	一・四五	一二・四五	一・二四	一五・一二	一・四三	一二・九七	一・二三

二　四衝程單働式ナルトキ

八		九	一〇		一一	一二			一三
一六・六三	一・四〇	一七・六〇	二八・四二	一九・四二	二〇・〇八	二一・一四	一・三三	二九・三七	三六・四八
一・四〇	一・二一	一・三八	一・二〇	一・三六	一・三三	一・三三	一・一九	一・〇九	
一四・二六	二三・五〇	一五・一〇	二四・三八	一六・六六	一七・二三	一八・一四	二五・二〇	三一・三〇	
一・二〇	一・〇四	一・一八	一・〇三	一・一七	一・一四	一・一四	一・〇二	〇・九四	

二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
一〇・八六	一〇・八六	一〇・八六	一二・六〇	一二・六〇	一三・八三	一三・八三	一四・五一	一四・五一	一五・一二	一五・一二
一・六〇	一・六〇	一・六〇	一・五二	一・五二	一・四八	一・四八	一・四五	一・四五	一・四三	一・四三
九・三二	九・三二	九・三二	一〇・八〇	一〇・八〇	一一・八六	一一・八六	一二・四五	一二・四五	一二・九七	一二・九七
一・三七	一・三七	一・三七	一・三〇	一・三〇	一・二七	一・二七	一・二四	一・二四	一・二三	一・二三

三　二衝程複働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關 A	甲種機關又ハ乙種機關 B	丙種機關 A	丙種機關 B
一		一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
二		一二・八一	一・四三	一〇・九九	一・二三
三		一四・三三	一・三二	一二・三〇	一・一三
四		一二・二〇	一・一四	一九・〇四	〇・九八
五		一八・四五	一・二〇	一五・八二	一・〇二
六		二一・二〇	一・一二	一八・一八	〇・九六
		二〇・六六	一・一五	一七・七二	〇・九九
		二三・五〇	一・一二	二〇・一六	〇・九六
七		二二・三四	一・一一	一九・一七	〇・九五
八		二六・八三	一・〇七	二三・〇一	〇・九二

四　四衝程複働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關 A	甲種機關又ハ乙種機關 B	丙種機關 A	丙種機關 B
九		二七・九三	一・〇三	二三・九七	〇・八八
一〇		三一・四三	一・〇二	二六・九七	〇・八八
		三六・八三	一・〇一	三一・六〇	〇・八七
一一		三四・六八	一・〇〇	二九・七六	〇・八六
一二		三八・五四	〇・九九	三三・〇七	〇・八五
		四八・二〇	〇・九七	四一・三六	〇・八三
一		一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
二		一二・八一	一・四三	一〇・九九	一・二三
三		一四・四八	一・三〇	一二・四一	一・一二

四	＋	一三・四一	一・三九	一一・五〇	一・一九		
五	＊	一五・六八	一・二六	一三・四五	一・〇八		
六	＊	一四・五〇	一・三〇	一二・四四	一・一二		
	＊	一四・五〇	一・三〇	一二・四四	一・一二		
	＊	一九・七〇	一・一九	一六・九〇	一・〇二		
七	＊	一八・三九	一・二二	一五・七七	一・〇五		
八	＊	一八・七〇	一・二一	一六・〇四	一・〇四		
	＊ ＋	二一・三一	一・一六	一八・二八	一・〇〇		
九	＊	二一・六〇	一・一五	一八・五三	〇・九九		
	＊	二〇・〇四	一・一八	一七・二〇	一・〇一		
一〇	＊	二〇・〇四	一・一八	一七・二〇	一・〇一		
	＊	二八・四二	一・〇八	二四・三八	〇・九三		

一一	＊	二一・七二	一・一六	一八・六三	一・〇〇		
一二	＊	二二・一〇	一・一五	一八・九六	〇・九九		
	＊	二六・五〇	一・〇九	二二・七三	〇・九四		

備考　＊印ヲ附シタルモノハ二箇ノ氣筒ガ同時ニ點火スルモノナルコトヲ示ス

第百四十八條　「ディーゼル」式發動機ノ「クランク」軸ノ鋼製ノ腕ノ幅又ハ厚サハ左ノ算式ニ依リ定メタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ナルトキ　$w = 0.438d_0$

半組成型「クランク」軸ナルトキ　$t = 0.625d_0$

一体型「クランク」軸ナルトキ　$bt^2 = 0.417d_0^3$

d_0ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(粍ニテ)

wハ組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ニ於ケル腕ノ孔ノ周圍ノ半徑方向ノ厚サ(粍ニテ)

tハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(粍ニテ)

bハ一体型「クランク」軸ノ腕ノ幅(粍ニテ)

前項ノ規定ハ高速機關ニ付テハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百四十九條　「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ中間軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = C\sqrt{\frac{(1+M)D^2Sp}{}}$$

dハ中間軸ノ徑(粍ニテ)

Dハ氣筒ノ徑(粍ニテ)

Sハ行長(粍ニテ)

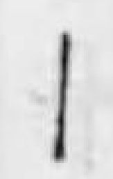
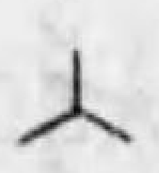
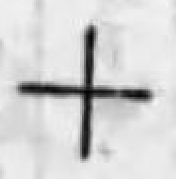
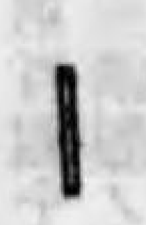
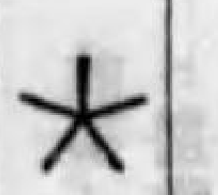
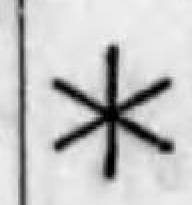
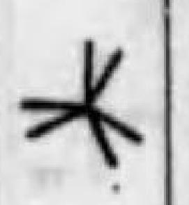
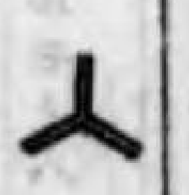
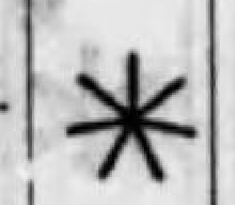
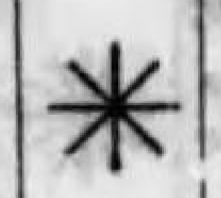
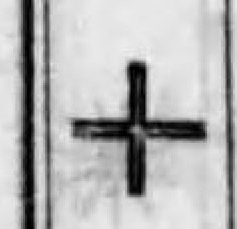
pハ氣筒內平均有效圖示壓力(毎平方糎瓩ニテ)

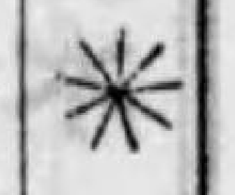
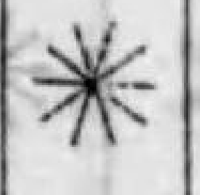
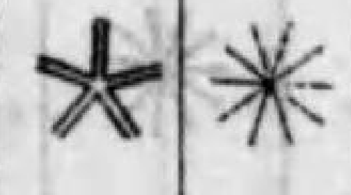
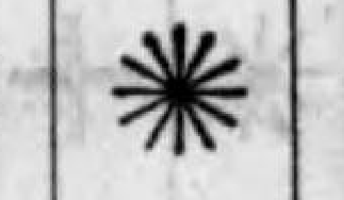
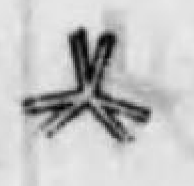
Mハ第二項ノ規定ニ依リ算定シタル數ト左表ニ揭グルZトノ中小ナルモノ

Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

一　二衝程單働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	K	Z	C
一		二六・二	〇・五二七	甲種機關又ハ乙種機關 〇・一一六
				丙種機關 〇・一一〇

二		一六・八	○・三二六	○・一四六	○・一三九
三		八・四	○・二○○	○・一六八	○・一六○
四		四・五	○・一○六	○・一八四	○・一七五
		三六・二	○・三二六		
五		二・九	○・○五九	○・一九八	○・一八八
六		二・○	○・○四一	○・二一一	○・二○○
		一一・八	○・一三二		
		一八・二	○・一九一		
七		一・五	○・○二七	○・二二二	○・二一一
八		○・九	○・○一九	○・二三三	○・二二○
		九・二	○・一○六		

九		○・七	○・○一二	○・二四一	○・二二九
一○		○・四	○・○○八	○・二五○	○・二三八
		五・七	○・○六二		
一一		○・三	○・○○○五	○・二五九	○・二四六
一二		○・二	○・○○○四	○・二六六	○・二五三
		二五・二	○・一三二		
		三・五	○・○四○		

二　四衝程單働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	K	Z	C	
				甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
一		三一・八	○・六八○	○・○九七	○・○九二

二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二					
四一・〇	二四・一	一六・八	一三・八	八・四	六・三	四・五	四・一	三・四	二・八	二・〇					
〇・五二七	〇・四一〇	〇・三二六	〇・二五三	〇・二〇〇	〇・一四〇	〇・一〇六	〇・〇八四	〇・〇六二	〇・〇四九	〇・〇四〇					
〇・一一八	〇・一三五	〇・一四九	〇・一六一	〇・一七一	〇・一八〇	〇・一八八	〇・一九六	〇・二〇三	〇・二〇九	〇・二一五					
〇・一一二	〇・一二八	〇・一四二	〇・一五三	〇・一六二	〇・一七一	〇・一七九	〇・一八六	〇・一九三	〇・一九九	〇・二〇四					

三　二衝程複働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	K	Z	C	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
一		一六・八	〇・三三〇		〇・一四〇	〇・一三三
二		四・五	〇・一〇六		〇・一七六	〇・一六七
三		二・〇	〇・〇四一		〇・二〇一	〇・一九一
四		九・二	〇・一〇六		〇・二二二	〇・二一一
五		〇・四	〇・〇〇八		〇・二三九	〇・二二七
六		三・五	〇・〇四一			
		〇・二	〇・〇〇四		〇・二五四	〇・二四一
		三・五	〇・〇四一			

四　四衝程複働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	K	Z	C 甲種機關又ハ乙種機關	C 丙種機關
七	✳	〇・二	〇・〇〇四	〇・二六七	〇・二五四
八	✳	一・七	〇・〇一九	〇・二八〇	〇・二六六
九	✳	〇・二	〇・〇〇三	〇・二九一	〇・二七六
一〇	✳	一・〇	〇・〇〇八	〇・三〇二	〇・二八七
一〇	✳	一・〇	〇・〇〇八		
一一	✳	〇・二	〇・〇〇二	〇・三一一	〇・二九五
一二	✳	〇・四	〇・〇〇四	〇・三一〇	〇・三〇四
一二	✳	六・八	〇・〇四〇		

一		二六・二	〇・五二七	〇・一一三	〇・一〇七
二	✳	一六・八	〇・三二六	〇・一四二	〇・一三五
三	✳	三一・三	〇・三〇〇	〇・一六三	〇・一五五
四	✳	四・五	〇・一〇六	〇・一七九	〇・一七〇
五	✳	一六・二	〇・一八四	〇・一九三	〇・一八三
六	✳	二・〇	〇・〇四一	〇・二〇五	〇・一九五
六	✳	二・〇	〇・〇四一		
六	✳	六三・二	〇・二九八		
七	✳	八・五	〇・〇九九	〇・二一六	〇・二一〇五
八	✳	〇・九	〇・〇一九	〇・二二六	〇・二一五

九	※＋	九·二	〇·一〇六	〇·二三五	〇·二二三
	✳	四·五	〇·〇五三		
一〇	✳	〇·四	〇·〇〇八	〇·二四三	〇·二三一
	＊	〇·四	〇·〇〇八		
	※＊	三三·五	〇·一八〇		
一一	✳	一·八	〇·〇三二	〇·二五一	〇·二三八
一二	✳	〇·二	〇〇〇四	〇·二五九	〇·二四六
	※✻	三·五	〇〇四〇		

備考　米印ヲ附シタルモノハ二箇ノ氣筩ガ同時ニ點火スルモノナルコトヲ示ス

Mハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定スベシ

$$M = K\frac{10{,}000D^2S}{(6.24wb^2+WF^2)R^2}$$

Dハ氣筩ノ徑（粍ニテ）

Sハ行長（粍ニテ）

wハ「クランク」腕ニ附シタル釣合錘ノ重量（瓩ニテ）

bハ「クランク」腕ニ附シタル釣合錘ノ重心點ヨリ「クランク」軸ノ中心線ニ至ル距離（粍ニテ）

Wハ勢車ノ重量（瓩ニテ）

Fハ勢車ノ外徑（粍ニテ）

Rハ軸ノ毎分囘轉數

Kハ定數ニシテ前項ノ表ニ依ル

第百五十條　「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ推力軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百五十一條　「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ螺旋軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$dp = d + \frac{P}{C}$$

dpハ螺旋軸ノ徑（粍ニテ）

dハ第百四十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑（粍ニテ）

Pハ螺旋推進器ノ徑（粍ニテ）

Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

第一種螺旋軸ナルトキ	一四四
第二種螺旋軸ナルトキ	一〇〇

第百五十二條　船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル發電機又ハ空氣壓縮機ヲ動作スル發動機ノ「クランク」軸ノ寸法ハ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十八條ノ規定ニ依リ丙種機關トシテ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百五十三條　鍛鋼製中空軸ノ外徑ハ發動機及軸ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十七條、第百四十九條乃至第百五十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乘ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ內徑ガ外徑ノ三分ノ一未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

$$K = \sqrt[3]{\frac{1}{1-R^4}}$$

Rハ中空軸ノ內徑ヲ外徑ニテ除シタル商

第百五十四條　鍛鋼製推力軸ハ推力受臺ノ前部及後部ニ於テハ共ノ徑ハ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十六條、第百四十九條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

鍛鋼製螺旋軸ハ前部軸鍔ノ附近ニ於テハ共ノ徑ガ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十六條、第百四十九條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

第百五十五條　抗張力ガ不明ナル壓延黃銅製螺旋軸ノ徑ハ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十六條又ハ第百五十一條ノ規定ニ依リ算定シタル鍛鋼製第一種螺旋軸ノ徑ノ一・〇五倍以上ト爲スベシ

第百五十六條　軸鍔ヲ連結スル螺釘ノ軸鍔連結面ニ於ケル徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = 0.75\sqrt{\frac{D^3}{Nd_1}}$$

dハ螺釘ノ徑（粍ニテ）

Nハ螺釘ノ數

d_1ハ螺釘心圈ノ徑（粍ニテ）

Dハ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十六條又ハ第百四十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑（粍ニテ）

第百五十七條　船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第百四十三條乃至第百四十六條、第百五十一條又ハ第百五十五條ノ規定ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑ノ四倍未滿ト爲スコトヲ得ズ

船尾管後端ノ軸受上部ノ內面ト螺旋軸トノ間隙C（粍ニテ）ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

$$C=0.015\,d+2.5$$

（粍ニテ）

d ハ螺旋軸ノ該部分ニ於ケル被金上ノ徑

第百五十八條　發動機ノ電氣點火裝置ノ導線ハ完全ニ絕緣シタルモノニシテ損傷ヲ受クル虞ナク且油管、油槽又ハ油ト接觸セザル樣之ヲ敷設スベシ

整流子ハ之ヲ蔽圍スベシ

點火裝置ノ「コイル」ハ爆發性瓦斯ニ暴露スル虞アル場所ニ之ヲ備フルコトヲ得ズ

燃料油ノ點火又ハ氣化ノ爲燈ヲ使用スルトキハ之ヲ適當ナル臺ニ取附ケ且其ノ火焰ヲ蔽圍スベシ

第百五十九條　發動機ノ氣化器ハ發動機ノ停止シタル場合自働的ニ燃料ノ供給ヲ遮斷スル裝置ト爲スベシ

氣化器ガ油ノ溢出スル虞アルモノナルトキハ金網蓋ヲ有スル油受ヲ設ケ之ニ排油裝置ヲ備フベシ

氣筒ト氣化器トノ間又ハ氣化器ノ空氣吸入口ニハ成ルベク金網ノ隔膜ヲ備フベシ

第百六十條　第百四十二條及前二條ノ規定ハ補機動作用ノ發動機ニ之ヲ準用ス

第二節　油槽、油管及此等ニ附屬スル弁竝ニ「コツク」ニ付テハ本節ニ於テ特ニ規定シタルモノノ外第三章第十節ノ規定ヲ準用ス

第百六十一條　油槽、油管、潤滑油裝置等ニハ燃料油漏器二組ヲ備ヘ發動機ノ運轉中ト雖モ其ノ一組ヲ解放掃除シ得ル裝置ト爲スベシ

第百六十二條　發動機ニハ其ノ停止中ニ於テモ手動「ポンプ」其ノ他ノ適當ナル方法ニ依リ氣筒ノ噴油弁ニ燃料油ヲ供給シ得ル裝置ヲ設クベシ

長サ三〇米以上ノ船舶ノ發動機ノ燃料油管ニハ燃料油漏器二組ヲ備ヘ發動機ノ運轉中ト雖モ其ノ一組ヲ解放掃除シ得ル裝置ト爲スベシ

第百六十三條　重油管ニ非ザル油管ニハ適當ニ熱處理ヲ爲シタル引拔銅管ヲ用ヰ其ノ配置ハ伸縮ノ自由ヲ妨ゲザルモノト爲シ其ノ連結ハ金屬製ノ圓錐形又ハ球面形接合ト爲スベシ

第百六十四條　重油管ニハ成ルベク引拔鋼管ヲ用ヰ其ノ配置ハ伸縮ノ自由ヲ妨ゲザルモノト爲スベシ

噴油「ポンプ」ト氣筒トヲ連絡スル重油管ノ連結ハ成ルベク金屬製ノ圓錐形又ハ球面形接合ト爲スベシ

第百六十五條　燃料油管ハ容易ニ檢査スルコトヲ得且外部ヨリ損傷ヲ受クル虞ナキ樣敷設スベシ

第百六十六條　燃料油槽ハ之ヲ汽罐、汽管、廢氣管、消音器其ノ他ノ高熱物ヨリ適當ニ隔離シ其ノ弁又ハ「コツク」等ハ外部ヨリ損傷ヲ受クル虞ナキ安全ナル場所ニ取附クベシ

第百六十七條　油槽ノ開口ニハ容易ニ取外シ得ル堅牢ナル金網膜ヲ裝置スベシ

揮發油槽ニハ逃出弁ヲ備ヘ之ニ排氣管ヲ設ケ排氣管ハ甲板上ノ安全ナル場所ニ導キ其ノ端ヲ下方ニ屈曲シ內徑二五粍ヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ端ニ金網膜ヲ附スベシ

第百六十八條　燃料油槽ノ充油管ハ專用ノモノトシ成ルベク甲板上ニ達セシメ開口

部ハ堅牢ナル蓋ヲ以テ密閉シ得ルモノト爲スベシ

燃料油槽ニハ空氣管ヲ設ケ其ノ端ヲ暴露甲板上排氣ニ因ル危險ナキ場所ニ導キ且排氣ノ流通ヲ阻害シ又ハ波浪ノ浸入スル虞ナキモノト爲スベシ

第百六十九條　船體ノ一部ヲ成サザル燃料油槽ニハ排油裝置ヲ設ケ且內部ヲ檢査シ得ル樣檢査孔ヲ設クベシ

前項ノ油槽ニハ金屬製油受ヲ備ヘ之ニ排油裝置ヲ設クベシ

第百七十條　前三條ノ規定ハ小形油槽ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百七十一條　强壓ヲ受クル燃料油槽ノ强力ハ氣槽ノ强力ニ準ジ之ヲ算定スベシ

第百六十七條第二項ノ規定ハ前項ノ油槽ニ之ヲ準用ス

第百七十二條　相當ノ壓力ヲ以テ潤滑油ヲ循環セシムルコトヲ要スル發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ常用動力潤滑油「ポンプ」ノ外該「ポンプ」中最大能力ノモノト同等ノ能力ヲ有シ且遲滯ナク使用シ得ル配置ト爲シタル豫備動力潤滑油「ポンプ」ヲ備ヘ且油冷却器ヲ備フルトキハ二樣ノ冷却水送水裝置ヲ備フベシ

前項ノ豫備潤滑油「ポンプ」ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ手動「ポンプ」ト爲スモ妨ナシ

「クランク」室ヲ潤滑油溜トシテ使用スル「クランク」室密閉式發動機ニハ「クランク」室內ノ油ヲ隨時排出シ得ル裝置ヲ備ヘ木船ニ在リテハ此ノ排油ガ木製部分ヲ浸潤セザル樣裝置スベシ

前項ノ發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ潤滑油ノ清淨機又ハ漉器ヲ備フベシ

潤滑油管系ニハ適當ノ位置ニ潤滑油ノ流動狀況ヲ見易キ樣適當ノ裝置ヲ備フルカ又ハ壓力計ヲ備フベシ

第百七十三條　機關室及燃料油槽ヲ設置シタル區畫室ハ通風良好ナルモノト爲スベシ

第三節　廢氣裝置及空氣壓縮機

第百七十四條　廢氣管及消音器ハ循環水ニ依リ之ヲ冷却スルカ又ハ之ニ適當ナル防熱裝置ヲ施スベシ

消音器ハ容易ニ掃除シ得ルモノト爲スベシ

廢氣ノ浸入セザル樣裝置スベシ

廢氣管ノ端ヲ船外ノ水線附近ニ開放スルトキハ氣筒ニ水ノ侵入セザル樣裝置スベシ

前四項ノ規定ハ補機動作用發動機ニ之ヲ準用ス

第百七十五條　長サ三〇米以上ノ船舶ニシテ單働掃除空氣「ポンプ」、獨立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ其ノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル副掃除裝置ヲ備フベシ但シ獨立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」ヲ備フル場合ニ於テ該送風機又ハ「ポンプ」ガ其ノ動源ノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル他ノ動源ニ依リ容易ニ動作セラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百七十六條　空氣噴油式發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ全力運轉ニ必要ナル壓縮空氣ヲ供給シ得ル噴油用空氣壓縮機ノ外該壓縮機中最大能力ノモノノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル噴油用副空氣壓縮機ヲ備フベシ

二箇以上ノ發動機ノ廢氣ヲ一箇ノ消音器ニ導クトキハ停止セル發動機ノ氣筒內ニ廢氣ノ浸入セザル樣裝置スベシ

廢氣管ノ端ヲ船外ノ水線附近ニ開放スルトキハ氣筒ニ水ノ侵入セザル樣裝置スベシ

前四項ノ規定ハ補機動作用發動機ニ之ヲ準用ス

第百七十五條　長サ三〇米以上ノ船舶ニシテ單働掃除空氣「ポンプ」、獨立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ其ノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル副掃除裝置ヲ備フベシ但シ獨立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」ヲ備フル場合ニ於テ該送風機又ハ「ポンプ」ガ其ノ動源ノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル他ノ動源ニ依リ容易ニ動作セラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百七十六條　空氣噴油式發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ全力運轉ニ必要ナル壓縮空氣ヲ供給シ得ル噴油用空氣壓縮機ノ外該壓縮機中最大能力ノモノノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル噴油用副空氣壓縮機ヲ備フベシ

壓縮空氣ニ依リ始動スル發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ壓縮空氣ニ依ラズシテ始動シ且動力ニ依リ動作セラルル應急用空氣壓縮機ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ手動空氣壓縮機ト爲シ又ハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

第百七十七條　空氣壓縮機ノ壓縮筒ニハ安全弁又ハ逃出弁ヲ備ヘ各壓縮筒内ノ最大壓力ノ一・一倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル樣之ヲ調整スベシ

壓縮空氣ノ冷却器ハ容易ニ解放シテ檢査及掃除ヲ爲シ得ル構造ト爲スベシ

第四章　氣槽

第百七十八條　發動機ノ始動用氣槽ノ容量ハ計畫壓力ニ充氣シタル場合補充セズシテ引續キ十二回以上始動セシメ得ルモノナルコトヲ要ス但シ壓縮空氣ニ依ラズシテ推進器ヲ反轉セシメ得ル發動機ニ付テハ之ヲ半減スルコトヲ得

第百七十九條　空氣噴油式發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ噴油用氣槽ハ二箇以上トシ其ノ一箇ヲ使用セザルモ發動機ノ運轉ニ支障ナキ裝置ト爲スベシ但シ始動用氣槽ノ强力ガ噴油用空氣壓力ニ對シ充分ナルモノナルトキハ始動用氣槽ヲ以テ噴油用氣槽ノ全部又ハ一部ト爲スコトヲ得

第百八十條　氣槽ノ構造ニ關シテハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第三章第二節ノ規定ヲ準用ス

第百八十一條　氣槽ノ制限壓力ハ前條ノ規定竝ニ第百八十五條乃至第百八十八條ノ規定ニ依リ算定シタル氣槽各部ノ强力ニ對スル制限壓力中最小ノモノトス

第百八十二條　無接合筒形氣槽ノ胴板ノ第一號試驗片ニ依ル抗張試驗ニ於ケル標點間伸長百分率ハ第十六條第一號ノ表中其ノ他ノ鋼板ニ對スルモノヨリ二ヲ減ジタルモノト爲スコトヲ得

第百八十三條　氣槽ハ内部ノ檢査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ト爲スベシ

氣槽ニハ制限壓力及水壓試驗壓力ヲ適當ニ表示スベシ

氣槽ノ制限壓力ガ之ニ連絡スル空氣壓縮機ノ最大壓力ヨリ小ナルトキハ氣槽ニ適當ナル安全弁又ハ逃出弁ヲ備ヘ制限壓力ノ一・一倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル樣之ヲ調整スベシ

氣槽ニハ取扱者ノ見易キ位置ニ壓力計ヲ備フベシ

氣槽ニハ適當ナル排水裝置ヲ備ヘ成ルベク二重ニ排水弁又ハ排水「コック」ヲ設クベシ

氣槽ニ接續スル管ニハ槽ニ接續スル部分ニ於テ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第百八十四條　氣槽ハ其ノ各部ヲ瓦斯鑛接又ハ電氣鑛接ニ依リ接合スルコトヲ得ズ但シ制限壓力毎平方糎一〇瓩以下ニシテ鋼板ノ厚サ六粍以上ノモノニ付管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ鑛接スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ氣槽ノ縱接合ヲ鑛接シタルトキハ鏡板取附前檢査ヲ受クベシ

無接合氣槽又ハ鍛合若ハ瓦斯鑛接シタル氣槽ハ附屬具取附ノ爲ノ機械工事ヲ行フ前之ニ適當ナル熱處理ヲ爲スコトヲ要ス電氣鑛接シタル氣槽ニ付管海官廳ニ於テ必要ト認メタル場合亦同ジ

第百八十五條　無接合筒形氣槽又ハ鍛合若ハ鑛接シタル筒形氣槽ノ胴ノ强力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{C\times S\times(T-1.5)}{D}$$

P ハ制限壓力(毎平方糎瓩ニテ)
S ハ胴板ノ抗張力(毎平方粍瓩ニテ)
D ハ胴ノ内徑(粍ニテ)
T ハ胴板ノ厚サ(粍ニテ)
C ハ無接合氣槽ニ在リテハ五二、鍛合又ハ鑛接シタル氣槽ニ在リテハ三六

第百八十六條　筒形氣槽ノ支柱ヲ有セザル扁平鏡板ノ强力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{267S(T-1.5)^2}{D^2}$$

P ハ制限壓力(毎平方糎瓩ニテ)
D ハ鋲又ハ螺釘ヲ以テ鏡板ヲ胴ニ固著シタル場合ニハ鋲又ハ螺釘心圈ノ徑(粍ニテ)、平板ヲ胴ニ鑛接シタル場合ニハ胴ノ内徑(粍ニテ)
T ハ鏡板ノ厚サ(粍ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三粍ヲ減ジタルモノ
S ハ鏡板ノ抗張力(毎平方粍瓩ニテ)

第百八十七條　筒形氣槽ノ支柱ヲ有セザル皿形鏡板ノ强力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{233S(T-1.5)^2}{d^2}$$

P ハ制限壓力(毎平方糎瓩ニテ)
S ハ鏡板ノ抗張力(毎平方粍瓩ニテ)
T ハ鏡板ノ厚サ(粍ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三粍ヲ減ジタルモノ
d ハ鏡板ノ曲緣ノ彎曲ノ内半徑ガ鏡板ノ曲徑但シ曲緣ノ彎曲起點ヲ連ヌル圓ノ緣部ノ厚サノ二・五倍ヨリ大ナルトキハ胴ノ内徑ヨリ鏡板ノ曲緣部ノ厚サノ七倍ヲ控除シタルモノ(粍ニテ)

第百八十八條　筒形氣槽ノ内徑ヨリ大ナラザル半徑ヲ有スル球面狀ノ鏡板ニシテ支柱ヲ備ヘザルモノノ强力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P=\frac{C\times S\times(T-1.5)}{R}$$

P ハ制限壓力(毎平方糎瓩ニテ)
S ハ鏡板ノ抗張力(毎平方粍瓩ニテ)
T ハ鏡板ノ厚サ(粍ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三粍ヲ減ジタルモノ
R ハ鏡板球面ノ内半徑(粍ニテ)
C ハ鏡板ガ氣槽ノ外方ニ突出スルモノナルトキハ二五・七、内方ニ突入スルモノナルトキハ二〇・五

前項ノ鏡板ト胴トヲ接合スル爲曲緣シタル部分ノ彎曲内半徑ハ鏡板ノ厚サノ四倍未滿ナルコトヲ得ズ

第五節　排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置

第百八十九條　排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置ニ付テハ第九十九條、第百三條及第百四條ノ規定竝ニ本節ニ於テ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外第三章第七節ノ規定ヲ準用ス

第百九十條　發動機ノ冷却水ヲ船外ヨリ吸引スル管ニハ適當ナル芥除ヲ備ヘ且之ヲ解放又ハ掃除ヲ爲ス場合ニ於テモ當該發動機ヲ停止スルコトヲ要セザル裝置ト爲スベシ

冷却水又ハ冷却油ノ排出管ニハ溫度計ヲ備ヘ且成ルベク管内ノ流動狀況ヲ見得ル裝置ヲ設クベシ

冷却「ポンプ」ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テモ雜用「ポンプ」、淦水「ポンプ」等ヲ利

用シ遲滯ナク充分冷却水又ハ冷却油ヲ供給セシメ得ル樣裝置スベシ

氣筒二箇以上ヲ備フル發動機ニ在リテハ各氣筒ニ供給スル冷却水又ハ冷却油ノ量ヲ加減シ得ル裝置ヲ設クベシ

氣筒ノ水包室及冷却水管ノ最低部ニハ排水裝置ヲ備フベシ

前五項ノ規定ハ小形船ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

冷却水又ハ冷却油ハ冷却スベキ部分ノ成ルベク高キ箇所ヨリ之ヲ排出セシムベシ

第百九十一條　脚荷水「ポンプ」ハ機關室ノ淦水ヲ直接吸引シ得ル樣裝置スベシ

第六節　水壓試驗

第百九十二條　「ディーゼル」式發動機ノ氣筒、內筒、氣筒蓋、鑄造「ピストン」、氣筒高壓部ニ附屬スル諸弁匣又ハ噴油「ポンプ」ハ之ヲ製造シ創仕上ヲ爲シタルトキ左表ニ依リ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ內外全面ヲ創仕上ゲタル內筒ハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

水壓試驗執行部分

試驗壓力	摘要
氣筒ノ高壓部ニシテ行長ノ三分ノ一ニ相當スル間	氣筒內ノ最大壓力ノ一・五倍ノ壓力
氣筒蓋ノ高溫高壓ノ氣体ニ接觸スル部分	同右
「ピストン」ノ高溫高壓ノ氣体ニ接觸スル部分	同右
氣筒高壓部附屬諸弁匣	同右
「ピストン」ノ冷却部	毎平方糎四瓩
氣筒水包室、氣筒蓋ノ冷却部	毎平方糎二瓩
噴油「ポンプ」最大壓力ノ壓力	最大壓力ノ一・五倍

前項ノ規定ハ船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル發電機又ハ空氣壓縮機ヲ動作スル「ディーゼル」式發動機ニ之ヲ準用ス

第百九十三條　「ディーゼル」式發動機ノ噴油用又ハ始動用ノ空氣壓縮機ノ壓縮筒、壓縮筒蓋若ハ壓縮空氣弁匣ハ之ヲ製造シ創仕上ヲ爲シタルトキ空氣部ハ最大壓力ノ一・五倍、水部ハ毎平方糎二瓩ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

壓縮空氣冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ空氣部ハ該部ニ於ケル空氣ノ最大壓力ノ一・五倍、水部ハ該部ニ於ケル冷却水ノ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第百九十四條　潤滑油「ポンプ」、燃料油「ポンプ」又ハ冷却「ポンプ」ノ油筒、水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ創仕上ヲ爲シタルトキ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ

油冷却器又ハ清水冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ

第百九十五條　氣槽ハ左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

一　鉄接合又ハ無接合ノモノナルトキ　制限壓力ノ一・五倍ノ壓力

二　鍛合又ハ鑄接合ノモノナルトキ　制限壓力ノ二・〇倍ノ壓力

氣槽ニ附屬スル弁若ハ「コック」、氣槽ニ連絡スル空氣管又ハ之ニ附屬スル弁若ハ「コック」ハ之ヲ製造シ仕上ゲタルトキ制限壓力ノ一・五倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第百九十六條　燃料油槽ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘頂板上二・五米ヨリ少カラザル高サニ相當スル水高壓

力ヲ以テ試驗スベシ但シ强壓油槽ノ試驗壓力ハ油槽ノ常用壓力ノ二倍トス

第百九十七條　機關室內ニ在ル燃料油管系ハ噴油管系ヲ除クノ外船內取附後毎平方糎二瓩ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ

第百九十八條　燃料油加熱用蒸汽管ハ船內取附後常用最大汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第百九十九條　第百二十一條及第百二十二條ノ規定ハ發動機ヲ備フル船舶ニ付之ヲ適用ス

第七節　補汽罐

第二百條　補汽罐ノ構造、附屬品、給水裝置其ノ他ニ付テハ蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ補汽罐ニ關スル規定ヲ適用ス但シ發動機ノ廢氣ニ依リ加熱スル補汽罐ノ安全弁ノ面積ノ算定ニ當リテハ第七十八條第一項ノ算式中定數Kハ三・三ト爲スベシ

第五章　艤裝品及備品

第二百一條　艤裝品ハ其ノ用途ニ應ジ適當ニ之ヲ構造スルコトヲ要ス

管海官廳必要アリト認ムルトキハ艤裝品ニ付適當ノ試驗ヲ執行スルコトアルベシ

第二百二條　備品ハ左表ニ依リ之ヲ機關室又ハ船內適當ノ場所ニ備フベシ

蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ機關備品表

名稱	航行區域	遠洋區域	近海區域	沿海區域	平水區域	摘要
「ピストン」環		各一組	同上	同上	同上	
「ピストン」發條		各一組	同上	同上	同上	同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組ニ止ムルコトヲ得
「ピストン」抑環螺釘及母螺		六箇	同上	三箇	同上	
滑弁桿		各形一箇	同上	同上	同上	
偏心器桿		各形一箇	同上	同上	同上	
連接桿上下ノ栓受金		一桿分	同上	同上	同上	
連接桿上下ノ螺釘及母螺		一桿分	同上	同上	同上	
「クランク」軸受螺釘及母螺		各種一組	同上	同上	同上	
「ローター」軸受金		各形一組	同上	同上	同上	廢汽「タービン」用ナルトキハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
「ローター」軸受螺釘及母螺		各種一組	同上	同上	同上	
減速裝置軸受金		各形一組	同上	同上	同上	
減速裝置ノ軸受螺釘及母螺		各種一組	同上	同上	同上	
「ローター」推力受		各「タービン」ニ付一組	同上	同上	同上	

「ローター」軸ノ汽密環及發條	各塡座毎ニ半組	同	上	1	1	同右	
接軸鍔螺釘及母螺	各種一組	同	上	1	1	同右	
單環式推力軸推力受	片面分	同	上	1	1		
復水器管	總數ノ四十分ノ一但シ最少十本	同	上	1	1		
復水器管塡筒	總數ノ三十分ノ一但シ最少三十箇	同	上	1	1		
抽氣「ポンプ」桿	一箇	同	上	1	1	扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ	
抽氣「ポンプ」弁	一組	同	上	1	1		
循環水「ポンプ」桿	一箇	同	上	1	1	扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ	
循環水「ポンプ」弁	一組	同	上	1	1		
給水「ポンプ」弁	一組	同	上	1	1		
淦水「ポンプ」弁	一組	同	上	1	1		
潤滑油「ポンプ」弁及發條	一組	同	上	1	1		
逃出弁發條	各種一箇	同	上	1	1		
給水制限弁	一組	同	上	1	1	汽罐四箇以上ナルトキハ更ニ一組增備スベシ	
安全弁發條	各罐ニ付一箇	同	上	1	1	同形ニシテ相轉用シ得ルモノナルトキハ三箇ニ止ムルコトヲ得	

火床棧	總數ノ五分ノ一	同	上	總數ノ十分ノ一但シ最少四箇	同	上	汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得
燃油裝置用噴油器	各罐ニ付一箇	同	上	同	上	1	
微粉炭燃燒裝置用噴炭器	各罐ニ付一箇	同	上	上	1	1	
微粉炭燃燒裝置用碎炭具	一組	同	上	上	1	1	
示面計硝子管	各罐ニ付四箇	同	上	六箇	三箇		
管擴器	一箇	同	上	同	上	1	
管塞器	各罐ニ付四箇	各罐ニ付二箇	四箇	二箇	1	1	中半數ハ汽罐前面ニ於テ直ニ使用シ得ルモノナルコトヲ要シ水管汽罐ニハ管塞栓ヲ上記ノ倍數備フベシ汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得
滑車及綱	二組	一組	組	1	1		
螺旋切道具	一組	同	上	1	1		
鐵孔器	一組	同	上	1	1		
罐	一箇	同	上	1	1		
金敷	一箇	同	上	1	1		
揚附萬力	一箇	同	上	1	1		
鋼板	各種若干	同	上	1	1		

鋼棒	各種若干	同	上			
螺釘及母螺	各種若干	同	上	同	上	
機關室小道具	一	揃	同	上	同	上
驗塩器	二	箇	同	上	一	箇
溫度計	二	箇	同	上	一	箇

備考　汽機又ハ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ「ピストン」環乃至逃出弁發條ハ之ヲ汽機又ハ「ポンプ」一箇分ニ止ムルコトヲ得

發動機ヲ備フル船舶ノ機關備品表

名稱	航行區域 遠洋區域	近海區域	沿海區域	平水區域	摘要
氣筒蓋弁其ノ他ノ附屬品ノ完備セルモノ	各形一組	同	上	一	長サ五〇米以上ノ船舶ニ備フル「ディーゼル」式發動機ニ限ル
「ピストン」完備セルモノ	一	組	同	上	一	同右
「ピストン」環	二	組	一	組	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	一
噴油弁座、弁匣、發條弁其ノ他附屬品ノ完備セルモノ	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	上	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	一	中半數ハ弁、弁座及發條ノミニ止ムルコトヲ得 複働式ナルトキハ上記ノ倍數トス
吸氣弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	上	一	組	一	同右
廢氣弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ	氣筒一箇毎ニ一組	同	上	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	一	同右
噴油管及接合金具	一	揃	同	上	一	無空氣噴油「ディーゼル」式發動機ニ限ル
「ピストン」冷却用伸縮嵌合管又ハ搖動管	一	組	同	上	一	一
主軸受螺釘及母螺	一	組	同	上	一	一
連接桿上下ノ栓受金	一	桿	分	同	上	一
連接桿上下ノ螺釘及母螺	一	桿	分	同	上	同上
接軸鍔螺釘及母螺	各種	一	組	同	上	一
正副空氣壓縮機ノ壓縮筒ノ「ピストン」環	各	形	一	組	同	上	一
正副空氣壓縮機ノ吸入弁及排出弁並ニ發條	各	形	半	組	同	上	一
掃除空氣「ポンプ」弁及發條	一	組	同	上	一	一
噴油「ポンプ」ノ動作部	氣筒一箇毎ニ一氣筒分	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	一氣筒分	氣筒五箇以上ナルトキハ氣筒四箇分ニ止ムルコトヲ得
氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等ノ冷却「ポンプ」ノ扇車軸	一	箇	同	上	一	一

氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等ノ冷却「ポンプ」ノ弁及發條	各形二組	同	上	一	組	同
潤滑油「ポンプ」ノ弁及發條	一	組	同	上	同	上
移油「ポンプ」ノ弁及發條	一	組	同	上	同	上
淦水「ポンプ」弁	一	組	同	上	同	上
燒球	氣筒一箇毎ニ一箇	同	上	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇	同	上
點火栓	氣筒一箇毎ニ一箇	同	上	同	上	同
電池	常用ト同數	同	上	常用ノ半數	同	上
電線	若干	同	上	常用ノ外	箇	同
始動用燈	常用ノ外二箇	同	上	常用ノ外一箇	同	上
滑車及綱	二組	一組	同	上	同	上
螺旋切道具	一組	同	上	同	上	同
鑽孔器	一組	同	上	同	上	同
鞴	一箇	同	上	同	上	同
金敷	一箇	同	上	同	上	同
捩附萬力	一箇	同	上	同	上	同
鋼板	各種若干	同	上	同	上	同

鋼棒	各種若干	同	上	同	上	同
螺釘及母螺	各種若干	同	上	同	上	同
機關室小道具	一揃	同	上	同	上	同
溫度計	二箇	同	上	一箇	同	上

備考　發動機又ハ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ氣筒蓋乃至點火栓ハ之ヲ發動機又ハ「ポンプ」一箇分ニ止ムルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

◉遞信省令第十一號（官報號外）

造船規程中第二編ヲ削除シ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和九年二月一日

遞信大臣　南　弘

◉遞信省令第十四號

危險物船舶運送及貯藏規則左ノ通定ム

昭和九年二月五日

遞信大臣　南　弘

危險物船舶運送及貯藏規則

第一條　船舶ニ依ル危險物ノ運送又ハ船舶ノ常用危險物ノ貯藏ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル但シ船舶ノ全部ヲ以テ軍事輸送ノ用ニ供スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

船舶ノ常用危險物ノ範圍ニ付テハ開港港則施行規則第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二條　本令ニ於テ危險物トハ別表第一號表ニ定ムルモノヲ謂ヒ火藥類トハ同表第一號乃至第八號ニ掲グルモノヲ謂フ

第三條　火藥類ヲ貨車積ソ𥡴鐵道運絡ノ爲船舶ニ積ミ運送ヲ爲ス場合ニハ第二十一條及之ニ基ク第二十七條ノ罰則ノ規定ヲ除クノ外本令ヲ適用セズ火藥類鐵道運送規程ニ依ル

第四條　危險物ノ荷送人ハ危險物ノ容器及包裝ニ關シテハ別表第二號表ニ定ムル所ニ依ルベシ但シ陸海軍ノ託送ニ係ルモノハ其ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得

船長ハ危險物ノ積付ノ方法及場所ニ關シテハ別表第二號表ニ定ムル所ニ依ルベシ

第五條　危險物ノ荷送人ハ危險物ノ容器又ハ包裝ノ外部見易キ所ニ品名（火藥類ニ在リテハ火藥、爆藥、火工品及普通火工品ノ別）ヲ朱記シ又ハ朱記シタル標札ヲ附シ且取扱上ノ注意事項ヲ表示スベシ

第六條　火藥類ハ其ノ容器、包裝及內容ノ表示ニ關シ前二條ノ規定ニ依リタルモノニ非ザレバ之ヲ船積スルコトヲ得ズ

火藥類ノ荷送人ガ銃砲火藥類取締法施行細則ノ規定ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受クベキ場合ニ於テハ船長ガ其ノ許可

證ヲ檢閲シタル後ニ非ザレバ之ヲ船積スルコトヲ得ズ

第七條　危險物ヲ外國ニ於テ船積シ又ハ外國ニ於テ船積シタル危險物ヲ日本ニ於テ積換フルトキハ其ノ容器、包裝及內容ノ表示ニ關シ第四條及第五條ノ規定ヲ適用セズ

第八條　火藥類(普通火工品ヲ除ク)ハ管海官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ遞信大臣ノ認定シタル積荷ノ檢定ヲ行フ公益法人ノ檢定ヲ經タルトキニ限リ之ヲ火藥庫以外ノ場所ニ積藏スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ附錄書式ノ申請書二通ヲ船積地ニ在ル管海官廳ニ提出シ當該官廳ノ指定スル所ニ從ヒ手數料ヲ納付スベシ但シ官廳又ハ公共團體ノ申請ニ係ルモノニ付テハ手數料ヲ徵收セズ

手數料ハ當該官吏ノ臨檢一回毎ニ三十圓トス

手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

手數料ハ申請者ノ都合ニ依リ其ノ申請ヲ取下ゲタルトキト雖モ當該官吏ガ船舶ニ臨檢シタル後ナルトキハ之ヲ徵收ス

第九條　管海官廳ハ前條ノ申請アリタルトキハ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシメ申請ヲ適當ト認ムルトキハ申請書ノ一通ニ許可ノ奧書ヲ爲シ許可ヲ爲シタル年月日及官廳名ヲ記載シ官廳印ヲ押捺シ之ヲ申請者ニ還付ス

第十條　積荷ノ檢定ヲ行フ公益法人第八條第一項ノ認定ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

一　積荷ノ檢定ニ關スル規則

二　手數料及旅費ニ關スル規則

三　積荷檢定員ノ氏名及履歷

遞信大臣ノ認定ヲ受ケタル積荷ノ檢定ヲ行フ公益法人積荷檢定員ヲ選任セントスルトキ又ハ前項第一號若ハ第二號ニ揭グル規定ヲ變更セントスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クベシ

遞信大臣ハ第八條第一項ノ認定ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ認定ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十一條　甲板ヲ有セザル船舶旅客ヲ搭載スルトキハ火藥類ヲ船積スルコトヲ得ズ

甲板ヲ有スル船舶ト雖モ旅客ヲ搭載スルトキハ雷酸塩(雷汞ノ類)其ノ他ノ起爆劑及爆藥ヲ裝塡シタル火工品ヲ船積スルコトヲ得ズ但シ陸海軍ノ託送ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　湖川港內ニ於テ火藥類ノ船積若ハ陸揚ヲ爲ス船舶又ハ火藥類ヲ積藏シ湖川港內ニ於テ航行、碇泊若ハ繫留セントスル船舶ハ船積地、陸揚地、發航地、碇泊地又ハ繫留地ヲ管轄スル警察官署ニ其ノ品名及數量竝ニ其ノ日時及場所ヲ屆出ヅベシ

前項ノ規定ハ船舶ノ常用火藥類ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十三條　石油類ヲ積藏スル船舶ハ他ノ船舶、機關室、石炭庫、軸路、旅客室、船員室又ハ料理室等ニ其ノ發生ガスヲ漏洩セシメザル水密隔壁其ノ他ノ設備ヲ有シ且該船舶ノ換氣管ハ二重細目金網製覆ヲ施シタルモノナルコトヲ要ス

石油類ヲ積藏シタル船舶內ノ電線ニハ電流ヲ通ズルコトヲ得ズ但シ船舶設備規程

第二百六條ノ規定ニ依ル電氣設備ヲ有スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條　危險物ノ積藏、船積又ハ陸揚中ノ船舶ニ於テハ危險ヲ及ボス惧アル修繕工事ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條　火藥類ハ旅客ノ乘船又ハ下船ト同時ニ船積又ハ陸揚ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條　火藥類ヲ船積、陸揚又ハ荷繰スルトキハ之ヲ投下シ又ハ激突セシムベカラズ

第十七條　銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號ニ揭グル以外ノ火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外日沒ヨリ日出迄ノ間ニ於テ之ヲ船積、陸揚又ハ荷繰スルコトヲ得ズ

第十八條　危險物ノ船積若ハ陸揚ヲ爲ス場所又ハ之ヲ積藏シタル場所ニ於テハ裸火若ハ燐寸其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帶シ、鐵釘ヲ附シタル靴類ヲ穿チ又ハ喫煙スルコトヲ得ズ

第十九條　火藥類及石油類其ノ他可燃ガスヲ發スル危險物ヲ積藏シタル船舶ニ於テハ安全燈ヲ除クノ外懷中電燈其ノ他ノ燈火ヲ使用スルコトヲ得ズ又當該船舶ノ開閉ニ當リ金槌等ヲ使用スル場合ハ火花ヲ發セザル樣適當ナル措置ヲ講ズベシ

第二十條　危險物ノ船積又ハ陸揚作業ヲ中止又ハ完了シタルトキハ直ニ火藥庫又ハ船舶ヲ閉鎖スベシ

第二十一條　銃砲火藥類取締法施行規則第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ベキ數量ヲ超過スル火藥類ヲ積藏スル船舶湖川港內ニ於テ航行、碇泊又ハ繫留スルトキハ晝間ハ赤旗ヲ夜間ハ紅燈一箇ヲ檣頭其ノ他見易キ場所ニ揭グベシ但シ船舶ノ常用火藥類及第二十四條ニ揭グル火藥類ノミヲ積藏スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　船舶ニハ其ノ常用外ノ火藥類ヲ貯藏スルコトヲ得ズ但シ業務用トシテ貯藏スル場合又ハ銃砲火藥類取締法施行細則ノ規定ニ依リ繫留船若ハ倉庫船ニ貯藏スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　旅客ハ火藥類ヲ携帶シテ乘船スルコトヲ得ズ但シ船長ノ許可ヲ得テ少量ノ銃用火藥類及玩具用普通火工品ヲ携帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條　銃用實包、銃用空包、銃用雷管、爆管、信管、門管、緩燃導火線、濕藥(箱內ノ火藥又ハ爆藥ヲ爆發ノ危險ナキニ至ル迄十分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕藥ト明記シタルモノ)、芳香系列ノ硝化物又ハ之ヲ主トスル混和物ニシテ起爆劑ヲ附セザルモノ、硝酸アンモニアヲ主トスル爆藥中ニトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有セザルモノニシテ起爆劑ヲ附セザルモノ、煙火及玩具用普通火工品ニハ第十一條及第十五條ノ規定ヲ適用セズ

第二十五條　船長ハ船舶ニ積藏シタル貨物ガ本令ニ違反シタル惧アリト認ムルトキハ何時ト雖モ證人立會ノ上之ヲ開封シテ檢査スルコトヲ得

第二十六條　管海官廳又ハ警察官署ハ危險物ノ運送及貯藏ニ關シ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシメ且危險豫防ノ爲必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條　船舶所有者又ハ船長第六條、第十一條乃至第十五條、第十七條、第二十

一條又ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　第十八條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第四條、第五條又ハ第二十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　地方長官ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ船舶ニ依ル危險物ノ運送及貯藏ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

第三十一條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條　明治四十四年四月遞信省令第九號火藥類船舶運送及貯藏規則ハ之ヲ廢止ス

第三十三條　第三十條ニ掲グル規定ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ同條ニ依ル遞信大臣ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

附錄書式

火藥類火藥庫外積藏許可申請書

一　船種、船名
二　國籍、船籍港
三　船舶所有者名
四　船積港、發航日時及陸揚港
五　積藏火藥類ノ品目及數量
六　積藏場所及其ノ證備
七　積合セ貨物ノ品目及數量

右火藥庫外積藏許可相成度危險物船舶運送及貯藏規則第八條ニ依リ及申請候也

年　月　日

申請人　船舶所有者又ハ船長
住　所(所在地)
氏　名(名稱)

管海官廳宛

別表

第一號表

一　雷酸塩類其ノ他ノ起爆劑
（雷汞、雷銀、雷酸カドミニウム、窒化鉛、硫化窒素、ヂアゾベークロレート等白色、灰色又ハ黄色樣物質ニシテ爆藥ノ起爆劑ニ應用セラレ爆發力强大ナルモノ）

二　爆藥類ヲ裝塡シタル火工品
（爆藥ヲ裝塡シ又ハ加工シタル彈丸又ハ信管類ニシテ摩擦、動搖又ハ衝擊ニ對シ危險度大ナルモノ）

三　硝酸塩混合火藥類
（硝石ヲ主劑トセル粉狀、粒狀、扁平、圓柱、六稜等ノ緩性火藥類ニシテ摩擦、動搖又ハ衝擊ニ對シ危險ナルモノ）

四　硝基化合火藥類
（硝酸エステル、ニトロ化合火藥類ヲ指稱シニトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥及綿藥、芳香系列ノ硝化物及之ヲ主トスル混和物等ニシテ各種ダイナマイト類、トリニトロトルオール、トリニトロフェノール、テトリール等之ニ屬ス）

五　塩素酸塩爆藥
（綿藥又ハニトログリセリンヲ含有スルモノハ自然發火ノ危險アルヲ以テ溫度及通風ニハ特ニ注意ヲ要スベキモノ）

六　過塩素酸塩爆藥
（スプレンゲル氏火藥、塩斗藥等ニシテ自然發火ノ惧アルヲ以テ溫度及通風ニ注意ヲ要スベキモノ）

七　火工品
（カリソナイト、カーリット等）
（爆藥ヲ裝塡又ハ加工シタル火工品中比較的安全ナルモノニシテ雷管、爆管、門管、銃用實包、銃用空包等）

八　普通火工品
（緩燃導火線、發雷信號、信號焰管、星火ヲ發スル榴彈、火箭等ノ煙火類似品、打上煙火、ベンガリー煙火、線香花火等ノ玩具用普通火工品）

九　塩素酸塩類
（塩素酸カリ、塩素酸ソーダ、塩素酸バリウム等ニシテ無色結晶体ヲ成シ酸化力極メテ强ク分解スルトキハ酸素ガスヲ多量ニ放出シ衝擊又ハ摩擦ニ因リ發火シ他ノ可燃体ト混ズルトキハ其ノ程度特ニ著シキモノ）

十　過塩素酸塩類
（過塩素酸アンモン、過塩素酸カリ、過塩素酸ソーダ等ニシテ白色結晶体ヲ成シ其ノ性質塩素酸塩類ニ同ジ）

十一　ニトロ染料類
（ピクリン酸ノ如ク爆發性ヲ有スルモノ）

十二　黄燐類
（帶黄白色蠟狀物質ニシテ空氣ニ接スル時ハ黄綠色ノ焰ヲ發スル有毒物）

十三　金屬ナトリウム
（銀白色ノ軟金屬ナリ水ニ接スルトキハ反應强烈ニシテ燃燒シ苛性ソーダヲ生ズルモノ）

十四　金屬カリウム
（銀白色ノ軟金屬ナリ水ニ接スルトキハ反應强烈ニシテ燃燒シ苛性カリヲ生ズルモノ）

十五　燐化カルシウム
（黄燐、石灰、木炭ヲ原料トシテ製造シタル褐色固体ニシテ水ニ接スルトキハ燐化水素ヲ生ジ自然發火スルモノ）

十六　硫化燐
（白色又ハ黄色結晶樣物質ニシテ硫黄ヲ含有スルヲ以テ自然發火スルモノ）

十七　過酸化ソーダ　（帶黃色ノ粉末ニシテ空氣中ノ濕氣ヲ吸收發熱シ有機質ノ混在ニ因リ發火スルモノ）

十八　過酸化バリウム　（白色ノ粉末ニシテ空氣中ノ濕氣ヲ吸收發熱シ有機質ノ混在ニ因リ發火スルモノ）

十九　カーバイド　（白色又ハ灰色ノ塊狀ヲ成シ濕氣ニ接スルトキハ非常ニ燃燒シ易キアセチレンガスヲ發生スルモノ）

二十　晒粉　（塩素ガスヲ消石灰中ニ吸收セシメタル白色粉末ニシテ團塊ヲ成スコトアリ塩素類ニ類似セル强烈ナル刺戟性ノ臭氣トガスヲ發散スルモノ）

二十一　マグネシウム粉末　（銀色粉末ニシテ空氣中ノ濕氣ヲ吸收シテ發熱シ自然發火スルモノ）

二十二　ニトロセルローズ及其ノ製劑　（ニトロセルローズハセルロイド、コロヂオン等ノ原料ニシテ植物纖維素ヲ濃厚硝酸、硫酸混液ニ因リ硝化セルモノヲ謂ヒ燃燒極メテ早ク摩擦又ハ日光等ニ依リ發火ス）（其ノ製劑コロヂオンハニトロセルローズヲアルコール、エーテルノ混和液又ハアセトンニ溶解セル無色透明粘稠ノ液ニシテ容易ニ引火シ燃燒スルモノ）

二十三　セルロイド　（無色透明ナルモ之ニ顏料ヲ混ジタルモノアリ樟腦ノ香氣ヲ有シ彈力アル固体ニシテ燃燒シ易キモノ）

二十四　硝石類　（硝石、智利硝石等ニシテ白色結晶体ヲ成シ酸化力强ク容易ニ酸素ヲ放出シ發火スルモノ）

二十五　油紙油布類　（亞麻仁油等ノ乾燥性油ニ不乾燥性油及動植物油ヲ混ジ塗布シタル防水紙又ハ防水布ニシテ油類ノ自己酸化ニ因リ發火スルモノ）

二十六　酸類　發煙硫酸（硫酸中ニ無水亞硫酸ヲ吸收セシメタルモノニシテ硫酸ニ比シ危險度高キモノ）

強硫酸（油狀ノ液ニシテ酸化力强ク有機質、無機質ヲ酸化シ高熱ヲ生ジ自然發火スルモノ）

發煙硝酸（硝酸中ニ大硝酸ヲ吸收セシメタルモノニシテ硝酸ニ比シ危險度高キモノ）

強硝酸（無色又ハ黃褐色ノ液ニシテ强キ酸性ヲ有シ有機質ヲ酸化シ自然發火スルモノ）

二十七　二硫化炭素　（無色又ハ帶黃色ノ液体ニシテ揮發シ易ク不快臭アリ空氣ト混ズルトキハ爆發性ヲ有シ攝氏零下二十度ニ於テ引火スルモノ）

二十八　石油類　第一種石油、第二種石油（未製石油及其ノ蒸溜產物又ハ變成石油ニシテアベール又ハペンスキー閉鎖發焰試驗器ヲ用ヒ七百六十ミリメートルノ氣壓ニ於テ攝氏二十一度未滿ノ溫度ニテ發焰スルモノヲ第一種石油トシ二十一度以上七十度未滿ノ溫度ニテ發焰スルモノヲ第二種石油トス）

二十九　可燃性液体類　（エーテル、メタノール、ベンゾール、トルオール、ソルベントナフサ、アルコール、アセトン、キシロール、テレビン油、アミールアルコール、ブチールアルコール、芳香系列ノ炭化水素等）

三十　壓縮ガス及液化ガス類　アセチレンガス（カーバイドニ水ヲ作用セシメテ生ズル無色ガスニシテ爆發シ易キモノ）

油ガス　（石油類ヲ分解シテ得ラルル下級炭化水素ヲ含有スルモノニシテ燈用ガスナリ）

水素ガス　（無色無臭ノ輕キガスニシテ酸素ト混合スルトキハ爆發スルモノ）

硫化水素ガス　（硫化物ニ酸ヲ作用セシメテ得ラルルモノニシテ空氣又ハ酸素ト混合シタル場合火氣ヲ近ヅクルトキハ容易ニ爆發スルモノ）

一酸化炭素ガス　（炭素ノ不完全燃燒ニ因リ生ズルモノニシテ酸素又ハ空氣ト混合シ火花ニ依リ爆發スルモノ）

石炭ガス　（石炭ヲ乾溜シテ得ラルルガスニシテ空氣中

亞硫酸ガス
天然ガス
百分ノ八乃至二十三ヲ混ズルトキハ爆發性ヲ具備スルモノ）
（石油地帶等ニ天然ニ噴出スルガスニシテ空氣ト混ズルトキハ爆發スルモノ）
（無色ニシテ稍臭氣アリ熱シタル金屬類ヲガス中ニ投ズルトキハ發火スルモノ）
アンモニアガス
（特有ノ刺戟臭アルモノニシテ鹽素ガス又ハ沃度ト混ズルトキハ爆發スルモノ）
鹽素ガス
（刺戟臭ヲ有スル重キ黃色ガスニシテ腐蝕性大ナルモノ）
酸素ガス
（無色ニシテ化合力强キモノ）
窒素ガス
（無色ニシテ化合力弱キモノ）
炭酸ガス
（無色ニシテ僅カニ刺戟性アリ消火力大ナルモノ）
亞酸化窒素ガス
（無色無臭可燃性ニシテ水素ニ混ズルトキハ引火爆發スルモノ）

第二號表

番號	類名	品名	容器施封法	包裝法	積付ノ方法及場所
一	雷酸塩類其ノ他ノ起爆劑	雷汞	雷酸塩類ハ清水ヲ滿タセル木製容器ニ收納シ其ノ他ノ起爆劑ハ亞鉛、銅、アルミニウム等ノ罐、厚紙箱、布袋、紙袋、木箱、フアイバー器等ニ收容シ內容物ノ動搖ヲ豫防シ密封スル	木製容器ニ收容シ摩擦、動搖又ハ衝擊ヲ豫防シ得ル樣適當ノ方法ヲ講ズ	火藥庫ニ積藏スルコト
		窒化鉛	其ノ他ノ起爆劑ハ亞鉛、銅、アルミニウム等ノ罐、厚紙箱、布袋、紙袋、木箱、フアイバー器等ニ收容シ內容物ノ動搖ヲ豫防シ密封スル	木箱ノ板ハ乾キタル杉、松、檜適當ノ方法ヲ講ズ	
				木箱ノ板ハ厚サ一・三糎以上ノ釘又ハ沈頭木螺ニテ適當ノ間隔ヲ以テ釘附スル場合ハ箱ノ兩棧側ニハ厚サ一・五糎以上幅二・〇糎以上ノ棧ヲ附シ又ハ〇・九糎以上ノ提繩ヲ附シ外部ニ露出セザルコトトス	
			板ノ厚サハ各部共一・三糎以上トシ釘ハ長サ二・〇糎以上ニシテ適當ノ間隔ヲ以テ打込ミ蓋ハ長サ三・〇糎以上ノ釘又ハ沈頭木螺ニテ適當ノ間隔ヲ以テ釘附スル場合ハ箱ノ兩棧側ニハ厚サ一・五糎以上幅二・〇糎以上ノ棧ヲ附シ又ハ〇・九糎以上ノ提繩ヲ附シ外部ニ露出セザルコトトス		

二	爆藥類ヲ裝塡シタル火工品	彈丸、信管	第一號ニ掲グル其ノ他ノ起爆劑ニ同ジ但シ形狀ノ巨大ナルモノニ在リテハ摩擦、動搖又ハ衝擊ヲ豫防シ得ル樣方法ヲ講ズ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
三	硝酸塩混合火藥類	黑色有煙火藥	亞鉛、銅、アルミニウム、ブリキ製等ノ罐、厚紙箱、布袋、紙袋、木箱、フアイバー器等ニ收容シ內容物ノ動搖ヲ豫防シ密封スル	木箱又ハ之ト同等以上ノ强度ヲ有スル金屬罐、フアイバー製箱ニ收容シ內容物ノ動搖ヲ豫防シ得ル樣適當ノ處置ヲ施ス	右ニ同ジ
		褐色有煙火藥		木箱ノ構造ニ付テハ右ニ同ジ	
四	硝基化合火藥類	綿藥	黑色有煙火藥ニ同ジ但シ水密セルモノハ濕水セザル樣金屬罐ニ收容ス	黑色有煙火藥ニ同ジ	右ニ同ジ
		無煙火藥	黑色有煙火藥ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
		ダイナマイト類	紙包ト爲シ內箱ニ納ム但シ硝酸アンモン等吸濕性强キモノハ防水紙等ヲ以テ密容シ防濕ノ上內箱ニ收容ス	右ニ同ジ	右ニ同ジ
		其ノ他芳香系列ノ硝化物	ピクリン酸黑色有煙火藥ニ同ジ但シピクリン酸ノ如ク金屬ト化合シテ爆發性塩類ヲ合成スルモノニ在リテハ作用セザル金屬ヲ採用スルコト	右ニ同ジ	右ニ同ジ
五	塩素酸塩爆藥	スプレンゲル氏火藥ノ類	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
六	過塩素酸塩爆藥	カーリット	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ

七	火工品	雷管、爆管、門管	内容物ノ動搖ヲ豫防シ得ル樣適當ノ處置ヲ施シ内箱ニ納ム	右ニ同ジ	右ニ同ジ
八	普通火工品	綬燃導火線、煙火、煙火類似品及玩具用普通火工品	内容物ノ動搖ヲ豫防シ得ル樣適當ノ處置ヲ施シ木箱ニ納ム		中甲板又ハ上甲板積ト爲スコト
九	塩素酸塩類	塩素酸カリ、塩素酸ソーダ、塩素酸バリウム	完全ナル罐詰ト爲ス但シ塩素酸カリハ罐詰ト爲サザルコトヲ得	木樽又ハ木箱入トス	右ニ同ジ
十	過塩素酸塩類	過塩素酸カリ、過塩素酸ソーダ、過塩素酸アンモン	完全ナル罐詰ト爲ス但シ過塩素酸カリハ罐詰ト爲サザルコトヲ得	右ニ同ジ	右ニ同ジ
十一	ニトロ染料類	ピクリン酸、ジニトロナフタリン	陶器、磁器、純錫器、純アルミニウム器、硝子器、木器等ニ收容シ完全ナル罐詰ト爲ス	右ニ同ジ	上甲板積ト爲スコト
十二	黄燐類	黄燐	完全ナル罐詰ト爲ス	右ニ同ジ	成ルベク中甲板積ト爲スコト
			正味五百瓦未滿ノ場合ハ木箱ニ入レ壜ノ周圍ニ鋸屑、鉋屑、細砂、藥ノ類ヲ塡充スコト	完全ナル木箱入トス	上甲板積ト爲スコト
		赤燐、石膏、封蠟ノ類ニテ嚴封ス	正味五百瓦以上ノ場合ハ水ヲ充タセル石膏、封蠟ノ類ニテ嚴封ス		

		封ス但シ一罐ノ正味二十五瓩ヲ超ユルコトヲ得ズ	
十三	金屬ナトリウム	石油類ヲ入レタル硝子壜又ハブリキ罐ニ入レ密封シ更ニ完全ナル罐ニ嚴封ス	完全ナル木箱入トス	右ニ同ジ
十四	金屬カリウム	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
十五	燐化カルシウム	共口硝子壜ニ入レ石膏、封蠟ノ類ニテ密封シ更ニ之ヲブリキ罐ニ納メ其ノ間隙ニハ鋸屑、鉋屑、藥ノ類ヲ塡充シ螢ノ合目ハ目張ヲ施ス	木箱ニ入レ鋸屑、鉋屑、藥ノ容易ニ取出シ得ベキ通風良好ナル場所ヲ選ビ且水又ハ濕氣トノ接觸ヲ防止スルコト	中甲板其ノ他
十六	硫化燐	完全ナル罐詰ト爲ス	木樽又ハ木箱入トス	上甲板積ト爲スコト
十七	三硫化燐、五硫化燐、過酸化ソーダ	正味五百瓦未滿ノ場合ハ共口硝子壜ニ入レ石膏、封蠟ノ類ニテ密封シ又ハ完全ナルブリキ罐詰トス正味五百瓦以上五瓩未滿ノ場合ハ完全ナルブリキ罐詰トス正味五瓩以上ノ場合ハドラム入トス	木箱ニ入レ壜ノ周圍ニ不燃性物質（白墨粉、滑石粉、石炭殼節粉、粘土、土砂、灰ノ類）ヲ塡充シ又ハ罐ト密著セルブリキ張木箱トス	成ルベク汽機汽罐室等熱氣アル場所ニ接近セシメザルコト
十八	過酸化バリウム	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ

十九	カーバイド	ブリキ製又ハ鐵製ノ罐ニ入レ嚴封シ繩掛ト爲ス	中甲板其ノ他容易ニ取出シ得ベキ通風良好ナル場所ヲ選ビ且水又ハ濕氣トノ接觸ヲ防止スルコト他ノ貨物ノ下積ノ爲サザルコト	
二十	晒粉	遠距離ノ熱帶航海ニ於テ日光ヲ遮蔽シタル場所ニシテ濕氣ナキ通風良好ナル場所ヲ選ブコト船室ニ接近シテ積藏セザルコト汽機室等熱氣アル場所ニ接近セシメザルコト		
二十一	マグネシウム粉末	正味五百瓦未滿ノ場合ハ木箱ニ入レ壜ノ周圍ニ藁水又ハ濕氣トノ接觸ヲ防止スルコト 硝子壜ニ入レ密封ス 正味五百瓦以上ノ場合ハ罐ト密著セル木箱入トス ブリキ罐ニ入レ嚴封ス		
二十二	ニトロセルローズ及其ノ製劑	樽又ハ桶ニ入レ完全ニ水分ヲ含マシメ之ヲパラフイン紙ニテ包裝シ木箱ニ納メ板ノ繼目ハブリキ板ニテ目張ヲ施ス	成ルベク中甲板積ト爲スコト	
二十三	セルロイド（素地及プイルムニ限ル）	堅牢ナル木製容器入トス	他ノ貨物ノ下積ト爲サザルコト	
二十四	硝石類	硝酸カリ	硝子壜ニ入レ嚴封ス	木箱ニ入レ壜ノ周圍ニ鋸屑鉋屑藁ノ類ヲ塡充ス
		智利硝石	木箱、木樽又ハドラム入トス 撒積ノ場合ヲ除クノ外內容品ノ露出セザル二重ノ麻袋入トス	
二十五	油紙油布類		枠箱又ハ筵包ト爲ス等內部ノ通氣ヲ阻害セザルコト	成ルベク上甲板積ト爲スコト 船艙內ニ積藏スル場合ハ容易ニ接近シ易キ冷所ニ積藏スルコト
二十六	酸類	壜詰トシ石膏、封蠟ノ類ニテ密封ス アルミニウム製又ハ不銹銅製ドラム入トス	木箱ニ入レ壜ノ周圍ニ鋸屑鉋屑藁ノ類ヲ塡充ス	上甲板積又ハ中甲板積ト爲スコト 他ノ積合セ貨物ナキ場合ニハ於テハ下艙ニ積藏スルコトヲ得ルコト 通風良好ナル冷所ヲ選ブコト
二十七	二硫化炭素	厚サ約〇・三二（三十番）以上ノ鐵板ニテ製シタル二十五立米滿ノ容器ニ入レ嚴封ス	罐ト密著セル木箱入トス	上甲板積ト爲スコト 日光、燈火、火花等ヲ避クルコト 爲帆布ヲ以テ覆ヒスチームパイプ、煙突等有熱物ニ接近セシメザルコト

二十八	石油類	油槽ニ積藏スル場合ヲ除クノ外ドラム又ハブリキ罐ニ入レ密封ス	罐ト密著セル木箱入トス沿海區域ニ於テ小量ヲ運送スル場合ニ限リ棚掛ケ裸罐ト爲スコトヲ得	汽罐室、料理室、石炭庫、旅客室及船員室等火氣アル場所ニ接近シテ積藏セザルコト
二十九	可燃性液体類	可燃体類	右ニ同ジ	右ニ同ジ
三十	壓縮ガス及液化ガス類	炭酸ガス酸素ガス等	(イ)ガス注入前耐壓力ヲ試驗シタル砲彈型藏器（ボンブ罐）ニ入レロヲ螺旋栓ニテ密封シ其ノ上ヲ螺旋帽ニテ被覆ス但シ液化炭酸ガスノ容器、螺旋栓ノ外部ニ突出セザル及五立米未滿ノ容器ニ在リテハ螺帽ヲ使用セザルコトヲ得	右ニ同ジ
			(ロ)堅牢ナル木箱入トス	(ハ)ボンブ罐入ノ帽蓋ノ周圍ニ外徑ハ罐ノ胴丸ノ内徑ハ帽蓋ノ外徑、高サハ帽蓋ノ高サ等シキ木又ハ柔軟物製ノ環狀物ヲ挿入シテ帽蓋ヲ完全ニ圍繞シ尚之ヲ徑〇・九糎以上ノ麻繩ヲ以テ作リタル網袋（目ノ太サ四・五糎平方以下ノモノ）又ハ篠製ノ籠ニ入レ其ノロヲ緊縛スス

(イ)木枠入トス（直徑六・六糎以上ノ丸太ヲ二ツ割ト爲シタルモノ四本ヲ組合セ其ノ兩端ハ厚サ一・五糎以上ノ板片ヲ十字形ニ釘附シタルモノ若ハ枠ノ形狀ニ相當スル底板ヲ當テタルモノ又ハ帶鐵ヘ繩ノ類ヲ以テ十分緊締シタルモノ）

通風良好ナス冷所ニ積藏ルコト日光ニ曝露セシメザルコト

備考

一　火薬類以外ノ危險物ニ付テハ事情ニ應ジ本表ニ定ムル事項ニ適當ナル變更ヲ加フルコトヲ妨ゲズ

二　本表ニ揭グル火薬庫ニハ持運式火薬庫ヲ包含ス

三　火薬類ノ積藏ニ付テハ左ノ各號ニ依ルベシ

(イ)艙口ヨリ容易ニ接近シ得ル場所ナルコト

(ロ)燃燒シ易キ貨物其ノ他爆發ノ誘因トナルベキ惧アル貨物ニ接近セシメザルコト

(ハ)外板ニ接觸セル場所、震動ヲ受クル場所及旅客室、船員室、油槽、機關室、蓄電池、發電機、石炭庫、料理室其ノ他火氣又ハ熱氣アル場所ヲ避クルコト

(ニ)他ノ貨物ノ下積ト爲サザルコト

(ホ)露出セル鐵類トノ接觸ヲ避クルコト

四　銃砲火薬類取締法施行細則ノ規定ニ依リ別棟ノ火薬類貯藏所ニ貯藏スベキモノハ之ヲ同一ノ火薬庫又ハ船艙ニ積藏スベカラズ

五　甲板ナキ船舶ニ在リテハ前項ノ火薬類ヲ同一船舶ニ積藏スベカラズ

六　船舶ノ常用火薬類ハ木製ノ箱ニ容レ且容易ニ取出シ得ベキ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スベシ

七　火工品中安全實包及安全空包ハ火薬類ヲ裝塡セザル雷管附又ハ爆管附藥莢ト同一ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

塩素酸カリ、塩素酸ソーダ、ニトロ染料、黃燐、金屬ナトリウム、金屬カリウム、燐化カルシウム、硫化燐及過酸化バリウムハ易燃性又ハ可燃性物質トノ積合セヲ避クベシ

八　カーバイド、マグネシウム粉末、ニトロセルローズ其ノ他ノ製劑、セルロイド、硝石類、油紙油布類、酸類、石油類及可燃性液体類、壓縮ガス及液化ガス類ハ自然發火ヲ爲シ易キ物質トノ積合セヲ避クベシ

◉遞信省令第十五號

明治三十二年五月遞信省令第十九號中左ノ通改正ス

昭和九年二月五日　遞信大臣　南　弘

第三號書式中(三)ノ第十二號ノ次ニ左ノ六號ヲ加フ

十三	船舶安全法施行規則第百七十四條ニ定ムル遭難者救助ニ赴カサリシコト	
十四	航行中開放ヲ禁セラレタル開口ヲ碇泊中開閉シタルコト	
十五	石炭庫及機關室内等ノ水密戸ヲ航行中開閉シタルコト	
十六	水密戸等ノ操作ノ操練及點檢ヲ爲シタルコト	
十七	端艇操練ヲ行ヒタルコト	
十八	補助電源ノ全能力ヲ維持シタルコト及警急自働受信機ヲ試驗シタルコト	

第三號書式中(七)及(八)ヲ(九)及(十)ニ改メ(六)ノ次ニ左ノ(七)及(八)ヲ加フ

操作點檢及操練ヲ行ヒタル年月日	同上	同上	同上	同上	記事				

(七)

補助電源維持ノ調査及警急自働受信機ノ試驗ヲ行ヒタル年月日	同上	同上	同上	同上	記事								

備考　(七)ハ(三)表中第十六號及第十七號ノ事項ヲ記載スヘシ

(八)

備考 (八)ハ(三)表中第十八號ノ事項ヲ記載スヘシ

附則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

航海日誌ハ當分ノ間第三號書式ニ示ス順序ニ依ラスシテ之ヲ編綴スルコトヲ得

(參照)
明治三十二年五月二十六日遞信省令第十九號ハ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲グル書類ノ件ナリ

◉遞信省令第十六號

救命艇手適任證書交付規則左ノ通定ム

昭和九年二月五日

遞信大臣　南　弘

救命艇手適任證書交付規則

第一條　船舶安全法施行規則第百五十六條第七項ニ規定スル救命艇手適任證書ノ交付、書換又ハ返還ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　救命艇手適任證書ハ左ニ掲グル者ニ之ヲ交付ス

一　海技免狀ヲ受有スル者
二　官公立商船學校卒業者及實習生
三　水夫適任證書ヲ受有スル者
四　海兵團ノ教程ヲ終了シタル者
五　遞信大臣ノ適當ト認ムル海員養成所修業者
六　沿海以上ノ航行區域ヲ航行スル總噸數百噸以上ノ船舶ニ乘組ミ三年以上甲板部員トシテ執務シ體格檢査ニ合格シタル者
七　沿海以上ノ航行區域ヲ航行スル船舶ニ乘組ミ一年以上甲板部員トシテ執務シ且端艇ノ運用ニ關スル試驗竝體格檢査ニ合格シタル者
八　沿海以上ノ航行區域ヲ航行スル總噸數百噸以上ノ船舶ニ乘組ミ三年以上執務シ且端艇ノ運用ニ關スル試驗竝體格檢査ニ合格シタル者

前項第七號及第八號ノ試驗ハ救命艇作業ニ關スル命令ヲ了解シ救命艇ノ卸方、漕方及操縱ニ習熟セルヤ否ニ付之ヲ行フ

第三條　救命艇手適任證書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ提出シ海技免狀、船員手帖其ノ他資格ヲ證スル書類ヲ管海官廳ノ檢閲ニ供スベシ

救命艇手適任證書ハ第二號書式ニ依ル

第四條　救命艇手適任證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ガ再交付ヲ申請スルコトヲ得

救命艇手適任證書ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ガ書換ヲ申請スベシ

救命艇手適任證書ヲ受有スル者廢業又ハ死亡シタルトキハ之ヲ受有又ハ保管スル者ハ遲滯ナク該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ヲ返還スベシ

第五條　本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スベシ

一　第二條第一項第一號乃至第六號ニ掲グル者救命艇手適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ　二十錢
二　第二條第一項第七號又ハ第八號ニ掲グル者救命艇手適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ　三十錢
三　救命艇手適任證書ノ再交付又ハ書換ヲ申請スルトキ　十錢

手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

第六條　本令ニ依ル事務ハ左ノ管海官廳ニ於テ之ヲ行フ

東京遞信局、東京遞信局海事部横濱出張所、大阪遞信局、大阪遞信局海事部神戸出張所、熊本遞信局、札幌遞信局

附則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(表)

救命艇手適任證書交付申請書

救命艇手適任證書交付相成度此段及申請候也

年　月　日

申請人　氏　名　印

通知ヲ受クベキ場所

管海官廳宛

(裏)

履歷書

氏名	本籍
出生年月日	
船員手帖番號	第　號

船種船名	總噸數	航行區域	職名	乘船年月日	下船年月日	在船期間
				年　月　日	年　月　日	年　月　日
				年　月　日	年　月　日	年　月　日
				年　月　日	年　月　日	年　月　日
				年　月　日	年　月　日	年　月　日
※			期間合計	年　月　日		

備考　救命艇手適任證書交付規則第二條第一項第一號乃至第五號ニ依リ申請スル者ハ其ノ旨

※印欄ニ記載シ乗船履歷ハ之ヲ記載スルニ及バズ

氏名ニハ片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スベシ

第二號書式

第　號

救命艇手適任證書

本籍　氏　名　出生年月日

右者救命艇手適任證書交付規則ニ依リ救命艇手ニ適スル者ト認メ

此證書ヲ付與ス

年　月　日

管海官廳名　印

備考　裏面ニ英譯ヲ附記ス

◉遞信省令第十七號

船用品取締規則左ノ通定ム

昭和九年二月五日

遞信大臣　南　弘

船用品取締規則

目次

船用品取締規則

第一章　總則

第一條　法令ニ依リ船舶ニ備フベキ船用品ニシテ別表第一號ニ掲グルモノヲ製造スル者ハ當該船用品ノ型式毎ニ第二章ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ製造免許ヲ受クルコトヲ要ス但シ船用品檢査試驗規則ニ依ル船用品合格證明書(以下單ニ合格證明書ト稱ス)ヲ受クル目的ヲ以テ製造スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

船用品ニ付製造免許ヲ受ケタル者(以下單ニ免許製造人ト稱ス)其ノ製造免許船用品ヲ製造シタルトキ又ハ當該船用品若ハ之ト同種類ノモノノ要部ヲ修繕シタルトキハ第四章ノ規定ニ依リ製造免許船用品檢定又ハ船用品修繕檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第二條　前條ニ定ムル船用品ノ要部ノ修繕

ハ當該船用品又ハ之ト同種類ノモノノ免許製造人ニ非ザル者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ズ但シ航海中其ノ他免許製造人ヲシテ修繕ヲ爲サシムルニ著シク困難ナル事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ修繕ヲ爲サシムル場合ニハ船燈ニ付テハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ヲ修繕人ニ提示スベシ

第一項但書ノ規定ニ依リ修繕ヲ爲シタルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ニ於テ現品ニ付第四章ノ規定ニ依リ船用品修繕檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第三條　別表第二號ニ掲グル船用品ニ付テハ其ノ型式毎ニ第三章ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ型式承認ヲ受クルコトヲ得

別表第二號ニ掲ゲザル船用品ト雖モ遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルモノニ付亦前項ニ同ジ

型式承認船用品ヲ製造又ハ輸入シタル者ハ第四章ノ規定ニ依リ型式承認船用品檢定ヲ受クルコトヲ得

第四條　第一條ニ定ムル船用品ハ船用品檢査試驗規則ニ依ル甲號檢印又ハ本令ニ依ル檢印ヲ附シタルモノナルコトヲ要ス

第五條　本令ニ於テ船用品ノ試驗規程ト稱スルハ船燈ニ付テハ船燈試驗規程、信號器ニ付テハ信號器試驗規程、救命器具ニ付テハ救命器具試驗規程、防毒面ニ付テハ防毒面試驗規程、消火器ニ付テハ消火器試驗規程、火災警報裝置ニ付テハ火災警報裝置試驗規程、艙口覆布ニ付テハ艙口覆布試驗規程ヲ謂フ

第六條　本令ニ依リ遞信大臣ニ申請書若ハ屆書ヲ提出シ又ハ證書ヲ返還スル場合ニ於テハ主タル營業所所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スベシ

第七條　本令中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

第二章　製造免許

第八條　船用品ニ付製造免許ヲ受ケントスルトキハ標本ニ付合格證明書ノ交付ヲ受ケ船用品製造免許申請書（第一號書式）ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ事業資金額、製造所ノ設備、使用人ノ員數、會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ定款又ハ之ニ準ズベキモノ及代表者ノ氏名ヲ記載シタル書類竝ニ當該船用品ノ合格證明書ノ寫ヲ添附スベシ

榴彈、火箭、信號青焰、信號紅焰、救命胴衣、救命焰又ハ救命索發射器ニ關スル申請書ニハ第二十二條ノ規定ニ依ル說明書ヲモ添附スベシ尙榴彈、火箭、信號青焰、信號紅焰又ハ救命索發射器ニ關スル申請書ニハ銃砲火藥類取締法ニ依リ火藥類ノ製造ニ關スル許可ヲ受ケタルコトヲ證明スル書類ノ寫ヲモ添附スベシ

第九條　遞信大臣前條ノ申請ニ依リ船用品ノ製造ヲ免許シタルトキハ船用品製造免許證書（第二號書式）ヲ申請人ニ交付ス

船用品製造免許期間ハ五年以內トス

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遞信大臣ハ製造免許ヲ取消スコトアルベシ

一　本令ノ規定ニ違反シタルトキ

二　標本又ハ製造品ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキ

三　製造所ノ設備ノ變更其ノ他ノ事由ニ依リ製造免許船用品ノ製造ヲ爲スニ適セズト認ムルニ至リタルトキ

四　銃砲火藥類取締法ニ依ル火藥類ノ製造ニ關スル許可ヲ取消サレタルトキ

五　第十二條ニ揭グル標本ノ要部ガ當該船用品ノ試驗規程ノ改正ニ依リ之ニ適合セザルニ至リタルトキ

六　其ノ他遞信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ

第十一條　遞信大臣船用品ノ製造ヲ免許シタルトキ又ハ製造免許ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十二條　免許製造人ハ製造免許船用品ノ型式毎ニ合格證明書ノ交付ヲ受ケタル標本ヲ各製造所ニ保管シ且第二十八條ノ規定ニ依リ製造免許船用品檢定ヲ受ケントスル遞信省管船局船舶試驗所（以下單ニ船舶試驗所ト稱ス）、船舶試驗所支所又ハ管海官廳ニ差出スベシ

前項ノ規定ニ依リ保管シ又ハ差出シタル標本ガ滅失又ハ損傷シタルトキハ免許製造人ハ更ニ標本ヲ當該製造所ニ保管シ又ハ當該船舶試驗所、船舶試驗所支所若ハ管海官廳ニ差出スベシ

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ差出シタル標本ハ第二十條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ之ヲ還付ス

第十三條　免許製造人ハ製造免許船用品ノ標本ノ合格證明書ニ附屬セル明細書寫（通數ハ其ノ都度指定ス）ヲ船舶試驗所ニ差出スベシ

第十四條　免許製造人ハ製造品毎ニ當該官吏ノ適當ト認ムル方法ニ依リ船燈、信號器又ハ救命器具ニ在リテハ其ノ品名、型式、製造番號、製造人ノ氏名又ハ名稱及製造年月、船燈部分品ニ在リテハ製造番號及製造人ノ記號ヲ、救命索ニ在リテハ其ノ品名、型式、寸法、製造番號、製造人ノ氏名又ハ名稱及製造年月ヲ標示スベシ

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人ハ船用品製造免許證書ノ書換ヲ遞信大臣ニ申請スベシ

一　氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキ

二　主タル營業所ヲ移轉シタルトキ

三　主タル營業所ニ付行政區畫ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキ

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人ハ遞信大臣ニ之ヲ屆出ヅベシ

一　事業資金額ヲ變更シタルトキ

二　會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ定款若ハ之ニ準ズベキモノ又ハ代表者ヲ變更シタルトキ

三　營業所（主タル營業所ヲ除ク）若ハ製造所ヲ移轉若ハ增減シ又ハ製造所ノ設備ヲ變更シタルトキ

四　銃砲火藥類取締法ニ依ル火藥類ノ製造ニ關スル許可ヲ取消サレタルトキ

第十七條　免許製造人ガ死亡シタルトキハ其ノ相續人ニ限リ其ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ製造ヲ繼續セントスルトキハ相續ヲ證明スル書類ヲ添ヘ船用品製造免許證書ノ書換ヲ遞信大臣ニ申請スベシ

第十八條　船用品製造免許證書ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ當該免許製造人ハ船用品製造免許證書ノ再交付ヲ遞信大臣ニ申請スベシ

第十九條　免許製造人第十五條、第十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ船用品製造免許證書ノ交付ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊證書ヲ遞信大臣ニ返還スベシ

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人又ハ船用品製造免許證書ノ保管者ハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク船用品製造免許證書ヲ遞信大臣ニ返還スベシ

一　船用品製造免許期間滿了シタルトキ
二　免許製造人廢業シタルトキ
三　免許製造人死亡シ其ノ相續人製造ヲ繼續セザルトキ
四　製造免許ヲ受ケタル法人解散シタルトキ
五　製造免許ヲ取消サレタルトキ

第二十一條　免許製造人ハ其ノ製造品ニ付製造所毎ニ毎三月中ノ製造販賣高統計表(第三號書式)ヲ作成シ翌月十日迄ニ當該製造所所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ屆出ヅベシ

第二十二條　第一條ニ定ムル船用品ヲ販賣スルニ當リテハ船燈ニ在リテハ一箇毎ニ船燈檢定證明書一通ヲ、榴彈ニ在リテハ十二箇又ハ其ノ端數毎ニ略圖ヲ附シタル使用法說明書一通及打上臺一箇ヲ、火箭、信號靑焰又ハ信號紅焰ニ在リテハ十二箇又ハ其ノ端數毎ニ略圖ヲ附シタル使用法說明書一通ヲ、救命胴衣ニ在リテハ二十箇又ハ其ノ端數毎ニ圖解ヲ附シタル著用法說明書一通ヲ、救命焰ニ在リテハ一箇毎ニ又救命索發射器ニ在リテハ一組毎ニ各略圖ヲ附シタル使用法說明書一通ヲ添附スベシ

第二十三條　第一條ニ定ムル船用品ニシテ合格證明書ヲ有スルモノヲ販賣スルニ當リテハ船燈ニ在リテハ一箇毎ニ合格證明書ヲ添附スベシ其ノ他ノモノニ在リテハ前條ノ規定ヲ準用ス

第三章　型式承認

第二十四條　船用品ニ付型式承認ヲ受ケントスルトキハ船用品型式承認申請書(第四號書式)ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ當該船用品ノ合格證明書ノ寫又ハ船用品檢査試驗規則ニ依ル船用品檢査試驗成績書ノ寫ヲ添附スベシ

第二十五條　遞信大臣前條ノ申請ヲ適當ト認ムルトキハ當該船用品ノ型式ヲ承認スベシ

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遞信大臣ハ型式承認ヲ取消スコトアルベシ

一　型式承認ヲ受ケタル船用品ノ要部ガ當該品ノ試驗規程ノ制定又ハ改正ニ依リ之ニ適合セザルニ至リタルトキ
二　其ノ他遞信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ

第二十七條　遞信大臣船用品ノ型式ヲ承認シタルトキ又ハ型式承認ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第四章　檢定

第二十八條　製造免許船用品檢定又ハ型式承認船用品檢定ヲ受ケントスルトキハ申請書(第五號書式又ハ第六號書式)ヲ現品ト共ニ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ製造所(當該船用品ガ輸入品ナルトキハ營業所)所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ提出スベシ但シ型式承認船用品檢定ノ場合現品ヲ差出シ難キトキハ當該官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ現品ノ所在地ニ於テ檢査ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合第一條ニ定ムル船燈ニ付テハ一箇毎ニ標本ノ合格證明書ニ附屬セル明細書寫ニ製造番號及製造年月ヲ記載シタルモノヲ添附スベシ

第二十九條　前條第一項但書ニ依リ檢査ヲ受クル者ハ當該官廳ノ指定スル所ニ從ヒ該船用品檢査ノ爲當該官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スベシ

第三十條　船用品修繕檢定ヲ受ケントスルトキハ申請書(第七號書式)ヲ現品ト共ニ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ最寄管海官廳ニ提出スベシ此ノ場合第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ヲ添附スベシ

第三十一條　第二十八條及前條ノ申請アリタルトキハ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ管海官廳ハ現品ヲ檢査シ當該船用品ノ試驗規程又ハ型式承認ニ適合スト認メタルトキハ左ノ各號ノ一ニ依リ之ヲ處理ス

一　製造免許船用品又ハ型式承認船用品ノ檢定ノ場合ニ於テハ現品ニ檢印(別記雛形)ヲ附シ之ヲ申請人ニ還付シ尙第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ一箇毎ニ船燈檢定證明書(第八號書式)ヲ、型式承認船用品ニ在リテハ型式承認船用品檢定證明書(第九號書式)ヲ申請人ニ交付ス

二　船用品修繕檢定ノ場合ニ於テハ第三十五條第一項ノ規定ニ依リ檢印ノ效力ヲ停止セラレタル現品ハ更ニ之ニ檢印ヲ附シタル上、其ノ他ノモノハ其ノ儘之ヲ申請人ニ還付シ尙第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ノ裏面ニ修繕檢定年月日及修繕箇所ヲ記載シ當該官吏捺印ノ上之ヲ申請人ニ還付ス

船用品修繕檢定ニ於テ現品ガ當該船用品ノ試驗規程ニ適合セズト認メタルトキハ複線ヲ以テ檢印ヲ抹消シ之ヲ申請人ニ還付シ尙第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ニ消印ノ上之ヲ申請人ニ還付ス

第三十二條　船燈檢定證明書ヲ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ船燈檢定證明書再交付申請書(第十號書式)ヲ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ最寄管海官廳ニ提出シ船燈檢定證明書ノ再交付ヲ受クルコトヲ得

前項ノ再交付ヲ受クルコト能ハザルトキハ船燈再檢定申請書(第十一號書式)ヲ船舶試驗所支所ニ提出シ現品ノ再檢定ヲ受クルコトヲ得

第三十三條　前條第二項ノ申請アリタルトキハ船舶試驗所又ハ船舶試驗所支所ハ現品ヲ檢査シ船燈試驗規程ニ適合スト認メタルトキハ更ニ檢印ヲ附シ且船燈檢定證明書ヲ交付シ現品ガ船燈試驗規程ニ適合セズト認メタルトキハ複線ヲ以テ檢印ヲ抹消シ之ヲ申請人ニ還付ス

第三十四條　船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲシテ免許製造人又ハ型式承認船用品製造人ノ營業所若ハ製造所ニ就キ第十條又ハ第二十六條ノ適用ニ關シ必要ナル監査ヲ爲サシメ若ハ船舶ニ就キ第一條及第三條ニ定ムル船用品ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十五條　當該官吏ハ前條ノ監査又ハ檢査ニ當リ船用品ガ其ノ試驗規程又ハ型式承認ニ適合セズト認ムルトキハ複線ヲ以テ檢印ヲ抹消スベシ但シ第一條ニ定ムル船用品ニシテ修繕ノ上當該品ノ試驗規程ニ適合スル見込アルモノニ付テハ檢印ニ單線ヲ附シ其ノ效力ヲ停止スベシ

第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ前項ノ規定ニ依リ其ノ檢印ヲ取消シタルトキハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ニ消印ヲ捺シ檢印ノ效力ヲ停止シタルトキハ其ノ旨合格證明書又ハ船燈檢定證明書ノ裏面ニ記載シ當該官吏捺印スベシ

第三十六條　當該官吏ハ第三十四條ノ監査又ハ檢査ノ爲必要ト認ムルトキハ第一條又ハ第三條ニ定ムル船用品ヲ提出セシメ之ヲ試驗ニ供スルコトヲ得

第六章　手數料

第三十七條　船用品製造免許證書ノ交付、

再交付又ハ書換ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料二圓ヲ、船燈檢定證明書ノ再交付ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料二十錢ヲ納付スベシ但シ第十五條第三號ニ該當シ船用品製造免許證書ノ書換ヲ爲ス場合ニハ手數料ヲ徵收セズ

第三十八條　船用品ノ檢定ヲ受クルトキハ檢定品一箇ニ付別表ニ定ムル手數料ヲ納付スベシ

第三條第二項ノ規定ニ依ル型式承認船用品ノ檢定手數料ハ其ノ都度之ヲ定ム

第三十九條　手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書（第十二號書式）ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

第四十條　本章ノ規定ニ依ル手數料ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セズ

第七章　罰則

第四十一條　第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第二項、第二條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條、第二十條又ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第四十二條　前條ノ規定ニ依リ處罰セラルベキ者其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者、禁治產者又ハ法人ナルトキハ其ノ者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

附則

第四十三條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十四條　昭和四年六月遞信省令第十八號船燈信號器救命具取締規則（以下單ニ舊取締規則ト稱ス）ハ之ヲ廢止ス

第四十五條　本令施行前舊取締規則ノ罰則ニ觸ルル行爲ヲ爲シタル者ニ付テハ仍舊取締規則ニ依ル

第四十六條　舊取締規則ニ依リ受ケタル製造免許ハ其ノ免許期間內本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス但シ乙種檣燈及乙種兩色燈ニ付テハ其ノ期間內ト雖モ製造免許ヲ取消スコトアルベシ

第四十七條　舊取締規則ニ依リ第一條ニ定ムル船用品ニ附シタル檢印ハ本令ニ依リ附シタルモノト看做ス

舊取締規則ニ依ル船燈檢定證明書ハ本令ニ依ル船燈檢定證明書ト看做ス

乙種檣燈及乙種兩色燈ニ附シタル檢印及當該船燈檢定證明書ノ有效期限ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ別ニ之ヲ告示ス

第四十八條　舊取締規則ニ依ル製造免許ヲ有スル者ノ製造シタル船用品及舊取締規則ニ依ル檢印ヲ附シタル船用品ノ檢定ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

別記雛形

船船試驗所及船舶試驗所支所檢印（船檢）

備考　「船檢」ノ上ニハ船舶試驗所ノモノニ在リテハ「東」船舶試驗所支所ノモノニ在リテハ其ノ所在地名ノ頭字ヲ冠スルモノトス

管海官廳檢印（海檢）

備考　「海檢」ノ上ニハ管海官廳所在地名ノ頭字ヲ冠スルモノトス

別表

第一號

品名		檢定手數料 製造免許船用品檢定	檢定手數料 船燈再檢定
船	甲種檣燈	五〇	五〇
	乙種檣燈	三〇	三〇
	甲種紋燈	五〇	五〇
	乙種紋燈	三〇	三〇
	甲種兩色燈	四〇	四〇
	乙種兩色燈	一〇	一〇
	甲種白燈	三〇	三〇
	乙種白燈	二〇	二〇
	丙種白燈	二〇	二〇
	丁種白燈	一〇	一〇
燈	紅燈	三〇	三〇
	水先燈	四〇	四〇
	三色燈	五〇	五〇
	船尾燈	三〇	三〇
	操舵目標燈	一〇	一〇
船燈部分品	無色透鏡	五〇	
	著色透鏡	五〇	
	著色圓筒形硝子	五〇	
	著色挿入硝子	五〇	
信號器	霧中號角	一〇	
	榴彈	五〇	
	火箭	五〇	
	信號青焰	五〇	
	信號紅焰	五〇	

品名		型式承認船用品檢定手數料
救命具	救命浮環	一〇
	救命胴衣	一〇
	救命焰	一〇
	救命索發射器	一〇
救命具部分品	救命索	五〇

第二號

品名		型式承認船用品檢定手數料
船燈	信號燈	三〇
	安全燈	三〇
船燈部分品	無色圓筒形硝子	五〇
救命具	第一級甲型救命艇	二〇〇
	第一級乙型救命艇	二〇〇
	第二級甲型救命艇	二〇〇
	第二級乙型救命艇	二〇〇
	發動機附救命艇	三〇〇
	救命筏	一五〇
	救命浮器	一〇〇
防毒面部分品	防毒面	三〇
	吸收纖	五〇

品名		型式承認船用品檢定手數料
消火器	持運式（携帶用）液体消火器	五〇
	持運式（携帶用）泡消火器	五〇
	移動式泡消火器	五〇
消火器部分品	封緘裝塡物	五〇
火災警報裝置	電氣「サーモスタット」	一〇
	空氣管	一〇
	警報裝置	三〇
	檢出器	二〇
	探知器	二〇
艙口覆布部分品	甲種艙口覆布	二〇
	乙種艙口覆布	二〇
艙口覆布部分品	布地	一〇

備考

一　電線式「サーモスタット」ニ在リテハ其ノ電線ノ長サ五メートル又ハ其ノ端數ヲ一箇ト看做ス

二　空氣管ニ在リテハ之ヲ連續セルモノトシ其ノ長サ五メートル又ハ其ノ端數ヲ一箇ト看做ス

三　布地ニ在リテハ其ノ長サ五〇メートル又ハ其ノ端數ヲ一箇ト看做ス

第一號書式

船用品製造免許申請書

一　船用品ノ品名及型式
二　營業所ノ位置及名稱
三　製造所ノ位置及名稱
四　船用品合格證明書ノ番號及交付年月日

右船用品取締規則第一條第一項ニ依リ船用品製造免許申請候也

年　月　日

主タル營業所
申請人　氏　　名印

運信大臣宛

第二號書式

第　號

船用品製造免許證書

主タル營業所
氏　　名

一　船用品ノ品名及型式
二　標本ノ船用品合格證明書ノ番號及交付年月日
三　免許期間

右船用品取締規則ニ依リ製造ヲ免許ス

年　月　日

運信大臣　氏　　名印

第三號書式

自年月日
至年月日　三月中製造免許船用品製造販賣高統計表

一　船用品免許製造人ノ氏名又ハ名稱及主タル營業所
二　製造所ノ位置及名稱

船用品製造免許證書番號	船用品ノ品名及型式	前期繰越箇數	製造箇數 合格	製造箇數 不合格	販賣箇數	本期末現存箇數	一箇ノ代價 卸賣	一箇ノ代價 小賣

第四號書式

船用品型式承認申請書

一　船用品ノ品名及型式
二　營業所ノ位置及名稱
三　製造所ノ位置及名稱
四　船用品合格證明書ノ番號及交付年月日
船用品檢査試驗成績書ノ番號及交付年月日

右船用品取締規則第三條第一項第二項ニ依リ船用品型式承認申請候也

年　月　日

主タル營業所
申請人　氏　　名印

運信大臣宛

第五號書式

製造免許船用品檢定申請書

一　船用品製造免許證書ノ番號
二　船用品ノ品名、型式及箇數
三　製造所ノ位置及名稱
四　製造年月
五　製造番號

右船用品取締規則第一條第二項ニ依リ製造免許船用品檢定申請候也

年　月　日

主タル營業所
申請人　氏　　名印

運信省管船局船舶試驗所
（又ハ同支所若ハ管海官廳）宛

第六號書式

型式承認船用品檢定申請書

一　船用品型式承認番號
二　船用品ノ品名、型式及箇數
三　製造所ノ位置及名稱
四　製造年月
五　製造番號
六　船用品取締規則第二十八條第一項但書ノ規定ニ依リ現品ノ所在地ニ於テ檢査ヲ受ケントスルトキハ其ノ場所

右船用品取締規則第三條第三項ニ依リ型式承認船用品檢定申請候也

年　月　日

主タル營業所
申請人　氏　　名印

運信省管船局船舶試驗所
（又ハ同支所若ハ管海官廳）宛

第七號書式

船用品修繕檢定申請書

一　船用品製造免許證書ノ番號
船用品合格證明書ノ番號
二　船用品ノ品名、型式及箇數
三　修繕箇所
四　修繕年月
五　備附船舶ノ番號、種類、名稱、總噸數及所有者ノ氏名又ハ名稱

六　船用品取締規則第二條第一項但書ニ依ルモノニ在リテハ其ノ事由

右船用品取締規則第二條第一項但書第二項第三項ニ依リ船用品修繕檢定申請候也

主タル營業所又ハ住所（管該官廳ヨリ通知ヲ受クベキ場所）
申請人　氏　　名印

運信省管船局船舶試驗所
（又ハ同支所若ハ管海官廳）宛

第八號書式

（何船檢又ハ何海檢）第　號

船燈檢定證明書

一　船用品製造免許證書ノ番號
二　船燈ノ品名及型式
三　製造人ノ主タル營業所及氏名又ハ名稱
四　製造所ノ位置及名稱
五　製造年月
六　製造番號
七　檢定成績　別記明細書ノ通

右船用品取締規則ニ依リ檢定シタル結果船燈試驗規程ニ適合スルモノト認ム

年　月　日

運信省管船局船舶試驗所
（又ハ同支所若ハ管海官廳）名印

第九號書式

（何船檢又ハ何海檢）第　號

型式承認船用品檢定證明書

一　船用品型式承認番號
二　船用品ノ品名、型式及箇數
三　檢定申請者ノ主タル營業所及氏名及ハ名稱
四　製造所ノ位置及名稱
五　製造年月
六　製造番號

右船用品取締規則ニ依リ檢定シタル結果承認型式ニ適合スルモノト認ム

年　月　日

運信省管船局船舶試驗所
（又ハ同支所若ハ管海官廳）名印

第十號書式

船燈檢定證明書再交付申請書

一　船用品製造免許證書ノ番號
二　船燈ノ品名及型式
三　製造年月
四　製造人ノ氏名又ハ名稱
五　製造番號
六　檢定官廳
七　再交付申請ノ事由

右船用品取締規則第三十二條第一項ニ依リ船燈檢定證明書再交付申請候也

年　月　日

住所（當該官廳ヨリ通知ヲ受クベキ場所）
申請人　氏　名　印

逓信省管船局船舶試驗所（又ハ同支所若ハ管海官廳）宛

第十一號書式

船燈再檢定申請書

一　船燈ノ品名及型式

右船用品取締規則第三十二條第二項ニ依リ船燈再檢定申請候也

年　月　日

住所（當該官廳ヨリ通知ヲ受クベキ場所）
申請人　氏　名　印

逓信省管船局船舶試驗所（又ハ同支所）宛

第十二號書式

手數料納付書

手數料ノ種別	手數料算定ノ基礎
船用品製造免許證書（交付、再交付、書換）手數料	通
船燈檢定證明書再交付手數料	通
製造免許船用品檢定手數料	箇
型式承認船用品檢定手數料	箇
右　年　月　日附申請ノ手數料トシテ納付候也	手數料　圓　錢
年　月　日	圓　錢
	圓　錢
	圓　錢

申請人　氏　名　印

逓信大臣（逓信省管船局船舶試驗所、同支所又ハ管海官廳）宛

◉逓信省令第十八號

船用品檢査試驗規則中左ノ通改正ス

昭和九年二月五日　逓信大臣　南　弘

別表第一號中船燈ノ項備考欄ヲ「無色透鏡、著色透鏡、無色圓筒形硝子、著色圓筒形硝子、又ハ著色挿入硝子カ船用品取締規則ニ依ル檢印ヲ附セサルモノナルトキハ當該品ニ對スル手數料ヲ加算ス」ニ改メ取扱試驗所名欄「船舶試驗所」ノ次ニ「同大阪支所」ヲ加ヘ紅燈ノ次ニ

水先燈	同	一箇	六・〇〇	同

ノ加ヘ操舵目標燈ノ次ニ

信號燈	同	一箇	五・〇〇	同
安全燈	同	一箇	五・〇〇	同

ヲ加ヘ船燈部分品ノ項ヲ

船燈部分品	無色透鏡	一箇	一〇・〇〇	船燈試驗規程
	著色透鏡	一箇	五・〇〇	試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲毀損シタルモノハ之ヲ算入セス　船舶試驗所
	無色圓筒形硝子	一箇	一・〇〇	
	著色圓筒形硝子	一箇	五・〇〇	
	著色挿入硝子	一箇	五・〇〇	
	其ノ他ノモノ	一箇	一・〇〇	

ニ改メ信號器ノ項取扱試驗所名欄「船舶試驗所」ノ次ニ「同大阪支所」ヲ加ヘ同項中

救命燈	同	一箇	一・五〇

ヲ削リ救命具及救命具部分品ノ項ヲ

救命器具部	救命器具	救命艇	試驗及檢査	救命器具試驗規程	發動機ヲ有セサルモノ	一隻	二〇・〇〇
					發動機ヲ有スルモノ	一隻	三〇・〇〇
		救命筏	同	同		一箇	一五・〇〇
		救命浮器	同	同		一箇	一〇・〇〇
		救命浮環	效力試驗	同		一箇	三・〇〇
		救命胴衣	同	同		一箇	七・〇〇
		救命焔	同	同		一箇	一・五〇
		救命索發射器	同	同		一箇	五・〇〇
	救命索	效力試驗	救命器具試驗規程	試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	救命索カ船用品取締規則ニ依ル檢印ヲ附セサルモノナルトキハ當該品ニ對スル手數料ヲ加算ス	一條	三・〇〇
				試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	救命索カ船用品取締規則ニ依ル檢印ヲ附セサルモノナルトキハ當該品ニ對スル手數料ヲ加算ス	一箇	五・〇〇
				試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	一箇	一・五〇
				試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	一箇	七・〇〇
				試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	一箇	三・〇〇
				試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	一箇	一〇・〇〇
				試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	一箇	一五・〇〇
						一隻	二〇・〇〇
						一隻	三〇・〇〇

ニ改メ同項ノ次ニ

分品	其ノ他ノモノ	同	同	一箇	一・〇〇	試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	
防毒面	效力試驗	防毒面試驗規程		一箇	五・〇〇	吸收罐カ船用品取締規則ニ依ル檢印ヲ附セサルモノナルトキハ當該品ニ對スル手數料ヲ加算ス	船舶試驗所
防毒面品	吸收罐	效力試驗	防毒面試驗規程	一箇	五・〇〇	試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	船舶試驗所
	其ノ他ノモノ	同	同	一箇	一・〇〇	耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス	船舶試驗所
消火器	效力試驗	消火器試驗規程	持運式(携帶用ノモノ移動式ノモノ)	一箇	五・〇〇	同	同大阪支所
				一箇	一〇・〇〇	同	同大阪支所
消火器品	封緘裝塡物	效力試驗	消火器試驗規程	一箇	五・〇〇	同	同大阪支所
	其ノ他ノモノ	同	同	一箇	一・〇〇	同	同大阪支所
火災警報裝置	效力試驗	火災警報裝置試驗規程		一箇	二〇・〇〇	試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス 電氣「サーモスタット」、空氣管、警報器、檢出器又ハ探知器カ船用品取締規則ニ依ル檢印ヲ附セサルモノナルトキハ當該部分品ニ對スル手數料ヲ加算ス	船舶試驗所

火災警報裝置部分品	電氣「サーモスタット」	效力試驗	火災警報裝置試驗規程	一箇	三・〇〇
	空氣管	同	同	一箇	三・〇〇
	警報器	同	同	一箇	五・〇〇
	檢出器	同	同	一箇	三・〇〇
	探知器	同	同	一箇	五・〇〇
	其ノ他ノモノ	同	同	一箇	一・〇〇
艙口覆布		效力試驗	艙口覆布試驗規程	一箇	二・〇〇
艙部布地		效力試驗	艙口覆布試驗規程	一箇	一・〇〇
艙口覆分布品	防水劑	同	同	一式	一・〇〇
	其ノ他ノモノ	同	同	一箇	一・〇〇

試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗又ハ毀損シタルモノハ之ヲ算入セス

布地カ船用品取締規則ニ依ル檢印ヲ附セサルモノナルトキハ當該品ニ對スル手數料ヲ加算ス

船舶試驗所
同大阪支所

船舶試驗所
同大阪支所

ヲ加ヘ表ノ末尾ノ船燈ニ關スル備考、信號器ニ關スル備考及救命具ニ關スル備考ヲ創ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ依頼ニ依ル檢査又ハ試驗ノ手數料ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

◉遞信省令第十九號

船燈試驗規程左ノ通定ム

昭和九年二月五日

遞信大臣　南　弘

船燈試驗規程

目　次

附　則

船燈試驗規程

第一章　總則

第一條　船燈ノ金屬部ハ銅又ハ眞鍮ヲ以テ堅牢ニ製造シ其ノ接合部ハ密著セシメテ鑞附シ且要部ハ總テ鋲附ト爲スベシ但シ安全燈ニ在リテハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ

銅又ハ眞鍮以外ノ材料ヲ使用スルコトヲ得

檣燈、舷燈、甲種兩色燈、三色燈、船尾燈及信號燈ノ燈胴ト燈蓋及燈底トノ接合竝ニ甲種白燈及紅燈ノ燈胴ト燈蓋トノ接合ハ折曲抱合ト爲シ乙種兩色燈ノ燈胴ト燈蓋トノ接合ハ折曲ト爲シ甲種白燈及紅燈ノ燈胴ト燈底トノ接合ハ鋲附ト爲スベシ

燈胴及外部煙筒ヲ構造スル金屬板ノ周緣ニハ適當ナル眞鍮針金ヲ捲込ムベシ但シ乙種兩色燈、丁種白燈及操舵目標燈ノ燈胴及外部煙筒下部ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

船燈ニハ其ノ種類ニ應ジ適當ナル掛具、燈足又ハ通索環ヲ裝置スベシ

燈窓ニ堅ニ取附クル枠棒ノ徑又ハ幅ハ七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

第二條　燈窓硝子及著色挿入硝子ハ有害ナル氣泡其ノ他ノ瑕疵ヲ有セズ且冷熱ニ堪フル品質ニシテ兩面ヲ滑ニ磨キタルモノナルコトヲ要ス但シ著色透鏡、無色棗形硝子及無色球形硝子ノ兩面ハ磨カザルモ妨ナシ

第三條　無色透鏡ハ二・九ノ密度(公差正負〇・〇七)ヲ有スル無色鉛硝子ヲ以テ成ルベク薄ク製造シ內面ハ圓筒形ト爲シ外面ニハ中央ニ一帶ノ凸形ヲ設ケ其ノ上下ニ各三帶ノ折射形ヲ設クベシ

無色透鏡ノ形狀ハ透鏡ノ中央橫截面ノ中心ニ於ケル燈火ヲ該面ノ各側五度ノ範圍ニ比シ白燈及紅燈用透鏡ニ在リテハ上下各二・五度以內ノ方向ニ於テ、其ノ他ノ透鏡ニ在リテハ上下各五度以內ノ方向ニ於テ二倍以上ニシテ且上下各一〇度ノ方向ニ於テ一倍以上トナラシメ其ノ他ノ方向ニ於テハ漸次ニ其ノ倍率ヲ變化スルモノナルコトヲ要ス

無色透鏡ノ竪截面ノ形狀ハ各截面ニ於テ差異ナキモノナルコトヲ要ス

無色透鏡ニハ密度測定用試驗片ヲ附シ置クベシ

無色透鏡ノ高サ及橫截內面半徑ノ公差ハ各正負〇・五ミリメートルトス

第四條　著色透鏡ハ著色硝子ヲ以テ成ルベク薄ク製造シ外面ハ球形ト爲シ內面ニハ中央ニ一箇ノ凸形ヲ設ケ其ノ周圍ニ九帶ノ折射形ヲ設クベシ

著色透鏡ノ形狀ハ透鏡ノ中央截面ノ中心ニ於ケル燈火ヲ該面ノ各側五度ノ範圍ニ集束スルモノナルコトヲ要ス

著色透鏡ノ中央截面ノ形狀ハ各截面ニ於テ差異ナキモノナルコトヲ要ス

著色透鏡ノ徑ノ公差ハ正負〇・五ミリメートルトス

第五條　圓筒形ノ燈窓硝子及著色挿入硝子ノ厚サ、高サ及橫截內面半徑ノ公差ハ各正負〇・五ミリメートルトシ無色棗形硝子及無色球形硝子ノ厚サノ公差ハ正負一ミリメートルトス

第六條　著色燈窓硝子、著色挿入硝子及著色透鏡ハ適當ナル色調ヲ有シ濃度ニ不同ナク且一〇%乃至一五%ノ全透率ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七條　船燈各部ノ構造及寸法ニシテ本令ニ規定ナキモノニ付テハ當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第八條　本令ノ規定ニ該當セザル船燈ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第二章　油船燈

第一節　通則

第九條　燈籠ハ口金及燈筒ヲ裝置シタル油壺ヲ挿入シ得ルモノナルコトヲ要ス

煙筒ハ火口ノ直上ニ設クベシ

燈窓ニ堅ニ取附クル枠棒ハ火口ノ延長線上ニ置クコトヲ得ズ

第十條　船燈ハ無風高氣溫ノ場合ニ於テモ通氣十分ニシテ燈火ガ不同ナク十分ニ燃照スル構造ノモノナルコトヲ要ス

船燈ハ風又ハ船舶ノ動搖等ニ依リ油煙ヲ生ズルコトナク又消火セザル樣通氣孔ノ大サ及配置ヲ適當ニシ且飛沫ノ浸入ニ依リ光度ニ影響ヲ及ボスコトナキ構造ノモノナルコトヲ要ス

第十一條　油壺ハ燈火ガ信號燈及安全燈ニ在リテハ五時間以上、乙種兩色燈、丁種白燈及操舵目標燈ニ在リテハ八時間以上、其ノ他ノ船燈ニ在リテハ一六時間以上繼續シテ安全ニ燃照シ得ル油量ヲ貯ヘ得ルモノナルコトヲ要ス

油壺ノ形狀ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

油壺ニハ氣孔ヲ有スル注油栓ヲ裝置シ且油壺ノ內部ニハ燈油ノ動搖ヲ防グ裝置ヲ設クベシ

第十二條　火口ノ形狀ハ一字形ニシテ第一表ニ揭グル幅ノ平燈心ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

口金ニハ燈心調整裝置ヲ附シ引火防具及氣孔ヲ裝置スベシ但シ種油用ノモノニ在リテハ引火防具及氣孔ヲ裝置スルコトヲ要セズ

第十三條　油壺及口金ノ挿入裝置ハ口金ヲ裝置シタル油壺ヲ燈籠ニ挿入スルトキ火口ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナキモノナルコトヲ要ス

第十四條　石油燈ニハ燈筒ヲ使用スベシ

燈筒ハ無色透明ナル良質ノ硝子ヲ以テ成ルベク薄ク且厚サニ不同ナク製造シ形狀及寸法ハ當該官吏ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第十五條　反射鏡ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザル限リ大形ト爲シ其ノ表面ハ燈火ノ最輝點ヲ中心トスル球面ノ一部ニシテ十分磨キタル後銀色鍍ヲ施シタルモノナルコトヲ要ス但シ乙種兩色燈及操舵目標燈ノ反射鏡ノ表面ハ圓筒形ト爲スコトヲ得

第十六條　油船燈ニハ石油ヲ使用スベシ但シ丁種白燈及操舵目標燈ニハ種油ヲ使用スルコトヲ得

第十七條　油船燈各部ノ寸法ハ第一表ニ依ル

第十八條　水先燈ノ構造及寸法ハ本節ノ規定ニ依ルノ外當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二節　檣燈

第十九條　燈窓ニハ甲種檣燈ニ在リテハ無色透鏡ヲ、乙種檣燈ニ在リテハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第二十條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第二十一條　火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後緣ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第二十二條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後甲種檣燈ニ在リテハ一〇燭光以上、乙種檣燈ニ在リテハ七燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二十三條　檣燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第二十四條　檣燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第三節　舷燈

第二十五條　甲種舷燈ノ燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置シ其ノ內面ニ接シ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

乙種舷燈ノ燈窓ニハ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第二十六條　燈窓硝子ノ後部留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ燈籠ノ側面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

燈窓硝子ノ前部留金ノ緣ヨリ燈籠ノ側面ニ至ル距離ハ該側面ヨリ火口ノ中心ニ至ル距離ヨリ一五ミリメートル以上小ナルコトヲ要ス

第二十七條　著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且左舷舷燈用ノ硝子ヲ右舷舷燈ニ、右舷舷燈用ノ硝子ヲ左舷舷燈ニ挿入シ得ザル構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ金屬枠及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第二十八條　油壺ノ挿入裝置ハ左舷舷燈ノ油壺ヲ右舷舷燈ニ、右舷舷燈用ノ油壺ヲ左舷舷燈ニ挿入シ得ザル構造ト爲スベシ

第二十九條　火口ハ燈籠ノ側面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス方向ニ置キ且火口ノ後緣ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第三十條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後甲種舷燈ニ在リテハ五燭光以上、乙種舷燈ニ在リテハ一〇燭光以上、乙種舷燈ニ在リテハ七燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十一條　燈籠側部ノ掛具及隔板ニ取附クル突起金具ノ形狀及寸法ハ第一圖ニ依ル

隔板ノ形狀及寸法ハ第二圖乃至第四圖ニ依ル

第三十二條　舷燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第三十三條　甲種舷燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第四節　兩色燈

第三十四條　甲種兩色燈ノ燈窓ニハ左舷側ニ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷側ニ綠色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

乙種兩色燈ノ燈窓ニハ左舷側ニ紅色透鏡ヲ、右舷側ニ綠色透鏡ヲ裝置スベシ

第三十五條　甲種兩色燈ノ各側ノ燈窓硝子ノ後部留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第三十六條　燈窓硝子ノ前面中央ニハ竪ニ隔障ヲ設クベシ

隔障ハ燈籠ノ前面ニ鉄附ト爲スベシ

甲種兩色燈ノ燈窓硝子ノ前部留金ノ幅ハ隔障中心ヨリ測リ左右各四ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十七條　火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後緣ノ中央ヲ甲種兩色燈ニ在リテハ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ、乙種兩色燈ニ在リテハ著色透鏡ノ焦點ヲ過ギル垂直軸上ニ置クベシ

第三十八條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用

シ甲種兩色燈ニ在リテハ一六時間繼續燃照後五燭光以上、乙種兩色燈ニ在リテハ八時間繼續燃照後三燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十九條　兩色燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第五節　白燈

第四十條　燈窓ニハ甲種白燈ニ在リテハ無色透鏡又ハ無色圓筒形硝子ヲ、乙種白燈及丙種白燈ニ在リテハ無色棗形硝子ヲ、丁種白燈ニ在リテハ無色球形硝子ヲ裝置スベシ

第四十一條　火口ハ其ノ中心ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第四十二條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後甲種白燈ニシテ無色透鏡ヲ裝置スルモノニ在リテハ四燭光以上、無色圓筒形硝子ヲ裝置スルモノニ在リテハ七燭光以上、乙種白燈ニ在リテハ四燭光以上、丙種白燈ニ在リテハ二燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第四十三條　甲種白燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト下部燈胴トノ間ニ、其ノ他ノ白燈ニハ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第四十四條　油壺ヲ燈底ヨリ挿入スル白燈ニ在リテハ油壺ノ逸脫ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ設クベシ

第六節　紅燈

第四十五條　燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置シ其ノ內面ニ接シ紅色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第四十六條　紅色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナキ構造トス

紅色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

紅色挿入硝子ハ二箇以上ノ硝子ヲ幅七ミリメートル以下ノ金屬枠ヲ以テ竪ニ接合シタル構造トス

前項ノ硝子竪接合ノ金屬枠ハ火口ノ延長線ノ位置外ニ止マルコトヲ要ス

紅色挿入硝子ノ上緣及下緣ニ於ケル金屬枠ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第四十七條　火口ハ其ノ中心ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第四十八條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後一〇燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第四十九條　紅燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第五十條　油壺ヲ燈底ヨリ挿入スル紅燈ニ在リテハ油壺ノ逸脫ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ設クベシ

第七節　三色燈

第五十一條　燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置シ其ノ內面ニ接シ左舷側ニ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷側ニ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第五十二條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第五十三條　燈窓ノ前面ニハ燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ミ船燈ノ對稱面ト左右各二二・五度ノ角度ヲ爲ス平面內ニ中心面ヲ有スル隔障ヲ設クベシ

隔障ハ燈籠前面ニ鉸附ト爲スベシ

第五十四條　著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且紅色硝子ト綠色硝子トヲ挿違スル虞ナキ構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ前緣ニ於ケル金屬枠ノ幅ハ七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

著色挿入硝子ノ上緣、下緣及後緣ニ於ケル金屬枠及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第五十五條　著色挿入硝子ノ前緣ニ於ケル金屬枠ノ幅ノ中心線ハ該線及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト二二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第五十六條　火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後緣ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第五十七條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後一〇燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第五十八條　三色燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第五十九條　三色燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第八節　船尾燈

第六十條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第六十一條　窓燈硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト六七・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第六十二條　火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後緣ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第六十三條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後四燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第六十四條　船尾燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第九節　操舵目標燈

第六十五條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第六十六條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト九〇度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第六十七條　火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後緣ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第六十八條　操舵目標燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第十節　信號燈

第六十九條　燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置スベシ

第七十條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第七十一條　火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ中心ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第七十二條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ五時間繼續燃照後五燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第七十三條　信號燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第七十四條　遮光板ハ敏速ニ開閉シ得ルモノニシテ滑動遮光板ニ在リテハ中央ヨリ兩側ニ開クモノナルコトヲ要ス

鍵盤ハ之ヲ押ヘ附クルニ必要ナル重量ガ四五〇グラム以上九〇〇グラム以下ニシテ其ノ作動距離ハ一〇ミリメートルヲ標準トス

第十一節　安全燈

第七十五條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第七十六條　安全燈內部ニハ燈火ガ直接外氣ニ通ズル部分ニ二重ノ金網ヲ設クベシ

前項ノ金網ハ徑〇・三二ミリメートル乃至〇・四〇ミリメートルノ針金ヲ使用シ一平方センチメートルニ付一四四以上ノ網目ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十七條　安全燈ハ鍵又ハ特殊ノ方法ニ依ラザレバ開放シ得ザル構造ト爲シ且結合部ノ自然的弛緩ヲ防止シ得ル適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第七十八條　安全燈ニハ之ヲ開放セズシテ點火シ得ル裝置ヲ設クベシ

第七十九條　安全燈ハ之ヲ高サ一・五メートルノ箇所ヨリ木床上ニ連續三回墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第八十條　安全燈ハ可燃性混氣中ニテ漏火セザルモノナルコトヲ要ス

第八十一條　口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ五時間繼續燃照後一・五燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第八十二條　安全燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴下部燈胴トノ間ニ金屬製枠棒ヲ取附クベシ

前項ノ枠棒ハ相隣レル枠棒ノ外側ヲ連ネタル直線ガ燈窓硝子ニ接觸セザル構造ト爲スコトヲ要ス

第三章　電氣船燈

第一節　通則

第八十三條　燈籠ハ燈蓋部ニ於テ開閉シ得ル構造ト爲スベシ

燈籠ハ電線ヲ挿入セル部分ヨリ飛沫ガ浸入セザル構造ト爲スベシ

第八十四條　電線ハ電氣工作物規程ニ依ル

第四種絶縁電線ニシテ導體ノ直徑一ミリメートル以上ノ單線又ハ公稱切斷面積〇・九平方ミリメートル以上ノ撚線ナルコトヲ要ス

電線相互間及電線ト燈籠トノ間ノ絶縁抵抗ハ船燈毎ニ二メグオーム以上ナルコトヲ要ス

第八十五條　電球承口ハ內徑二三ミリメートルノ挿込承口ト爲シ上向ニ取附ケ且電球ガ一定ノ位置ヨリ移動セザル構造ト爲スベシ

電球承口ノ垂直軸ハ白燈、紅燈及安全燈ニ在リテハ燈窓硝子ノ垂直軸ノ後方九ミリメートルノ位置ニ在ルコトヲ要ス

電球承口取附臺ハ亞麻仁油ヲ以テ絶縁處理ヲ爲シタル櫟材又ハ櫻材ナルコトヲ要ス

第八十六條　電球ハ籠形金屬纖條ヲ使用セル眞空式白熱電球ナルコトヲ要ス

第八十七條　電氣船燈各部ノ寸法ハ第二表ニ依ル

第八十八條　兩色燈、丙種白燈、丁種白燈、水先燈及操舵目標燈ノ構造及寸法ハ本節ノ規定ニ依ルノ外當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二節　檣燈

第八十九條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第九十條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第九十一條　電球ハ甲種檣燈ニ在リテハ四〇ワット、乙種檣燈ニ在リテハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第九十二條　檣燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈胴

上部ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第三節　舷燈

第九十三條　甲種舷燈ノ燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置シ其ノ內面ニ接シ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

乙種舷燈ノ燈窓ニハ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第九十四條　燈窓硝子ノ後部留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ燈籠ノ側面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

燈窓硝子ノ前部留金ノ緣ヨリ燈籠ノ側面ニ至ル距離ハ該側面ヨリ電球承口ノ中心ニ至ル距離ヨリ一五ミリメートル以上小ナルコトヲ要ス

第九十五條　著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且左舷舷燈用ノ硝子ヲ右舷舷燈ニ、右舷舷燈用ノ硝子ヲ左舷舷燈ニ挿入シ得ザル構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ金屬枠及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第九十六條　電球ハ甲種舷燈ニ在リテハ四〇ワット、乙種舷燈ニ在リテハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第九十七條　燈籠側部ノ掛具及隔板ニ取附クル突起金具ノ形狀及寸法ハ第一圖ニ依ル

隔板ノ形狀及寸法ハ第五圖乃至第七圖ニ依ル

第九十八條　甲種舷燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈胴上部ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第四節　白燈

第九十九條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第百條　電球ハ甲種白燈ニ在リテハ四〇ワット、乙種白燈ニ在リテハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第百一條　白燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第五節　紅燈

第百二條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置シ其ノ內面ニ接シ紅色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第百三條　紅色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナキ構造ト爲スベシ

紅色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

紅色挿入硝子ハ二箇以上ノ硝子ヲ幅七ミリメートル以下ノ金屬枠ヲ以テ堅ニ接合シタル構造ト爲スコトヲ得

紅色挿入硝子ノ上緣及下緣ニ於ケル金屬枠ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第百四條　電球ハ四〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第百五條　紅燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第六節　三色燈

第百六條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置シ其ノ內面ニ接シ左舷側ニ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷側ニ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第百七條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平

面ガ船燈ノ對稱面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第百八條　燈窓ノ前面ニハ燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ミ船燈ノ對稱面ト左右各二二・五度ノ角度ヲ爲ス平面內ニ中心面ヲ有スル隔障ヲ設クベシ

隔障ハ燈籠前面ニ鋲附ト爲スベシ

第百九條　著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且紅色硝子ト綠色硝子トヲ挿違スル虞ナキ構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ前緣ニ於ケル金屬枠ノ幅ハ七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

著色挿入硝子ノ上緣、下緣及後緣ニ於ケル金屬枠及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第百十條　著色挿入硝子ノ前緣ニ於ケル金屬枠ノ幅ノ中心線ハ該線及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第百十一條　電球ハ四〇ワツトノモノナルコトヲ要ス

第百十二條　三色燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈胴上部ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第七節　船尾燈

第百十三條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第百十四條　燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ緣ハ該緣及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト六七・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第百十五條　電球ハ二〇ワツトノモノナルコトヲ要ス

第八節　安全燈

第百十六條　燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第百十七條　蓄電池ヲ使用スル安全燈ニ在リテハ顚倒シタル場合電液ノ流出セザルモノナルコトヲ要ス

第百十八條　電池ノ容量ハ五時間以上有效ニ點燈シ得ルモノナルコトヲ要ス

第百十九條　開閉器其ノ他電氣的接續部ハ防焰密閉室內ニ在ルコトヲ要シ開閉器ハ外部ヨリ操作シ得ルモノナルコトヲ要ス

第百二十條　安全燈ハ鍵又ハ特殊ノ方法ニ依ラザレバ開放シ得ザル構造ト爲シ且結合部ノ自然的弛緩ヲ防止シ得ル適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第百二十一條　安全燈ニハ損傷又ハ故障ニ依リ漏火セザル樣適當ナル「フユーズ」其ノ他ノ安全裝置ヲ設クベシ

第百二十二條　安全燈ハ之ヲ高サ一・五メートルノ箇所ヨリ木床上ニ連續三回墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

墜落試驗ノ際ニハ電池ヲ等型等重ノ他ノモノト交換スルモ妨ナシ

第百二十三條　安全燈ハ可燃性混氣中ニテ點滅ノ際漏火セザルモノナルコトヲ要ス

第百二十四條　電球ハ五ワツト以上ノモノナルコトヲ要ス

第百二十五條　安全燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製枠棒ヲ取附クベシ

前項ノ枠棒ハ相隣レル枠棒ノ外側ヲ連ネタル直線ガ燈窓硝子ニ接觸セザル構造ト爲スコトヲ要ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年六月遞信省令第十九號船燈試驗規程ハ之ヲ廢止ス

第一表

油船燈寸法表

船燈種類	光達距離	射光角度	型種	燈窓硝子						著色挿入硝子ノ厚サ	燈胴寸法								火口寸法			
																			石油用		種油用	
				種類	横截內面角度	透鏡又ハ圓筒形硝子横截內面ノ半徑	無色壺形硝子又ハ無色球形硝子ノ外徑	高サ（窗金部ヲ含ム）	厚サ（透鏡ヲ除ク）		端面ノ幅	側面ノ幅	上部燈胴ノ徑	下部燈胴ノ徑	高サ	板ノ厚サ	捲込針金ノ徑	屏板ノ厚サ	內幅（燈心ノ幅）	板ノ厚サ	內幅（燈心ノ幅）	板ノ厚サ
						(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)	(粍)
甲種檣燈	5海里以上	225°	第一種 第二種	無色透鏡 無色透鏡	230° 230°	115 95	—	180 165	—	—	300 230	300 230	—	—	340 330	0.60 0.60	3.20 3.20	0.90 0.60	32 32	0.45 0.45	—	—
乙種檣燈	3海里以上	225°	—	無色圓筒形硝子	230°	95	—	130	6	—	230	230	—	—	280	0.45	2.60	0.45	25	0.45	—	—
甲種舷燈	2海里以上	112.5°	第一種 第二種	無色透鏡 無色透鏡	125° 125°	125 105	—	180 165	—	3 3	260 210	260 210	— —	— —	340 330	0.60 0.60	3.20 3.20	0.90 0.60	32 32	0.45 0.45	— —	— —
乙種舷燈	1海里以上	112.5°	—	著色圓筒形硝子	125°	100	—	130	5	—	200	200	—	—	280	0.45	2.60	0.45	25	0.45	—	—
甲種兩色燈	1海里以上	左右舷 112.5°	—	著色圓筒形硝子	115°	100	—	130	5	—	220	220	—	—	280	0.45	2.60	0.45	25	0.45	—	—
乙種兩色燈	1海里以上	—	—	著色透鏡	—	—	—	122	—	—	160	160	—	—	190	0.40	2.00	0.40	15	0.35	—	—
甲種白燈	3海里以上	360°	第一種 第二種	無色透鏡 無色圓筒形硝子	360° 360°	95 95	—	165 165	— 6	—	—	—	260 260	260 260	320 320	0.60 0.60	3.20 3.20	—	25 32	0.45 0.45	—	—
乙種白燈	2海里以上	360°	—	無色壺形硝子	360°	—	220	260	4	—	—	—	120	140	440	0.45	2.60	—	25	0.45	—	—
丙種白燈	1海里以上	360°	—	無色壺形硝子	360°	—	220	260	4	—	—	—	120	140	440	0.45	2.60	—	15	0.45	—	—
丁種白燈	—	360°	—	無色球形硝子	360°	—	200	160	4	—	—	—	80	110	260	0.40	2.00	—	15	0.35	25	0.40
紅燈	2海里以上	360°	—	無色透鏡	360°	95	—	165	—	3	—	—	260	260	320	0.60	3.20	—	32	0.45	—	—
三色燈	2海里以上	左右舷 90° 中央 45°	第一種 第二種	無色透鏡 無色透鏡	230° 230°	115 95	—	180 165	—	3 3	300 230	300 230	—	—	340 330	0.60 0.60	3.20 3.20	0.90 0.60	32 32	0.45 0.45	—	—
船尾燈	2海里以上	135°	—	無色圓筒形硝子	140°	85	—	130	5	—	220	220	—	—	280	0.45	2.60	—	25	0.45	—	—
操舵目標燈	—	180°	—	無色圓筒形硝子	185°	65	—	100	3	—	160	160	—	—	190	0.40	2.00	—	15	0.35	25	0.40
信號燈	—	45°	—	無色透鏡	50°	95	—	165	—	—	230	230	—	—	280	0.45	2.60	—	15	0.35	—	—
安全燈	—	360°	—	無色圓筒形硝子	360°	25	—	60	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	徑 6	0.45	—	—

第二表

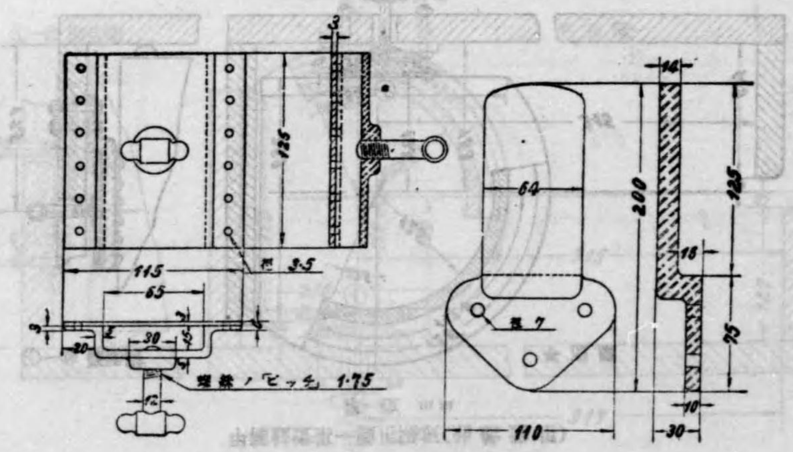
電氣船燈寸法表

船燈種類	光達距離	射光角度	型種	燈窓硝子 種類	燈窓硝子 横截内面角度	燈窓硝子 横截内面半径(粍)	燈窓硝子 高サ(鍔金部ヲ含ム)(粍)	燈窓硝子 厚サ(粍)	著色挿入硝子ノ厚サ(粍)	燈胴寸法 端面ノ幅(粍)	燈胴寸法 側面ノ幅(粍)	燈胴寸法 上部燈胴ノ径(粍)	燈胴寸法 下部燈胴ノ径(粍)	燈胴寸法 高サ(粍)	燈胴寸法 板ノ厚サ(粍)	燈胴寸法 挿込針金ノ径(粍)
甲種燈	5海里以上	225°	第一種	無色圓筒形硝子	230°	115	180	6	—	300	300	—	—	315	0.60	3.20
			第二種	無色圓筒形硝子	230°	95	165	6		230	230			310	0.60	3.20
乙種燈	3海里以上	225°	—	無色圓筒形硝子	230°	95	180	6	—	230	230	—	—	270	0.45	2.60
甲種紋燈	2海里以上	112.5°	第一種	無色圓筒形硝子	125°	125	180	6	3	260	260	—	—	315	0.60	3.20
			第二種	無色圓筒形硝子	125°	105	165	6	3	210	210			310	0.60	3.20
乙種紋燈	1海里以上	112.5°	—	著色圓筒形硝子	125°	100	130	5	—	200	200	—	—	270	0.45	2.60
甲種白燈	3海里以上	360°	—	無色圓筒形硝子	360°	95	165	6	—	—	—	260	260	310	0.60	3.20
乙種白燈	2海里以上	360°	—	無色圓筒形硝子	360°	95	165	6	—	—	—	260	260	310	0.60	3.20
紅燈	2海里以上	360°	—	無色圓筒形硝子	360°	95	165	6	3	—	—	260	260	310	0.60	3.20
三色燈	2海里以上	左右舷90° 中央45°	第一種	無色圓筒形硝子	230°	115	180	6	3	300	300	—	—	315	0.60	3.20
			第二種	無色圓筒形硝子	230°	95	165	6	3	230	230			310	0.60	3.20
船尾燈	2海里以上	135°	—	無色圓筒形硝子	140°	85	130	5	—	220	220	—	—	270	0.45	2.60
安全燈	—	360°	—	無色圓筒形硝子	360°	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—

第一圖

掛具及隔板ニ取附クル突起金具

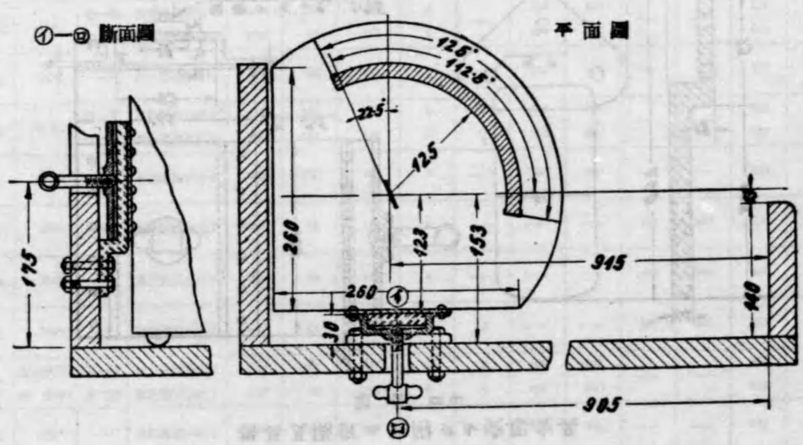
單位 mm



第　二　圖

甲種紘燈第一種用隔板(油船燈用)

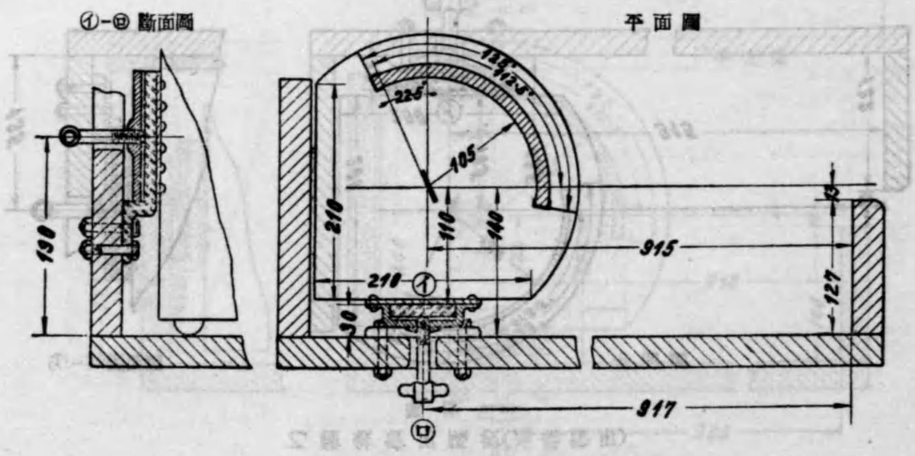
單位 mm



第　三　圖

甲種紘燈第二種用隔板(油船燈用)

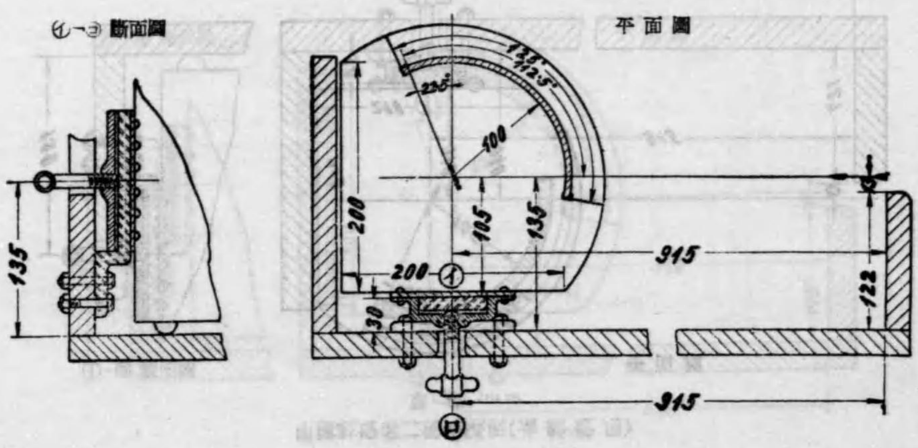
單位 mm



第　四　圖

乙種舷燈用隔板(油船燈用)

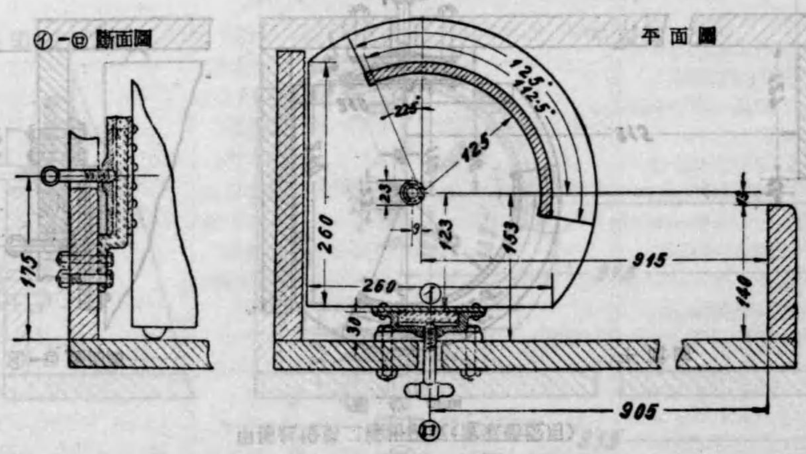
單位 mm



第　五　圖

甲種舷燈第一種用隔板(電氣船燈用)

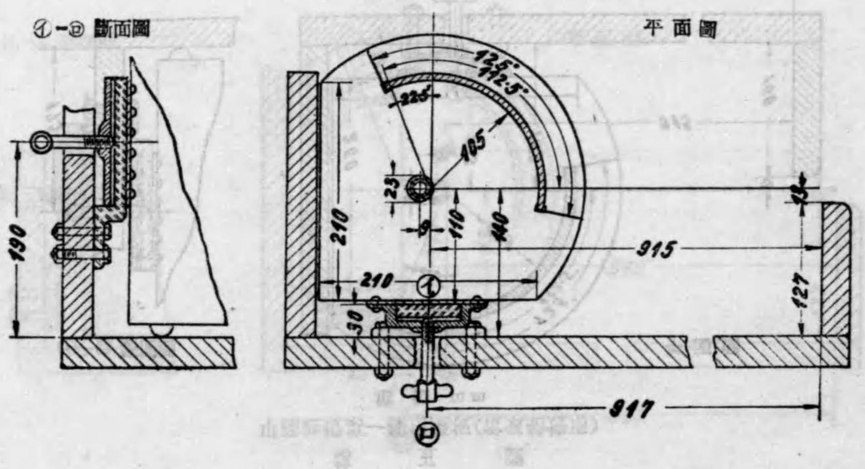
單位 mm



第　六　圖

甲種舷燈第二種用隔板(電氣船燈用)

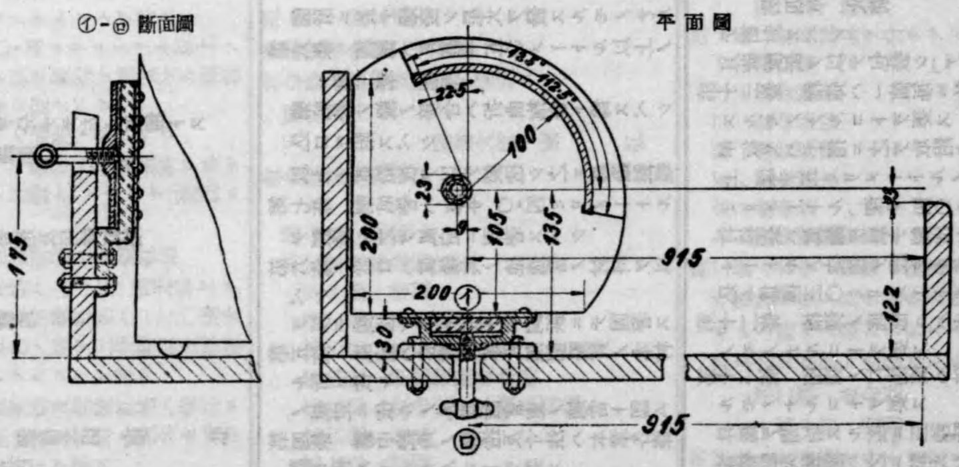
單位 mm



第　七　圖

乙種舷燈用隔板(電氣船燈用)

單位 mm



◉遞信省令第二十號

信號器試驗規程左ノ通定ム

昭和九年二月五日

遞信大臣　南　弘

信號器試驗規程

目　次

信號器試驗規程

第一章　總則

第一條　信號器ヲ分チテ左ノ五種トス

霧中號角
榴彈
火箭
信號青焰
信號紅焰

第二條　本令ノ規定ニ該當セザル信號器ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第二章　霧中號角

第三條　霧中號角ハ手動ヲ以テ一海里以上ノ距離ニ達スル音響ヲ六秒時以上連續發聲シ得ルモノナルコトヲ要ス

第四條　霧中號角ノ構造及寸法ハ本章各條ノ規定ニ依ルノ外當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第五條　風室ハ良質ノ革及無節堅質ノ木材ヲ以テ製造シ革ト板トハ銅鋲ニテ固著スベシ

第六條　歌口ハ眞鍮其ノ他適當ノ材料ヲ以テ製造シ之ヲ風室ニ固著スベシ

第七條　喇叭管ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛板ヲ以テ製造シ之ニ眞鍮製螺込口ヲ附スベシ

喇叭管ノ縱ノ接合ハ折曲抱合ト爲スベシ

第三章　榴彈

第八條　榴彈ハ昇高一五〇メートル以上ノ箇所ニ於テ爆發シ星火ヲ發スルモノナルコトヲ要ス

第九條　榴彈ハ保存ニ堪ヘ點火ニ危險ナク且不時ニ發火セザル品質ノモノナルコトヲ要ス

第十條　榴彈ニハ取附位置ヲ異ニセル自發點火裝置及豫備點火裝置ヲ納メ置クベシ

自發點火裝置ハ雷管式ニシテ之ニ長サ二メートル以上ノ强靱ナル引索ヲ附スベシ

豫備點火裝置ハ之ニ點火シタル後榴彈ガ昇騰ヲ開始スル迄ニ三秒時以上ノ餘裕アルモノナルコトヲ要ス

第十一條　榴彈ノ打揚筒ハ破裂セザル構造ノモノナルコトヲ要ス

第十二條　榴彈ノ底部ニハ之ヲ打揚臺ニ挿込ム爲徑三〇ミリメートル長サ四〇ミリメートルノ突起ヲ設クルコトヲ要ス

打揚臺ハ眞鍮ヲ以テ製造シタル內徑三一ミリメートル、深サ四〇ミリメートル以上、厚サ五ミリメートルノ圓筒ニシテ木甲板又ハ手摺ニ之ヲ取附クル爲ノ鍔ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第十三條　榴彈ハ一箇每ニ防濕塗料ヲ施シ且硫酸紙ヲ以テ包裝シ「アラビヤ」護謨ニテ密封スベシ

第四章　火箭

第十四條　火箭ハ箭竿ト共ニ昇騰シ高サ一五〇メートル以上ノ箇所ニ於テ爆發シ星火ヲ發スルモノナルコトヲ要ス

第十五條　火箭ハ保存ニ堪ヘ點火ニ危險ナク且不時ニ發火セザル品質ノモノナルコトヲ要ス

第十六條　火箭ニハ荒天ニ於テモ點火シ得ル適當ナル點火裝置ヲ納メ置クベシ

第十七條　內筒ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛鍍鐵鋼板ヲ以テ製造シ其ノ縱接合ハ折曲抱合鐵附ト爲スベシ

第十八條　箭竿ノ材料及寸法ハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

箭竿挿ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛鍍鐵鋼板ヲ以テ製造シ適當ナル銅線ヲ以テ筒ニ縛著シ置クベシ

箭竿挿ト銅線トハ鐵附ト爲スベシ

第十九條　火箭ハ一箇每ニ防濕塗料ヲ施シ且硫酸紙ヲ以テ包裝シ「アラビヤ」護謨ニテ密封スベシ

第五章　信號青焰及信號紅焰

第二十條　信號青焰ハ一二〇燭光以上ヲ有スル青色ノ焰ヲ、信號紅焰ハ一二〇燭光以上ヲ有スル紅色ノ焰ヲ三分時以上連續發焰シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二十一條　信號青焰及信號紅焰ハ保存ニ堪ヘ點火ニ危險ナク且不時ニ發火セザル品質ノモノナルコトヲ要ス

第二十二條　信號青焰及信號紅焰ニハ自發點火裝置及豫備點火裝置ヲ納メ置クベシ

第二十三條　信號青焰及信號紅焰ハ一箇每ニ防濕塗料ヲ施シ且硫酸紙ヲ以テ包裝シ「アラビヤ」護謨ニテ密封スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年六月遞信省令第二十號信號器試驗規程ハ之ヲ廢止ス

◉遞信省令第二十一號

救命器具試驗規程左ノ通定ム

昭和九年二月五日

遞信大臣　南　弘

救命器具試驗規程

目　次

附　則

救命器具試驗規程

第一章　總則

第一條　救命器具ヲ分チテ左ノ七種トス

一　救命筏
二　救命艇
三　救命浮器
四　救命浮環
五　救命胴衣
六　救命焰
七　救命索發射器

第二條　本令ノ規定ニ該當セザル救命器具ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第二章　救命艇

第一節　通則

第三條　救命艇ヲ分チテ左ノ五種トス

一　第一級甲型救命艇　內部浮体ノミヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇

二　第一級乙型救命艇　內部浮体及外部浮体ヲ有シ國定舷側ヲ有スル無甲板救命艇

三　第二級甲型救命艇　內部浮体及外部浮体ヲ有シ舷側ノ上部ヲ疊込ミ得ル無甲板救命艇

四　第二級乙型救命艇　固定水密舷墻又ハ疊込ミ得ル水密舷墻ヲ有スル有甲板救命艇

五　發動機附救命艇　第一級救命艇ニシテ發動機ヲ備フルモノ

第四條　救命艇ハ其ノ構造適當ニシテ海上ニ於テ十分ナル復原性ヲ有シ且人及艤裝品ヲ滿載シタルトキ十分ノ乾舷ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

救命艇ハ人及艤裝品ヲ滿載シテ之ヲ安全ニ水面ニ卸シ得ルニ十分ナル强力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第五條　救命艇ノ浮力ハ其ノ使用ニ先チ艇体ノ主要部分ニ付特別ノ操作ヲ要セズシテ得ラルルモノナルコトヲ要ス

第六條　救命艇ノ重量ハ人及艤裝品ヲ滿載シタル場合二〇、三〇〇キログラムヲ超ユルコトヲ得ズ

第七條　救命艇ノ容積ハ三・五立方メートル未滿ナルコトヲ得ズ

第八條　第六節ノ規定ニ依リ算出シタル定員ガ一〇〇人以上トナルベキ救命艇ハ發動機附救命艇ト爲スコトヲ要ス

第九條　救命艇ノ內部浮体ニハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル金屬製水密空氣箱ヲ使用スベシ

一　空氣箱ハ厚サ〇・六〇ミリメートル以上ノ良質ノ銅板、黃銅板又ハ當該官吏ノ適當ト認ムル耐久材料ニテ構成スルコト（亞鉛板、亞鉛鍍鐵鋼板又ハ銅鍍鐵鋼板ヲ使用スルコトヲ得ズ）

二　空氣箱ノ長サハ一二〇センチメートルヲ超エザルコト

三　空氣箱ニハ波形ノ金屬板ニテ構成スルモノヲ除キ其ノ長サ一〇〇センチメートルヲ超ユルモノナルトキハ補强ノ爲空氣箱內部ニ仕切板ヲ設クルコト

四　空氣箱ヲ構成スル金屬板ノ繼目ハ幅一〇ミリメートル以上ノ二重折曲抱合ト爲シ良ク槌打シ且鑢附スルコト但シ端部ノ繼目ハ折曲ト爲スモ妨ナキコト

五　空氣箱ヲ波形ノ金屬板ニテ構成スル場合ニハ繼目ニ於ケル波形ノ部分ニ罅ノ發生スルコトヲ防止スル爲空氣箱ヲ構成スルニ先チ板ヲ十分燒鏈スルコト

六　空氣箱ニハ之ニ木製ノ仕切板ヲ取附クル等ノ爲穿孔セザルコト

七　空氣箱ハ每平方センチメートル〇・〇七キログラムノ空氣壓ヲ以テ試驗シ空氣ノ漏洩セザルモノナルコト

八　空氣箱ノ表面ニハ煮沸セル亞麻仁油又ハ良質ノ「ワニス」若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル塗料ヲ塗布スルコト

九　空氣箱ヲ取附クルニハ之ヲ鐵鋼部ニ接觸セシメザルコト

第十條　救命艇ノ外部浮体ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　外部浮体ハ「コルク」又ハ之ト同等ノ效力ヲ有スル材料ヲ以テ構成スルコト（閘、「コルク」屑若ハ散粒狀材料ヲ使用スルコトヲ得ズ）

二　外部浮体ヲ構成スル「コルク」ハ之ヲ良質ノ防水帆布ヲ以テ包ミタル上適當ノ塗料ヲ塗布スルコト

三　外部浮体ハ空氣ニ依リ膨脹セシメラレタルモノナラザルコト

四　「コルク」以外ノ材料ヲ以テ構成シタル外部浮体ノ容積及配置ハ救命艇ノ浮力及復原性ガ「コルク」製浮体ヲ備フル場合ト同等トナル樣之ヲ定ムルコト

五　外部浮体ハ救命艇ヲ卸ストキ船側ニ接スルモ裂損ヲ生ズルコトナキ形狀ト爲シ其ノ下緣ガ救命艇ノ滿載吃水線ヨリ稍高キ位置ニ在ル樣之ヲ艇体ニ取附クルコト

六　外部浮体ハ各舷三箇ヲ連續シタルモノト爲シ必要ニ應ジ艇体ヨリ取外シ得ルモノナルコト

第二節　第一級救命艇

第十一條　第一級救命艇ノ船首材及船尾材ニ於テ測リタル舷弧ノ高サノ平均ハ艇ノ長サノ四％以上ナルコトヲ要シ其ノ水密空氣箱ノ配置ハ荒天ノ際滿載狀態ニテ艇ノ復原性ヲ確保シ得ルモノナルコトヲ要ス

第十二條　第一級甲型木製救命艇ノ水密空氣箱ノ容積ハ艇ノ容積ノ一〇％以上ナルコトヲ要ス

第十三條　第一級乙型木製救命艇ノ水密空氣箱ノ容積ハ艇ノ容積ノ七・五％以上、「コルク」製外部浮体ノ容積ハ艇ノ容積ノ三・三％以上ナルコトヲ要ス

第十四條　第一級金屬製救命艇ニ在リテハ其ノ浮力ガ第十二條又ハ前條ノ規定ニ依ル第一級木製救命艇ト同等トナル樣浮体ノ容積ヲ定ムベシ

第三節　第二級救命艇

第十五條　第二級甲型救命艇ノ長サノ中央水密ナルコトヲ要ス

第十六條　第二級甲型救命艇ノ上面ヨリ測リノ舷側ニ於ケル固定艇体ノ上面ヨリ測リタル乾舷ハ滿載狀態ニ於テ淡水中ニテ左表ニ揭グルモノヨリ小ナラザルコトヲ要ス

救命艇ノ長サ（米）	最小乾舷（粍）
七・九〇	二〇〇
八・五〇	二二五
九・一五	二五〇

備考

救命艇ノ長サガ表ニ揭グルモノニ該當セザルトキハ挿間法ニ依リ最小乾舷ヲ求ムベシ

第十七條　第二級甲型木製救命艇ノ水密空氣箱ノ容積ハ定員一人ニ付四三立方デシメートル以上、「コルク」製外部浮体ノ容積ハ定員一人ニ付六立方デシメートル以上ナルコトヲ要ス

第十八條　第二級甲型金屬製救命艇ニ在リテハ其ノ浮力ガ前條ノ規定ニ依ル第二級甲型木製救命艇ト同等トナル樣浮体ノ容積ヲ定ムベシ

第三節　第二級乙型救命艇

第十九條　第二級乙型救命艇ハ栓孔ヲ有セザルモノニシテ甲板上ヨリ水ヲ排除スルニ有效ナル裝置ヲ備フルモノナルコトヲ要シ且甲板ノ形狀ニ應ジ左ノ各號ノ一ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　凹甲板救命艇ニ在リテハ凹甲板ノ面積ハ甲板全面積ノ三〇％以上ト爲シ凹甲板ノ水面上ノ高サハ其ノ最低箇所ニ於テ艇ノ長サノ〇・五％以上、其ノ兩端ニ於テ艇ノ長サノ一・五％以上ト爲シ且乾舷ハ三五％以上ノ豫備浮力ヲ供スルモノト爲スコト

二　平甲板救命艇ニ在リテハ艇ノ長サノ中央ノ舷側ニ於ケル甲板ノ上面ヨリ測リタル乾舷ハ滿載狀態ニ於テ淡水中ニテ左表ニ揭グルモノヨリ小ナラザルコト

救命艇ノ深サ(粍)	最小乾舷(粍)
三一〇	七〇
四六〇	九五
六一〇	一三〇
七六〇	一六五

備考

一　救命艇ノ深サハ長サノ中央ニ於テ龍骨翼板ノ下面ヨリ舷側ニ於ケル甲板ノ上面迄ノ垂直距離トス

二　救命艇ノ深サガ表ニ揭グルモノニ該當セザルトキハ挿間法ニ依リ最小乾舷ヲ求ムベシ

三　船首材及船尾材ニ於テ測リタル舷弧ノ高サノ平均ガ艇ノ長サノ三%ヨリ小ナルトキハ最小乾舷ハ表ニ揭グルモノニ艇ノ長サノ三%ト該平均トノ差ノ一四・三%ヲ加ヘタルモノト爲スベシ

第四節　發動機附救命艇

第二十條　發動機附救命艇ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　第一級救命艇ニ關スル規定ニ適合シ且發動機、探照燈及無線電信設備竝ニ其ノ附屬物ノ重量ト此等ヲ除キタルトキ艇ニ追加收容シ得ベキ人員ノ重量トノ差ヲ補フニ足ル樣十分ニ浮休ノ容積ヲ增加スルコト

二　發動機及其ノ附屬物ハ荒天狀態ニ於テモ確實ニ操作シ得ル樣適當ニ之ヲ蔽圍スルコト

三　後退ノ爲ノ裝置ヲ備フルコト

四　速力ハ滿載狀態ニテ平水ニ於テ一時間ニ付六海里以上ナルコト

五　一〇〇人以上ノ定員ヲ有スル發動機附救命艇ニ在リテハ浮休ノ容積ヲ該當官吏ノ適當ト認ムル所ニ從ヒ增加スルコト

第五節　救命艇ノ容積及面積

第二十一條　第一級救命艇ノ容積立方メートルニテハ左ノ算式ニ依リ算定スベシ

$$容積=\frac{l}{12}(4A+2B+4C)$$

lハ船首材ニ於ケル外板ノ內面ヨリ船尾ノ形狀尖形ナルトキハ船尾材ニ於ケル外板ノ內面迄、方形ナルトキハ船尾橫板ノ內面迄測リタル救命艇ノ長サニテ

A、B及Cハ一ノ一端ヨリ順次其ノ四分ノ一、二分ノ一及四分ノ三ノ箇所ニ於ケル艇体ノ橫截面積平方メートルニテ

第二十二條　前條ノ橫截面積平方メートルニテA、B及Cハ夫々左ノ算式ニ依リ算定スベシ

$$面積=\frac{h}{12}(a+4b+2c+4d+e)$$

hハ外板ノ內面ニ於テ龍骨ヨリ舷端迄測リタル當該橫截面ノ深サメートルニテ

a及eハhノ兩端ニ於ケル外板ノ內面ヨリ內面迄ノ幅メートルニテ

b、c及dハhノ一端ヨリ順次其ノ四分ノ一、二分ノ一及四分ノ三ノ箇所ニ於ケル外板ノ內面ヨリ內面迄ノ幅メートルニテ

前項ノ算式ニ依リ橫截面ヲ算定スルニ當リテハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　橫截面積A又ハCノ算定ニ於テ當該橫截面ニ於ケル舷弧ノ高サガ艇ノ長サノ一%ヲ超ユルトキハ超過部分ニ相當スル面積ハ之ヲ橫截面積ニ算入スベカラズ

二　中央橫截面積Bノ算定ニ於テ當該橫截面ニ於ケル舷端迄ノ深サガ最大內法幅ノ四五%ヲ超ユルトキハ超過部分ニ相當スル面積ハ之ヲ橫截面積ニ算入スベカラズ

三　前號ノ場合橫截面積A又ハCノ算定ニ於テ當該橫截面ニ於ケル舷端迄ノ深サガ中央橫截面ノ最大內法幅ノ四五%ニ艇ノ長サノ一%ヲ加ヘタルモノヲ超ユルトキハ超過部分ニ相當スル面積ハ之ヲ橫截面積ニ算入スベカラズ

第二十三條　發動機附救命艇ノ容積ハ第二十一條ノ規定ニ依ル容積ヨリ發動機、探照燈及無線電信設備竝ニ其ノ附屬物ノ占ムル容積ヲ控除シタルモノトス

第二十四條　第二級甲型救命艇ノ固定舷側內ノ面積平方メートルニテ又ハ第二級乙型救命艇ノ甲板面積平方メートルニテハ左ノ算式ニ依リ算定スベシ

$$容積=\frac{l}{12}(4A+2B+4C)$$

lハ船首材ニ於ケル外板ノ內面ヨリ船尾ノ形狀尖形ナルトキハ船尾材ニ於ケル外板ノ內面迄、方形ナルトキハ船尾橫截面ノ深サニテ

A、B及Cハlノ一端ヨリ順次其ノ四分ノ一、二分ノ一及四分ノ三ノ箇所ニ於ケル橫截面積平方メートルニテ

$$面積=\frac{l}{12}(2a+1.5b+4c+1.5d+2e)$$

lハ外板ノ外面ト船首材トノ交點ヨリ船尾材ニ於ケル之ニ相當スル點迄ノ長サメートルニテ

a、b、c、d及eハlノ一端ヨリ順次其ノ八分ノ一、四分ノ一、二分ノ一、四分ノ三及八分ノ七ノ箇所ニ於テ舷端又ハ甲板上面ニテ測リタル外板ノ外面ヨリ外面迄ノ幅メートルニテ

第二十五條　第一級救命艇ノ容積立方メートルニテハ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ第二十一條ノ規定ニ依ラズ左ノ算式ニ依リ算定スルコトヲ得

$$容積=L\times B\times D\times 0.6$$

Lハ船首材ニ於ケル外板ノ外面ヨリ船尾ノ形狀尖形ナルトキハ船尾材ニ於ケル外板ノ外面迄、方形ナルトキハ船尾橫板ノ外面迄測リタル救命艇ノ長サメートルニテ

Bハ艇体最廣部ニ於ケル外板ノ外面ヨリ外面迄測リタル救命艇ノ幅メートルニテ

Dハ艇ノ長サノ中央ニ於テ龍骨ニ於ケル外板ノ內面ヨリ舷端迄測リタル救命艇ノ深サメートルニテ

前項ノ算式ニ依リ容積ヲ算定スルニ當リテハDガBノ四五%ヲ超ユルトキハDノ値ハBノ四五%ニ止ム

第六節　定員

第二十六條　第一級救命艇ノ定員ハ其ノ容積立方メートルニテヲ左表ニ揭グル單位容積ニテ除シ、第二級救命艇ノ定員ハ固定舷側內又ハ甲板ノ面積平方メートルニテヲ左表ニ揭グル單位面積ニテ除シ之ヲ定ムベシ

救命艇ノ種類	單位容積又ハ單位面積
第一級甲型救命艇	〇・二八三立方メートル
第一級乙型救命艇	〇・二五五立方メートル
第二級救命艇	〇・三二五平方メートル

第二十七條　有甲板救命艇ニ在リテハ座席設備ニ相當スル人員ガ前條ノ定員ヨリ大ナルトキハ當該官吏ハ實地試驗ノ上其ノ定員ヲ增加スルコトヲ得但シ甲板面積平方メートル數ヲ〇・二八〇ニテ除シテ得タル數ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ試驗ニ於テ凹甲板救命艇ノ側部ニ於ケル甲板ノ高マリタル部分ハ之ヲ座席ニ充ツルコトヲ得

第二十八條　救命艇ノ定員ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ必要ニ應ジ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ制限スベシ

一　前二條ノ規定ニ依ル定員ガ座席設備ニ相當スル人員ヨリ多キトキハ定員ヲ座席設備ニ相當スル人員ニ止ムベシ此ノ場合座席設備ニ相當スル人員ハ總員ノ著席シタルトキ櫂ノ使用ヲ妨ゲザル樣之ヲ決定スベシ

二　第二級救命艇ニ在リテハ滿載狀態ニ於ケル乾舷ガ第十六條又ハ第十九條ニ規定スル乾舷ヨリ小ナルトキハ該規定ニ適合スル迄定員ヲ減少スベシ

三　深サ一、二二センチメートルヲ超ユル第一級救命艇ニ在リテハ第二十六條ニ依ル定員ニ一、二二センチメートルト艇ノ實際ノ深サトノ比ヲ乘ジテ得タル人員迄定員ヲ減少スベシ但シ實地試驗ノ上減少ノ程度ヲ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムル限度ニ止ムルコトヲ得

第二十九條　鋭尖ナル兩端ヲ有スル救命艇又ハ形狀著シク肥滿セル救命艇ノ定員ノ算定ハ當該官吏ノ適當ト認ムル方法ニ依ル

第三十條　救命艇ノ實地試驗ハ救命胴衣ヲ著用シタル大人ヲ搭載シテ之ヲ行フベシ

有甲板救命艇ノ乾舷ノ檢査ハ定員一人ニ付七五キログラムノ重量ヲ積載シテ之ヲ行フベシ

第七節　雜則

第三十一條　救命艇ニハ其ノ舷側ノ外周ニ沿ヒ長サ六一センチメートル毎ニ一箇ノ把握部ヲ有スル把索ヲ取附クベシ

前項ノ把握部ノ中央ハ救命艇ノ滿載吃水線ニ近キコトヲ要ス

第三十二條　救命艇ニハ明瞭且耐久的ノ文字ヲ以テ左ノ各號ノ標示ヲ爲スベシ

一　型式承認番號（型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル）

二　製造番號

三　寸法（第二十五條第一項ニ示スL、B及D）

四　定員

五　重量（滿載狀態ノ重量）

六　製造年月

七　製造者ノ氏名又ハ名稱

第三章　救命筏

第三十三條　救命筏ノ定員ハ該救命筏ノ甲板面積平方メートル數ヲ〇・三七二ニテ除シタル數及浮体ノ全容積立方デシメートル數ヲ八五ニテ除シタル數ノ中何レカ小ナルモノヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十四條　救命筏ハ上下何レノ面ヲ上ニシテ浮ベタル場合ニ於テモ有效ニシテ定員一人ニ付七五キログラムノ割合ノ鐵片ヲ其ノ重心ガ筏ノ甲板面ヨリ〇・六メートルノ位置ニ在ル樣ニ搭載シ且屬具ヲ搭載シタル場合相當ノ復原性及乾舷ヲ保持スルモノナルコトヲ要ス

第三十五條　救命筏ハ之ヲ使用スルニ先チ特別ノ操作ヲ要セズ且容易迅速ニ取扱ヒ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十六條　救命筏ハ構造堅牢ニシテ船舶ノ甲板ヨリ之ヲ投下スルモノニ在リテハ救命筏搭載甲板ヨリ該船舶ノ最低航海吃水線迄ノ高サニ等シキ高サヨリ水面ニ墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要シ機械的裝置ニ依リ進水セシムルモノニ在リテハ其ノ强力ハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第三十七條　救命筏ノ重量ハ七五〇キログラムヲ超ユルコトヲ得ズ但シ機械的裝置ニ依リ進水セシムル救命筏ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第三十八條　救命筏ノ浮体ハ水密ナル空氣箱又ハ當該官吏ニ於テ適當ト認ムル浮力材料ヨリ成ルコトヲ要シ浮体ノ浮力ガ空氣ニ依ルモノナル場合ニハ膨脹セシムル必要ナキモノナルコトヲ要ス

第三十九條　浮体ハ出來得ル限リ救命筏ノ側部ニ近ク之ヲ配置スルコトヲ要ス

第四十條　金屬製空氣箱ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　空氣箱ハ厚サ〇・六〇ミリメートル以上ノ良質ノ銅板又ハ黃銅板若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル耐久材料ニテ構成スルコト（亞鉛板、亞鉛鍍鐵鋼板又ハ銅鍍鐵鋼板ヲ使用スルコトヲ得ズ）

二　空氣箱ノ長サハ一、二〇センチメートルヲ超エザルコト

三　空氣箱ニハ波形ノ金屬板ニテ構成スルモノヲ除キ其ノ長サガ七五センチメートルヲ超ユルモノナルトキハ補强ノ爲空氣箱內部ニ仕切板又ハ支肘ヲ設クルコト

四　空氣箱ヲ構成スル金屬板ノ繼目ハ幅一〇ミリメートル以上ノ折曲抱合ト爲シ良ク槌打シ且鑢附スルコト但シ端部ノ繼目ハ折曲ト爲スモ妨ナキコト

五　空氣箱ヲ波形ノ金屬板ニテ構成スル場合ニハ繼目ニ於ケル波形ノ部分ニ裂疵ノ發生スルコトヲ防止スル爲空氣箱ヲ構成スルニ先チ板ヲ十分ニ燒鈍スルコト

六　空氣箱ニハ之ニ木製ノ仕切板又ハ支肘ヲ取附タル等ノ爲穿孔セザルコト

七　空氣箱ハ每平方センチメートル〇・一〇キログラムノ空氣壓ヲ以テ試驗シ空氣ノ漏洩セザルモノナルコト

八　空氣箱ノ表面ニハ煮沸セル亞麻仁油又ハ良質ノ「ワニス」若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル塗料ヲ塗布スルコト

九　空氣箱ヲ取附クルニハ之ヲ鐵鋼部ニ接觸セシメザルコト

第四十一條　浮体ハ包箱又ハ包枠ヲ以テ之ヲ防護シ動カザル樣取附クルコトヲ要ス

第四十二條　救命筏ノ主枠組ニ使用スル木材ハ堅材ナルコトヲ要ス

浮体ヲ防護スル爲ノ包箱、包枠又ハ甲板ニ使用スル木材ハ柔材ナルモ妨ナシ

第四十三條　救命筏ハ其ノ兩面ニ木材、帆布其ノ他適當ナル材料ニテ造リタル固定又ハ疊込ノ舷墻ヲ備フルコトヲ要ス

第四十四條　救命筏ニハ當該官吏ノ適當ト認ムル位置ニ五箇以上ノ櫂架孔ヲ設クルコトヲ要ス

第四十五條　救命筏ニハ其ノ周邊ニ沿ヒ周邊ノ長サ三〇・五センチメートル每ニ一箇ノ把握部ヲ有スル二列ノ把索ヲ其ノ一ハ浮体ノ頂面ヨリ稍上部ニ、他ハ浮体ノ底面ヨリ稍下部ニ取附クルコトヲ要ス

前項ノ把索ハ良質ノ「マニラ」索ニシテ徑一二ミリメートル以上ノモノナルコトヲ要シ把握部ニハ外徑四センチメートル長サ一〇センチメートルノ木製浮子ヲ附スルコトヲ要ス

第四十六條　救命筏ニハ左ノ各號ノ條件ニ從ヒ繫索ヲ備フルコトヲ要ス

一　繫索ノ長サハ救命筏ヲ搭載スル甲板ヨリ該船舶ノ最低航海吃水線迄ノ高サ

ニ二メートルヲ加ヘタルモノ以上ナルコト但シ一八メートルヨリ長キコトヲ要セザルコト

二　繋索ハ良質ノ「マニラ」索トシ其ノ大サハ救命筏ノ重量五〇〇キログラム以下ノモノニ在リテハ徑二四ミリメートル以上、五〇〇キログラムヲ超ユルモノニ在リテハ徑三〇ミリメートル以上ナルコト

三　繋索ヲ救命筏ニ取附クルニハ救命筏ニ堅牢ニ取附ケタル亞鉛鍍セル錬鐵製又ハ銅製ノ鐶附螺釘及母螺其ノ他適當ノ方法ニ依ルコト

四　前號ノ鐶附螺釘ノ鐶材ノ徑ハ徑二四ミリメートルノ繋索ニ對シテハ一一ミリメートル、徑三〇ミリメートルノ繋索ニ對シテハ一六ミリメートルナルコト

第四十七條　救命筏ニハ明瞭且耐久的ノ文字ヲ以テ左ノ各號ノ標示ヲ爲スベシ

一　型式承認番號（型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル）

二　製造番號

三　定員

四　重量

五　墜落試驗ノ高サ

六　製造年月

七　製造者ノ氏名又ハ名稱

第四章　救命浮器

第四十八條　救命浮器ノ定員ハ該救命浮器ノ全浮力キログラム數ヲ一四・五ニテ除シタル數及周邊ノ長サセンチメートル數ヲ三〇・五ニテ除シタル數ノ中何レカ小ナルモノヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十九條　救命浮器ハ上下何レノ面ヲ上ニシテ浮ベタル場合ニ於テモ有效ニシテ任意ノ邊ニ長サ三〇・五センチメートルニ付七・五キログラムノ割合ノ鐵片ヲ把索ニ吊シタルトキ相當ノ復原性及乾舷ヲ保持スルモノナルコトヲ要ス

第五十條　救命浮器ハ之ヲ使用スルニ先チ特別ノ操作ヲ要セズ且機械的裝置ナクシテ容易迅速ニ取扱ヒ得ルモノニシテ必要ニ應ジ之ヲ搭載セル甲板ヨリ水面ニ投下シ得ルモノナルコトヲ要ス

第五十一條　救命浮器ノ幅ハ一〇五センチメートル以上ナルコトヲ要ス

第五十二條　救命浮器ハ構造堅牢ニシテ之ヲ搭載スル甲板ヨリ該船舶ノ最低航海吃水線迄ノ高サニ等シキ高サヨリ水面ニ墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第五十三條　救命浮器ノ重量ハ一八〇キログラムヲ超ユルコトヲ得ズ

重量一三五キログラムヲ超ユル救命浮器ニ在リテハ之ガ取扱ヲ容易ナラシムル爲適當ナル把手又ハ棧木ヲ取附ケ置クコトヲ要ス

前項ノ把手又ハ棧木ハ船舶ノ手摺ヲ越エテ救命浮器ヲ辷リ落サシムルニ支障ヲ來サザルモノナルコトヲ要ス

第五十四條　救命浮器ヲ淡水ニ浮ベタルトキ之ニ吊シ得ル鐵片ノ重量キログラムヲ以テ救命浮器ノ全浮力トス

第五十五條　救命浮器ノ浮体ハ水密ナル空氣箱又ハ當該官吏ニ於テ適當ト認ムル浮力材料ヨリ成ルコトヲ要シ浮体ノ浮力ガ空氣ニ依ルモノナル場合ニハ救命浮器ノ使用ニ先チ膨脹セシムル必要ナキモノナルコトヲ要ス

第五十六條　浮体ハ出來得ル限リ救命浮器ノ側部ニ近ク之ヲ配置スルコトヲ要ス

第五十七條　金屬製空氣箱ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　空氣箱ハ厚サ〇・六〇ミリメートル以上ノ良質ノ銅板又ハ黃銅板若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル耐久材料ニテ構成スルコト（亞鉛板、亞鉛鍍鐵鋼板又ハ銅鍍鐵鋼板ヲ使用スルコトヲ得ズ）

二　空氣箱ノ長サハ一二〇センチメートルヲ超エザルコト

三　空氣箱ニハ波形ノ金屬板ニテ構成スルモノヲ除キ其ノ長サガ七五センチメートルヲ超ユルモノナルトキハ補强ノ爲空氣箱內部ニ仕切板又ハ支肘ヲ設クルコト

四　空氣箱ヲ構成スル金屬板ノ纖目ハ幅一〇ミリメートル以上ノ折曲抱合ト爲シ良ク槌打シ且ツ鐵附スルコト但シ端部ノ纖目ハ折曲ト爲スモ妨ナキコト

五　空氣箱ヲ波形ノ金屬板ニテ構成スル場合ニハ纖目ニ於ケル波形ノ部分ニ裂疵ノ發生スルコトヲ防止スル爲空氣箱ヲ構成スルニ先チ板ヲ十分ニ燒鈍スルコト

六　空氣箱ニハ之ニ木製ノ仕切板又ハ支肘ヲ取附クル等ノ爲穿孔セザルコト

七　空氣箱ハ每平方センチメートル〇・一〇キログラムノ空氣壓ヲ以テ試驗シ空氣ノ漏洩セザルモノナルコト

八　空氣箱ノ表面ニハ煮沸セル亞麻仁油又ハ良質ノ「ワニス」若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル塗料ヲ塗布スルコト

九　空氣箱ヲ取附クルニハ之ヲ鐵鋼部ニ接觸セシメザルコト

第五十八條　浮体ハ包箱又ハ包枠ヲ以テ之ヲ防護シ動カザル樣取附クルコトヲ要ス

第五十九條　救命浮器ノ主枠組ニ使用スル木材ハ堅材ナルコトヲ要ス但シ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

浮体ヲ防護スル爲ノ包箱又ハ包枠ニ使用スル木材ハ柔材ナルモ妨ナシ

第六十條　救命浮器ニハ其ノ周邊ニ沿ヒ救命浮器ノ定員ト同數ノ把握部ヲ有スル把索ヲ取附クルコトヲ要ス

前項ノ各把握部ニハ外徑四センチメートル長サ一〇センチメートルノ木製浮子ヲ附スルコトヲ要ス

把握部ノ弛ミノ深サハ把索ガ濡レタルトキ一五センチメートル以上二〇センチメートル以下ナルコトヲ要ス

把索ハ深サ三〇センチメートル以下ノ救命浮器ニ在リテハ之ヲ深サノ中央線ニ沿ヒ一列ニ取附クルコトヲ要シ深サ三〇センチメートルヲ超ユル救命浮器ニ在リテハ之ヲ二列トシ其ノ一ハ浮体ノ頂面ヨリ稍下部ニ、他ハ浮体ノ底面ヨリ稍上部ニ取附クルコトヲ要ス

把索ハ良質ノ「マニラ」索ニシテ徑一二ミリメートル以上ノモノナルコトヲ要ス

把索ヲ救命浮器ニ取附クルニハ亞鉛鍍セル錬鐵製又ハ鋼製ノ鐶附螺釘及母螺ヲ使用スルカ又ハ救命浮器ノ外周ヲ形成スル枠材ニ孔ヲ穿チ之ニ直接把索ヲ通ズベシ

第六十一條　救命浮器ニハ左ノ各號ノ條件ニ從ヒ繋索ヲ備フルコトヲ要ス

一　繋索ノ長サハ救命浮器ヲ搭載スル甲板ヨリ該船舶ノ最低航海吃水線迄ノ高サニ二メートルヲ加ヘタルモノ以上ナルコト但シ一八メートルヨリ長キコトヲ要セザルコト

二　繋索ハ良質ノ「マニラ」索トシ其ノ大サハ救命浮器ノ重量一三五キログラム以下ノモノニ在リテハ徑一六ミリメートル以上、一三五キログラムヲ超ユル

モノニ在リテハ徑二〇ミリメートル以上ナルコト

三　繫索ヲ救命浮器ニ取附クルニハ救命浮器ニ堅牢ニ取附ケタル亞鉛鍍セル鍊鐵製又ハ鋼製ノ鐶附螺釘及母螺其ノ他適當ノ方法ニ依ルコト

四　前號ノ鐶附螺釘ノ鐶材ノ徑ハ一一ミリメートルナルコト

第六十二條　救命浮器ノ側部ハ旅客ノ注意ヲ喚起スル爲紅白交互ノ條線ニ塗裝スベシ

第六十三條　救命浮器ニハ明瞭且耐久的ノ文字ヲ以テ左ノ各號ノ標示ヲ爲スベシ

一　型式承認番號（型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル）

二　製造番號

三　定員

四　重量

五　墜落試驗ノ高サ

六　製造年月

七　製造者ノ氏名又ハ名稱

第五章　救命浮環

第六十四條　救命浮環ハ一四・五キログラムノ鐵片ヲ附シ淡水ニ於テ二四時間以上浮ビ得ルモノナルコトヲ要ス

第六十五條　救命浮環ハ高サ一八メートルノ箇所ヨリ水面ニ墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第六十六條　救命浮環ノ內徑ハ四二〇ミリメートルト爲シ外徑ハ七五〇ミリメートル以上、厚サハ一〇〇ミリメートル以上、橫截面ノ周ハ四五〇ミリメートル以上ト爲スベシ

第六十七條　救命浮環ノ浮力材料ハ一八箇以內ノ「コルク」塊又ハ「バルサ」塊ヲ木釘ヲ以テ固著シタルモノト爲スベシ

「コルク」ハ黑肌其ノ他ノ瑕疵ヲ有セザル天然「コルク」ニシテ其ノ重量一〇〇立方センチメートルニ付一二・五グラム以下ノモノナルコトヲ要ス

「バルサ」ハ樹皮其ノ他ノ瑕疵ヲ有セズ且十分ニ蒸氣乾燥ヲ施シタル良質ノモノナルコトヲ要ス

第六十八條　救命浮環ノ帆布ヲ以テ外裝シ之ニ酸化亞鉛ヲ主成分トスル防水塗料ヲ三回以上塗布スベシ

帆布ハ一平方メートルニ付三四五グラム以上ノ重量ヲ有シ且幅三〇ミリメートルノ試驗片ニ付長サ一〇〇ミリメートルニテ試驗シ經緯共四〇キログラム以上ノ强力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第六十九條　救命浮環ニハ四箇ノ縛帶ヲ縫著シ其ノ一箇ニハ檢印押捺用ノ孔ヲ設ケ其ノ周緣ハ飾縫ト爲シ且孔蓋ヲ縫著スベシ

縛帶ハ幅六〇ミリメートル以上ト爲シ外裝布ト同一ノ帆布ヲ二重合縫ト爲シタルモノナルコトヲ要ス

第七十條　救命浮環ニハ其ノ周圍ニ把索ヲ附スベシ

把索ハ良質ノ「マニラ」索トシ徑一〇ミリメートル以上、總長三メートル以上ニシテ接合部ニ於テモ三〇〇キログラム以上ノ强力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十一條　「ミシン」縫ニハ長サ二〇〇ミリメートルニテ試驗シ二キログラム以上ノ强力ヲ有スル亞麻絲又ハ綿絲ヲ使用スベシ

手縫ニハ長サ二〇〇ミリメートルニテ試驗シ二三キログラム以上ノ强力ヲ有スル亞麻絲ヲ使用スベシ

第七十二條　「ミシン」縫部ハ二五ミリメートルニ付約八針ノ割合ニテ、手縫部ハ二五ミリメートルニ付約三針ノ割合ニテ縫著スベシ

第六章　救命胴衣

第七十三條　救命胴衣ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　大人及小兒ノ兼用ニ適シ著用法簡易ニシテ前後表裏轉用シ得ルコト

二　水中ニ於テ身体ヲ略垂直ノ位置ニ保チ頭部ヲ十分露出セシメ得ルコト

第七十四條　救命胴衣ハ淡水ニ於テ七・五キログラムノ鐵片ヲ附シ二四時間浮ビタル後更ニ六・五キログラムノ鐵片ヲ附加シテ浮ビ得ルモノナルコトヲ要ス

第七十五條　救命胴衣ノ浮力材料ニハ「カポック」、「コルク」又ハ「バルサ」ヲ使用スベシ

「カポック」ハ良質ノ乳白色「カポック」ニシテ種子其ノ他ノ夾雜物ヲ含有セズ且打綿ヲ施シタルモノナルコトヲ要ス

「コルク」ハ黑肌其ノ他ノ瑕疵ヲ有セザル天然「コルク」ニシテ其ノ重量一〇〇立方センチメートルニ付一二・五グラム以下ノモノナルコトヲ要ス

「バルサ」ハ樹皮其ノ他ノ瑕疵ヲ有セズ且十分ニ蒸氣乾燥ヲ施シタル良質ノモノナルコトヲ要ス

「コルク」塊及「バルサ」塊ハ特殊ノ箇所ニ使用スルモノヲ除クノ外七五〇立方センチメートル以上ノ容積ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十六條　救命胴衣ノ前部浮袋及後部浮袋ニハ等量ノ浮力材料ヲ使用スルコトヲ要シ「カポック」ヲ使用スルモノニ在リテハ各五〇〇グラム以上ナルコトヲ要ス

第七十七條　救命胴衣ノ仕上寸法ハ左表ニ依ル

浮力材料		前後各浮袋ノ寸法（浮力材料充塡後）（粍）			首穴ノ寸法（粍）		肩襷ノ幅（粍）
		幅（中央ニテ）	高サ（中央ニテ）	厚サ（中央ニテ）	前後ノ徑	左右ノ徑	
カポック		四〇〇	一九〇	一四〇	二〇〇	一六〇	六〇
コルク		四〇〇	一九〇	一二〇			
バルサ		四〇〇	一九〇	一二〇			

第七十八條　覆布、肩襷等ノ材料ハ糊附、防水其ノ他ノ粧裝ヲ施サザル綿布又ハ亞麻布ニシテ一平方メートルニ付二四五グラム以上ノ重量ヲ有シ幅三〇ミリメートルノ試驗片ニ付長サ一〇〇ミリメートルニテ試驗シ經緯共四〇キログラム以上ノ强力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十九條　胴帶ハ亞麻織、綿織又ハ亞麻及綿混織ノ平紐ニシテ幅三〇ミリメートル以上ヲ有シ且長サ一〇〇ミリメートルニテ試驗シ九〇キログラム以上ノ强力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第八十條　「ミシン」縫ニハ長サ二〇〇ミリメートルニテ試驗シ一・五キログラム以上ノ强力ヲ有スル亞麻絲又ハ綿絲ヲ使用スベシ

手縫ニハ前項ノ縫絲ヲ二重ト爲シタルモノ又ハ特ニ太キ縫絲ヲ使用スベシ

第八十一條　「ミシン」縫部ハ二五ミリメートルニ付約一〇針ノ割合ニテ、手縫部ハ二五ミリメートルニ付約六針ノ割合ニテ縫著スベシ

浮袋兩面ノ覆布ノ縫著部ハ各布緣ヲ內側ニ折合縫著スベシ

肩襷、布環等ハ浮袋ノ外部ニ五〇ミリメートル以上重ネテ縫著シ長方形及對角線縫留ヲ爲シ必要ニ應ジ各隅ニ閂留ヲ施スベシ

第七章　救命焰

第八十二條　救命焰ハ之ヲ開孔シテ水上ニ投ジタルトキ一分時以內ニ自然ニ發火シ風浪中ニ於テモ正シキ位置ヲ保チ一五〇燭光以上ノ焰ヲ三〇分時以上連續發焰シ得ルモノナルコトヲ要ス

第八十三條　罐ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛鍍鐵鋼板ヲ以テ製造スベシ

罐ノ縱接合ハ折曲抱合ト爲シ且鐵附スベシ

外罐ハ筒形ト爲シ其ノ兩端ニ突出セル皿形端板ヲ附スベシ

外罐ノ筒形部ト端板トハ累接ノ上鐵附スベシ

外罐ニハ救命焰ト救命浮環トノ連結ニ使用スル適當ナル通索鐶ヲ附シ置クベシ

外罐ニハ防腐塗料ヲ塗布スベシ

第八十四條　外罐ノ發焰孔及發焰用浸水孔ハ亞鉛板等ヲ以テ塞ギ其ノ上部ニ引剝用鐶ヲ附スベシ

引剝用鐶ハ徑四ミリメートルノ眞鍮針金製ニシテ內徑二五ミリメートルナルコトヲ要ス

亞鉛板等ヲ引剝グニ要スル荷重ハ救命焰ノ重量ヨリ小ナラズ且七キログラムヨリ大ナラザルコトヲ要ス

第八十五條　救命焰ニハ風化セザル發焰用炭化石灰七〇〇グラム以上及點火用燐化石灰七五グラム以上ヲ納メ置クベシ

第八章　救命索發射器

第八十六條　救命索發射器ヲ分チテ左ノ五種トス

一　第一號救命索發射器　標準到達距離三〇〇メートル以上ノモノ

二　第二號救命索發射器　標準到達距離三〇〇メートル未滿二五〇メートル以上ノモノ

三　第三號救命索發射器　標準到達距離二五〇メートル未滿二〇〇メートル以上ノモノ

四　第四號救命索發射器　標準到達距離二〇〇メートル未滿一五〇メートル以上ノモノ

五　第五號救命索發射器　標準到達距離一五〇メートル未滿一二〇メートル以上ノモノ

標準到達距離ト稱スルハ晴天無風ノ際ニ箭竿又ハ彈丸ガ救命索ヲ引キテ到達スル水平距離ヲ謂フ

第八十七條　救命索發射器ノ型ヲ分チテ左ノ三種トス

一　普通型　「ロケット」ニ點火シ「ロケット」作用ニ依リ救命索ヲ引キ行クモノ

二　短銃型　短銃ニ依リ「ロケット」ヲ發射スルト共ニ之ニ點火シ「ロケット」作用ニ依リ救命索ヲ引キ行クモノ

三　銃砲型　銃砲ニテ彈丸ヲ發射シ之ニ依リ救命索ヲ引キ行クモノ

第八十八條　普通型救命索發射器ハ發射臺一箇、箭竿附「ロケット」四箇及救命索二條ヲ以テ一組トス

短銃型救命索發射器ハ短銃一箇、箭竿附「ロケット」四箇、藥莢四箇及救命索二條ヲ以テ一組トス

銃砲型救命索發射器ハ銃砲一箇、箭竿附彈丸四箇、藥莢四箇及救命索二條ヲ以テ一組トス

第八十九條　救命索發射器ハ特殊ノ習練ヲ經ザル者ニテモ之ヲ使用シ得ル程度ニ使用方法簡易ニシテ且使用者ニ危險ヲ及ボサザルモノナルコトヲ要ス

第九十條　救命索ハ良質ノ麻索、綿絲索其ノ他嫋カナルモノニシテ其ノ徑、長サ及抗張力ノ標準ハ救命索發射器ノ種類ニ應ジ左表ニ依ル但シ第一號救命索發射器ニシテ標準到達距離著シク大ナルモノニ在リテハ救命索ノ徑、長サ及抗張力ハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

種類		救命索		
		徑(粍)	長サ(米)	抗張力(瓩)
第一號		六・〇〇	六〇〇	二五〇
第二號		五・〇〇	五〇〇	一八五
第三號		四・〇〇	四〇〇	一三〇
第四號		三・〇〇	三〇〇	八五
第五號		二・五〇	二四〇	六五

救命索ハ水分ヲ吸收スル虞ナキ樣水密ニ包裝シ使用ノ際容易ニ開裝シ得ルモノナルコトヲ要ス

第九十一條　「ロケット」ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　爆音ヲ發スル火藥ヲ含マズ且星火ヲ發セザルモノナルコト

二　內筒ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛鍍鐵鋼板ヲ以テ製造シタルモノナルコト

三　「ロケット」ハ一箇每ニ防濕塗料ヲ塗布シ且硫酸紙ヲ以テ包裝シ「アラビア」護謨ニテ密封スルコト

第九十二條　普通型救命索發射器ニ使用スル「ロケット」ニ在リテハ前條ノ規定ニ依ルノ外荒天ニ於テモ點火シ得ル適當ナル點火裝置ヲ備ヘ且該「ロケット」ニ點火シタル後「ロケット」作用ヲ開始スル迄三秒時以上ノ餘裕アルコトヲ要ス

第九十三條　短銃型救命索發射器ニ使用スル「ロケット」ニ在リテハ第九十一條ノ規定ニ依ルノ外之ヲ短銃ニ依リ發射シタル際點火スル爲ノ點火裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第九十四條　箭竿ハ其ノ材料及寸法適當ニシテ使用ノ際「ロケット」又ハ彈丸ニ取附クルコトヲ要スルモノニ在リテハ適當ナル取附裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第九十五條　銃砲ハ移動シ得ルモノニシテ且其ノ仰角ハ六〇度以上ナルコトヲ要ス

第九十六條　標準到達距離ハ救命索發射試驗ヲ四回以上行ヒ風其ノ他天候ノ影響ヲ除キタル平均到達距離ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年六月遞信省令第二十一號救命具試驗規程ハ之ヲ廢止ス

◉遞信省令第二十二號

消火器試驗規程左ノ通定ム

昭和九年二月五日　　遞信大臣　南　弘

消火器試驗規程

第一條　本令ニ於テ消火器ト稱スルハ船內ニ於ケル火災ノ場合ニ使用スル持運式（携帶用）及移動式ノ消火器ヲ謂フ

第二條　消火器ヲ分チテ左ノ二種トス

一　液体消火器　消火液ヲ放射スル持運式消火器

二　泡消火器　消火氣泡ヲ放射スル持運式消火器及移動式消火器

第三條　本令ノ規定ニ該當セザル消火器ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第四條　消火器ハ起動容易ナルモノナルコトヲ要ス

消火器ハ人爲的ナラザル振動、顚倒其ノ他ニ依リ起動セザルモノナルコトヲ要ス

第五條　消火器ノ重量ハ一人ノ力ヲ以テ之ヲ有效ニ取扱ヒ得ル程度ニシテ且移動式泡消火器ヲ除キ一七キログラムヲ超エザルコトヲ要ス

消火器ノ容量ハ水準線迄測リ五リットル以上ナルコトヲ要ス

水準線以上ノ空氣部ハ容器ノ全容積ノ五%ヨリ小ナルベカラズ

消火器ニハ水準線ヲ明瞭ニ標示スベシ

第六條　消火液及消火氣泡發生液ノ容器ノ形狀ハ圓筒形又ハ圓錐形ト爲シ圓筒形ナルトキハ兩端板ヲ、圓錐形ナルトキハ大ナル徑ヲ有スル端板ヲ外方ニ突出シタル皿形ト爲スベシ

端板ノ皿ノ內半徑ハ容器ノ端部ノ內徑ヲ超エザルコトヲ要ス

第七條　容器ノ胴板及端板ニハ銅板又ハ鋼板ヲ使用シ其ノ內面ニハ十分ニ錫引若ハ鉛引ヲ施スベシ

第八條　持運式消火器ノ容器ノ構造及寸法ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　接合部ハ累接鋲締ト爲シ且鐵附ト爲スコト

二　鋲孔ハ錐揉シ縱接合ニ於テハ心距ヲ二センチメートル乃至二・五センチメートルト爲スコト

三　端板ノ周緣ハ折返ト爲サザルコト

四　垂直ニ据置ク消火器ニハ下部端板ト胴板トノ接合部ヲ庇護スル金屬製受臺ヲ附スルコト

五　胴板及端板(皿形ニ爲シタル後)ノ厚サ及鋲孔徑ハ容器ノ外徑及使用材料ニ應ジ左表ニ依ルコト

容器ノ外徑	鋼板		銅板	
	厚サ(粍)	鋲孔徑(粍)	厚サ(粍)	鋲孔徑(粍)
一五センチメートル以下	一・二	四・〇	一・〇	四・〇
一五センチメートルヲ超エ二〇センチメートル以下	一・二	四・〇	一・二	四・〇

移動式消火器ノ容器ノ構造及寸法ハ當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第九條　裝塡口ハ徑七・五センチメートルヨリ小ナラザルモノト爲シ之ニ螺絲部ノ長サ約二センチメートルヲ有スル砲金製螺込覆蓋ヲ取附クベシ

覆蓋又ハ裝塡口ノ螺絲部ニハ消火器ヲ起動セシメタル後消火液又ハ消火氣泡ノ放射孔閉塞ノ場合ニ殘留スル瓦斯ノ壓力ヲ覆蓋螺戾シ中徐々ニ降下セシムル爲小ナル完全孔若干ヲ穿ツベシ

螺絲部ノ螺絲ハ連續セルモノト爲スベシ

裝塡口頂部ノ氣密ヲ保ツ爲ニハ油ヲ浸潤セシメタル良質ノ革、耐酸性護謨其ノ他適當ノ材料ヲ使用スルコトヲ要シ其ノ厚サハ三ミリメートル以下ト爲スベシ

第十條　藥液罎受籠ハ容器ノ掃除及檢査ノ爲容易ニ取出シ得ルモノト爲スベシ

第十一條　消火器ニハ其ノ水壓試驗ヲ行フトキ及起動ノ際器內ニ生ズル壓力ヲ確メントスルトキ壓力計ヲ取附クル爲標準螺絲ヲ有スル壓力計取附口ヲ附シ置クベシ

第十二條　放射孔又ハ放射管ニハ適當ナル濾過裝置ヲ取附クベシ

內部放射管ヲ取附クル場合ニハ該管ハ容器ヲ略空虛ト爲スコトヲ得ル長サノモノト爲スベシ

第十三條　內部放射管ヲ備フル消火器ニ在リテハ溫度ノ變化ニ依リ消火液ガ放射孔ノ方ニ押出サレ取附物ヲ腐蝕シ又ハ放射孔ヲ塡塞スルコトヲ防グ爲適當ノ膨脹室ヲ設クルカ又ハ其ノ他適當ナル裝置ヲ施スベシ

第十四條　蛇管ヲ使用スル消火器ニ在リテハ蛇管ヲ耐久性ノモノナルコトヲ要ス

第十五條　放射口金ノ孔ノ大サハ徑四ミリメートル以上ト爲シ消火液又ハ消火氣泡ノ放射ハ六〇秒時以上連續的ニシテ消火液又ハ消火氣泡ノ到達スル水平距離ハ放射ノ初期ニ於テ九メートル以上、六〇秒時ニ於テ六メートル以上ナルコトヲ要ス

放射口金端ニハ薄護謨其ノ他適當ノ塵埃除ヲ附スベシ

第十六條　持運式消火器ニハ其ノ持運及取扱ニ便ナル樣適當ノ固定把手ヲ設クルコトヲ要シ移動式消火器ニハ移動及取扱ニ便ナル樣適當ノ裝置ヲ設クルコトヲ要ス

第十七條　消火器ノ裝塡物ハ左ニ揭グルモノ其ノ他當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

液体消火器

一　重炭酸曹達又ハ炭酸加里ノ溶液及罎ニ容レタル硫酸又ハ塩酸

二　清水及壓縮炭酸瓦斯

泡消火器

重炭酸曹達ト氣泡劑トノ混合液及罎ニ容レタル硫酸「アルミニューム」溶液

第十八條　裝塡物及空氣部ハ液体ノ溫度三八度ノトキ一切ノ口孔ヲ閉塞シテ起動セシメタル場合ニ生ズル壓力ヲ每平方センチメートル一四キログラム以下ニ調節シタルモノナルコトヲ要ス

第十九條　容器ハ每平方センチメートル二五キログラムノ壓力ヲ五分時持續スル水壓試驗ニ堪フモノナルコトヲ要ス

前項ノ壓力ハ前條ニ揭グル調節セラレタル壓力ノ二倍ニ止ムルモ妨ナシ

第二十條　消火器ニハ左ノ事項ヲ標示スベシ

一　型式承認番號(型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル)

二　消火器ノ種類

三　製造番號

四　容量

五　重量

六　製造年月

七　製造者ノ氏名又ハ名稱

第二十一條　消火器ニハ裝塡物ニ關スル明細書ヲ添附スベシ

封緘シタル裝塡物ニハ一箇每ニ說明書ヲ添附スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉遞信省令第二十三號

火災警報裝置試驗規程左ノ通定ム

昭和九年二月五日

遞信大臣　南　弘

火災警報裝置試驗規程

目次

火災警報裝置試驗規程

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ火災警報裝置ト稱スルハ船內ニ於ケル火災ヲ自動的ニ警報スル裝置ヲ謂フ

第二條　火災警報裝置ヲ分チテ左ノ三種トス

一　電氣「サーモスタット」式火災警報裝置
二　空氣管式火災警報裝置
三　煙管式火災警報裝置

第三條　本令ノ規定ニ該當セザル火災警報裝置ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第四條　警報器又ハ探知器ハ火災ノ存在又ハ徵候ヲ船員ガ最速ニ認メ得ベキ場所又ハ消防詰所ニ設置セラルルモノナルコトヲ要ス

第五條　一警報區域ニ含マルル室數ハ五〇ヲ超ユルコトヲ得ズ又一警報區域ノ船首尾方向ノ長サハ四〇メートルヲ超ユルコトヲ得ズ

第六條　水密隔壁又ハ防火隔壁ニテ仕切ラレタル場所ハ之ヲ同一警報區域ニ含マシムルコトヲ得ズ但シ倉庫ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

法規ニ依リ設クベキ支水隔壁ガ暴露甲板ニ到達セザル船舶ニ在リテハ甲板間ノ場所ハ該隔壁ガ暴露甲板ニ到達セルモノト看做ス

同一甲板上ニ在ラザル場所ハ之ヲ同一警報區域ニ含マシムルコトヲ得ズ但シ船首尾狹部其ノ他ノ場所ニシテ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　火災警報裝置ハ一警報區域關係ノ裝置ガ動作不能トナリタル場合ニ於テモ他ノ警報區域關係ノ裝置ヲ動作不能トナラシメザルモノナルコトヲ要ス

火災警報裝置ハ一箇若ハ同時ニ數箇ノ火災警報信號ヲ爲シ得ルモノナルコトヲ要ス

第八條　火災警報裝置ハ火災警報以外ノ信號ノ傳達ニ流用シ得ザルモノナルコトヲ要ス

第九條　火災警報裝置ノ電路ハ電氣的接地ヲ有セザルコトヲ要ス

第十條　火災警報裝置ニ使用スル電導体ノ構造、大サ、鉛被、鎧裝、防護、支持其ノ他詳細ハ當該官史ノ適當ト認ムル所ニ依ル但シ電線ハ電線式ノ電氣「サーモスタット」ノ電線ヲ除クノ外鉛被ヲ爲シ尙損傷ヲ受クル虞アルモノニ在リテハ鎧裝スルコトヲ要ス

第十一條　火災警報裝置ハ其ノ全裝置ニ付耐久試驗ヲ行ヒ故障ナキモノナルコトヲ要ス

第十二條　火災警報裝置ニハ一組每ニ其ノ操作、維持及試驗ニ關スル詳細並ニ豫備品ノ品目及數量ヲ記載シタル掲示用圖表ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ圖表ニハ試驗ノ執行年月日記入ノ爲並ニ試驗ニ立會フ當該船舶職員ノ署名

ノ爲餘白欄ヲ存セシメ試驗ノ都度之ガ記入ニ便ナラシムベシ

第二章　電氣「サーモスタット」式火災警報裝置

第十三條　電氣「サーモスタット」式裝置ノ警報器ハ各警報區域ニ付一箇ノ警燈又ハ表示器ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ警報器ハ火災ノ發生シタル警報區域ヲ明ニ表示シ且特ニ人爲的ニ之ヲ復セシメザル限リ指示又ハ動作ヲ繼續スルモノナルコトヲ要ス

第十四條　警報器ニハ警報中自動的ニ警報音信號ヲ連續鳴響スル警鐘一箇ヲ附屬セシムルコトヲ要ス

第十五條　長サ一〇〇メートル以上ノ船舶ニハ機關室ニ補助警音裝置ヲ設置スルコトヲ要ス

第十六條　電氣「サーモスタット」ハ之ヲ各警戒區畫室ノ天井ニ取附クベシ但シ貨物艙以外ノ場所ニ設クル電線式ノ電氣「サーモスタット」ニ在リテハ之ヲ仕切壁若ハ隔壁ニ於テ天井ヨリ三〇センチメートル以內ノ位置ニ架スルコトヲ得

第十七條　平面天井ニ在リテハ電氣「サーモスタット」相互間ノ距離ハ四・五メートルヲ超エザルコトヲ要ス

一箇ノ電氣「サーモスタット」ニ依ル警戒面積ハ一八・五平方メートルヲ超エズ又天井ノ何レノ部分モ電氣「サーモスタット」ヨリノ距離三メートルヲ超エザルコトヲ要ス

電線式ノ電氣「サーモスタット」ニ在リテハ各電路ハ三〇〇メートルヲ超エザル電線ヨリ成ルコトヲ要シ之ヲ各警戒區畫室ニ配線シ天井ノ何レノ部分モ電線ヨリノ距離三メートルヲ超エザルコトヲ要ス

第十八條　天井ガ深サ二五センチメートル以下ノ梁ニ依リ格子又ハ小間ニ區分セラレタルモノナルトキハ之ヲ平面天井トシテ取扱フベシ

梁ノ深サ二五センチメートルヲ超ユルトキハ梁ニ依リテ仕切ラレタル各區畫ヲ別箇ノ天井トシテ取扱フベシ

第十九條　梁ノ構造ガ特殊ノ爲前二條ノ規定ニ依リ難キ場合ニハ電氣「サーモスタット」ノ配置ハ當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二十條　貨物搭載場所ニ在ル電氣「サーモスタット」及損傷ヲ受クル虞アル電氣「サーモスタット」ハ適當ニ之ヲ防護スベシ

第二十一條　電源及電路ニハ第二十三條ニ規定スル場合ヲ除クノ外故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要ス

故障音信號裝置ハ電源又ハ電路ニ故障ヲ生ジタル場合該故障ヲ修復シ終ル迄明確ナル音信號ヲ自動的ニ連續鳴響スルモノナルコトヲ要ス

故障音信號ヲ停止スル爲開閉器ヲ設クルモノニ在リテハ別ニ故障燈ヲ備ヘ音信號ヲ停止セシムルト同時ニ自動的ニ故障燈ニ點燈セシメ得ルコトヲ要ス

第二十二條　警鐘ニハ故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要ス但シ數箇ノ警鐘ヲ使用スルトキハ其ノ一箇ニ限リ之ヲ備フルモ妨ナシ

第二十三條　故障音信號裝置ニ使用スル電路及之ニ對スル電源並ニ受信盤上ノ常時開放二次電路ニハ故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要セズ多數連結シタル「サーモスタット」ニ付亦同ジ

第二十四條　火災警報裝置ニ使用スル電源ハ封緘シタル專用ノ蓄電池ニシテ照明系統ノ幹線ヨリ自動的ニ充電セラルルモノナルコトヲ要ス

第二十五條　火災警報裝置ニ使用スル電壓ハ二〇ヴオルト以上六〇ヴオルト以下ナルコトヲ要ス

火災警報裝置ハ其ノ標準電壓ノ八〇％ニテ動作スルモノナルコトヲ要ス

第二十六條　火災警報裝置ニ使用スル蓄電池ハ充電ヲ更新スルコトナクシテ四八時間以上電流ヲ供給シ得ルモノニシテ其ノ容量ハ一〇アンペア時以上ナルコトヲ要ス

第二十七條　火災警報裝置ニハ容量三アムペア以上六アムペア以下ノ「フユーズ」ヲ充電用電流ヲ供給スル幹線又ハ其ノ附近ニ於テ蓄電池主放電路中ノ充電盤上ニ裝置スルコトヲ要ス

第二十八條　受信盤及其ノ附屬裝置ハ振動ニ依リ影響ヲ受ケズ又四五度傾キタル場合ニ於テモ動作スルモノナルコトヲ要ス

第二十九條　警報音信號ハ鐘ノ徑一五センチメートルヨリ小ナラザル蔽圍型警鐘ニ依リ發スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ音信號ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ停止シ得ルコトヲ要ス

第三章　空氣管式火災警報裝置

第三十條　空氣管式裝置ノ警報器ハ各警報區域ニ付一箇ノ警燈又ハ表示器ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ警報器ハ火災ノ發生シタル警報區域ヲ明ニ表示シ且特ニ人爲的ニ之ヲ復セシメザル限リ指示又ハ動作ヲ繼續スルモノナルコトヲ要ス

第三十一條　警報器ニハ警報中自動的ニ警報音信號ヲ連續鳴響スル警鐘一箇ヲ附屬セシムルコトヲ要ス

第三十二條　長サ一〇〇メートル以上ノ船舶ニハ機關室ニ補助警音裝置ヲ設置スルコトヲ要ス

第三十三條　空氣管式裝置ニ於ケル各空氣管回路ハ長サ三〇〇メートルヲ超エザルコトヲ要シ且管ハ岐路ヲ有セズ其ノ兩端ヲ一箇ノ檢出器ニ連結スルコトヲ要ス

前項ノ檢出器ハ電線ニ依リ警報器ニ連結スルモノナルコトヲ要ス

第三十四條　空氣管ハ之ヲ各警戒區畫室ノ天井ニ取附クベシ但シ貨物艙以外ノ場所ニ設クル空氣管ニ在リテハ之ヲ仕切壁若ハ隔壁ニ於テ天井ヨリ三〇センチメートル以內ノ位置ニ取附クルコトヲ得

第三十五條　各蔽圍場所又ハ各室ニハ空氣管回路ノ全長ノ少クトモ五％ヲ露出セシムルコトヲ要シ且露出部ノ長サハ如何ナル場合ニ於テモ八メートルヨリ少ナカラザルコトヲ要ス

第三十六條　平面天井ニ在リテハ天井ノ何レノ部分モ空氣管ヨリノ距離三・五メートルヲ超エザルコトヲ要ス

第三十七條　天井ガ深サ二五センチメートル以下ノ梁ニ依リ格子又ハ小間ニ區分セラレタルモノナルトキハ之ヲ平面天井トシテ取扱フベシ

梁ノ深サ二五センチメートルヲ超ユルトキハ梁ニ依リテ仕切ラレタル各區畫ニ少クトモ一條ノ空氣管ヲ配置スルコトヲ要ス

第三十八條　梁ノ構造ガ特殊ノ爲前二條ノ規定ニ依リ難キ場合ニハ空氣管ノ配置ハ當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第三十九條　貨物搭載場所ニ在ル空氣管及損傷ヲ受クル虞アル空氣管ハ適當ニ之ヲ防護スベシ

區畫室其ノ他ノ場所ニシテ其ノ用途ノ性質上相當高溫トナルコトアルベキ箇所ニ在ル空氣管ニハ必要ニ應ジ適當ニ防熱裝置ヲ施スベシ

第四十條　電源及電路ニハ第四十二條ニ規定スル場合ヲ除クノ外故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要ス

故障音信號裝置ハ電源又ハ電路ニ故障ヲ生ジタル場合該故障ヲ修復シ終ル迄明確ナル音信號ヲ自動的ニ連續鳴響スルモノナルコトヲ要ス

故障音信號ヲ停止スル爲開閉器ヲ設クルモノニ在リテハ別ニ故障燈ヲ備ヘ音信號ヲ停止セシムルト同時ニ自動的ニ故障燈ニ點燈セシメ得ルコトヲ要ス

第四十一條　警鐘ニハ故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要ス但シ數箇ノ警鐘ヲ使用スルトキハ其ノ一箇ニ限リ之ヲ備フルモ妨ナシ

第四十二條　故障音信號裝置ニ使用スル電路及之ニ對スル電源竝ニ受信盤上ノ常時開放二次電路ニハ故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要セズ

第四十三條　火災警報裝置ニ使用スル電源ハ封緘シタル專用ノ蓄電池ニシテ照明系統ノ幹線ヨリ自動的ニ充電セラルルモノナルコトヲ要ス

第四十四條　火災警報裝置ニ使用スル電壓ハ二〇ヴオルト以上六〇ヴオルト以下ナルコトヲ要ス

火災警報裝置ハ其ノ標準電壓ノ八〇％ニテ動作スルモノナルコトヲ要ス

第四十五條　火災警報裝置ニハ容量三アムペア以上六アムペア以下ノ「フユーズ」ヲ充電用電流ヲ供給シ得ルモノニシテ其ノ間以上電流ヲ供給シ得ルモノニシテ四八時容量ハ一〇アムペア時以上ナルコトヲ要ス

第四十六條　火災警報裝置ニハ容量三アムペア以上六アムペア以下ノ「フユーズ」ヲ充電用電流ヲ供給スル幹線又ハ其ノ附近ニ於テ蓄電池主放電路中ノ充電盤上ニ裝置スルコトヲ要ス

第四十七條　受信盤及其ノ附屬裝置ハ振動ニ依リ影響ヲ受ケズ又四五度傾キタル場合ニ於テモ動作スルモノナルコトヲ要ス

第四十八條　警報音信號ハ鐘ノ徑一五センチメートルヨリ小ナラザル蔽圍型警鐘ニ依リ發スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ音信號ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ停止シ得ルコトヲ要ス

第四章　煙管式火災警報裝置

第四十九條　火災探知器ハ各警戒區畫室ヨリ之ニ導キタル煙管ニ依リ火災ニ伴フ細微稀薄ナル煙ヲ容易ニ判別シ得ルモノナルコトヲ要シ之ニ附隨スル照明裝置ハ夜間航海ニ支障ヲ來サザルモノナルコトヲ要ス

第五十條　各警戒區畫室ニハ火災探知器ニ通ズル煙管一箇以上ヲ備フルコトヲ要ス但シ相隣接セル小區畫室ニシテ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ在リテハ此等區畫室ヨリノ煙管ハ之ヲ連絡シ一煙管トシテ火災探知器ニ導クモ妨ナシ

煙管ハ內徑二〇ミリメートルヨリ小ナラザルモノナルコトヲ要ス

一警戒區畫室ニ數箇ノ煙蒐集器ヲ備フル場合ニハ二箇ヨリ多クノ煙蒐集器ヲ同一煙管ニ連結セザル構造ト爲スコトヲ要ス

煙蒐集器ハ各警戒區畫室ノ天井ニ裝置シ天井ノ何レノ部分モ煙蒐集器ヨリノ距離一二メートルヲ超エザルコトヲ要ス

煙蒐集器ハ通風器ノ開口緣ヨリ開口徑ノ三倍以內ノ箇所ニ取附クベカラズ

第五十一條　排氣ハ喫覺ニ依リ火災ノ存在

又ハ徵候ヲ認メ得ル樣之ヲ火災探知器ヲ備フル室內ニ排出スルコトヲ要ス

排氣ガ嫌忌スベキ臭氣ヲ有スルトキ之ヲ室外ニ誘出シ得ル樣適當ナル裝置ヲ設ケ其ノ瓣ハ明瞭ナル標示ヲ有シ取扱容易ナル構造ノモノナルコトヲ要ス

第五十二條　吸氣扇ハ二重ニ設ケ何レモ非常點燈用電源ニ依リ動作シ得ル樣開閉器ヲ設クベシ

非常點燈用電源ノ電壓ガ常用ノ點燈用電源ノ電壓ヨリ低キモノナルトキハ吸氣扇ノ內一箇ニ限リ非常點燈用電源ニ依リ動作シ得ザルモ妨ナシ

第五十三條　火災探知器ニハ吸氣扇ガ運轉ヲ停止シタルトキ、吸氣作用ガ停止シタルトキ又ハ煙分照映燈ガ滅シタルトキ直ニ之ヲ標示スル故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第五十四條　貨物搭載場所其ノ他之ニ準ズル場所ニ在ル煙蒐集器及煙管ニシテ損傷ヲ受クル虞アルモノハ適當ニ之ヲ防護スベシ

第五十五條　煙管ハ適當ノ傾斜ニ之ヲ架設シ其ノ低點ニ當該官吏ノ適當ト認ムル排水口ヲ備フルコトヲ要ス

煙管ノ屈曲部ハ其ノ彎曲度ヲ成ルベク緩ニスルコトヲ要ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉遞信省令第二十四號

防毒面試驗規程左ノ通定ム

昭和九年二月五日

遞信大臣　南　弘

防毒面試驗規程

第一條　本令ニ於テ防毒面ト稱スルハ呼氣瓣及吸氣瓣ヲ備フル覆面、連結管及吸收罐ヨリ成リ船內ニ於ケル火災ノ場合ニ使用スル防毒面ヲ謂フ

第二條　本令ノ規定ニ該當セザル防毒面ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第三條　防毒面ハ火災ニ伴フ煙、一酸化炭素其ノ他ノ有害物ヲ含ム空氣中ニ於テ呼吸ヲ安全ナラシメ得ルモノナルコトヲ要ス

第四條　防毒面ハ其ノ構造成ルベク簡易ニシテ裝著、吸收罐取換等取扱容易ナルモノナルコトヲ要ス

第五條　防毒面ハ其ノ構造堅牢ニシテ普通ノ取扱ニ於テハ容易ニ損傷セザルモノナルコトヲ要ス

第六條　防毒面ハ寒熱濕乾ニ對シ十分ノ耐久性ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七條　防毒面ハ其ノ大サ及重量過大ナラズ且形狀適當ニシテ之ヲ裝著シタル場合作業ヲ妨ゲザルモノナルコトヲ要ス

第八條　覆面、吸收罐、連結管及其ノ接續部ハ氣密ナルコトヲ要ス

吸收罐ノ氣密度ハ水柱一五〇ミリメートルノ壓力ニ對シ、覆面、連結管及其ノ接續部ノ氣密度ハ水柱一〇〇ミリメートルノ壓力ニ對シ堪フルコトヲ要ス

第九條　防毒面ノ吸氣系ノ通氣抵抗ハ毎分三〇リットルノ吸氣ニ對シ水柱三〇ミリメートル以下ナルコトヲ要シ呼氣系ノ通氣抵抗ハ毎分三〇リットルノ呼氣ニ對シ水柱八ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

第十條　防毒面ヲ裝著シタル場合覆面ハ顏面ニ適合シ接著良好ニシテ異狀ノ壓迫ヲ感ゼズ且作業ニ依リ其ノ接著ヲ害セラレザルモノナルコトヲ要ス

第十一條　眼鏡ノ位置及大サハ裝面シタル場合相當ノ視界ヲ與ヘ又眼鏡ノ透明度ハ良好ニシテ映像ヲ歪曲セシメザルモノナルコトヲ要ス

眼鏡ハ溫度零度ニ於テ一五分時連續裝面スルモ曇ヲ生ゼザルモノナルコトヲ要ス

第十二條　覆面材料ハ刺戟性ヲ有セザルモノナルコトヲ要ス

第十三條　呼氣瓣ハ內外部壓力平衡ノ場合閉鎖狀態ヲ保チ普通ノ呼氣及毎分一リットルノ割合ノ吸氣ニ對シ確實銳敏ニ開閉スルモノナルコトヲ要ス

呼氣瓣ノ氣密度ハ內部壓力ヲ外部壓力ヨリ水柱二〇〇ミリメートル低下シテ一五秒時放置シタル場合內部壓力ノ上昇水柱一〇ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

呼氣瓣ノ通氣抵抗ハ毎分三〇リットルノ通氣ニ對シ水柱六ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

第十四條　吸氣瓣ハ普通ノ吸氣及呼氣ニ對シ確實銳敏ニ開閉シ其ノ通氣抵抗ハ毎分三〇リットルノ通氣ニ對シ水柱二ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

第十五條　連結管ハ伸縮性及屈撓性十分ニシテ管腔容易ニ變形セザルモノナルコトヲ要ス

連結管ノ通氣抵抗ハ毎分五〇リットルノ通氣ニ對シ連結管眞直ノ場合水柱一ミリメートル以下、一八〇度屈曲ノ場合水柱三ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

第十六條　吸收罐ハ金屬製トシ堅牢ニ構成シ火災ニ伴フ煙、一酸化炭素其ノ他ノ有害物ヲ吸收スル吸收劑ヲ充塡シタルモノナルコトヲ要ス

前項ノ吸收劑ハ濾層、脫水劑、「ホプカリット」劑及活性炭ト「アルカリ」吸收劑トノ混劑ヲ順次別ノ層ト爲シタルモノ又ハ其ノ他適當ノ配劑ノモノニシテ裝面後連續二時間以上ノ使用ニ堪フルモノナルコトヲ要ス

第十七條　吸收罐ノ吸收試驗ニ於テハ通氣毎分三〇リットル、溫度二〇度、濕度五〇%ニ於テ左記各號ノ試驗ヲ各別箇ノ吸收罐ニ付行ヒ之ニ合格スルコトヲ要ス

一　濃度〇・五%ノ「クロルピクリン」瓦斯ヲ一〇分間通過セシメタル後漏洩瓦斯ノ濃度〇・〇〇一%ヲ超エザルコト

二　濃度一・〇%ノ一酸化炭素瓦斯ヲ二間時通過セシメタル後漏洩瓦斯ノ濃度〇・〇五%ヲ超エザルコト

三　濃度一立方メートルニ付二〇〇ミリグラムノ煙草ノ煙ヲ通過セシメ煙ノ漏洩二五%ヲ超エザルコト

第十八條　吸收罐ノ通氣抵抗ハ毎分三〇リットルノ通氣ニ對シ水柱二五ミリメートル以下ナルコトヲ要シ且前條ノ規定ニ依ル各吸收試驗後ニ於ケル抵抗ノ增加ハ毎分三〇リットルノ通氣ニ對シ水柱五ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

第十九條　吸收罐ノ通氣抵抗ハ之ヲ一五分時振盪シタル場合ニ於テ減少セザルコトヲ要シ其ノ增加ハ毎分三〇リットルノ通氣ニ對シ水柱五ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

第二十條　吸收罐ハ二年以上有效ナルモノナルコトヲ要ス

第二十一條　吸收罐ノ外面ハ紅白二色ヲ以テ上下二層ニ塗裝スベシ

第二十二條　防毒面ノ覆面及吸收罐ニハ左ノ事項ヲ標示スベシ

一　型式承認番號（型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル）

二　製造番號
三　製造年月
四　有效期間（吸收罐ニ限ル）
五　「ト」ナル記號（吸收罐ニ限ル）
六　製造者ノ氏名又ハ名稱

第二十三條　防毒面ニハ一組毎ニ使用方法ヲ詳記シタル說明書ヲ添附スベシ尙吸收罐ニハ其ノ取扱說明書ヲ貼附シ置クベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉遞信省令第二十七號

船舶法施行細則中左ノ通改正シ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和九年二月七日　遞信大臣　南　弘

第五十三條第二項中「船舶檢査法施行細則第七十八條第一項又ハ船舶滿載吃水線法施行規則第四十一條第一項」ヲ「船舶安全法施行規則第百八十四條第一項」ニ改ム

（參照）

明治三十二年六月十二日遞信省令第二十四號船舶法施行細則抄錄

第五十三條第二項

船舶檢査法施行細則第七十八條第一項又ハ船舶滿載吃水線法施行規則第四十一條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル檢査官吏ノ旅費ハ相互ニ之ヲ通算ス

◉遞信省令第二十八號

遠洋航路補助法施行細則中左ノ通改正シ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和九年二月七日　遞信大臣　南　弘

第一號書式備考中「船舶檢査法」ヲ「船舶安全法」ニ改ム

◉遞信省令第二十九號

船用品檢査試驗規則中左ノ通改正シ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和九年二月七日　遞信大臣　南　弘

別表第一號中適用規格欄ノ「造船規程又ハ船舶檢査規程」ヲ「造船規程又ハ船舶機關規程」ニ改ム

◉遞信農林省令

漁船特殊規則左ノ通定ム

昭和九年二月五日　遞信大臣　南　弘
農林大臣　後藤　文夫

漁船特殊規則

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル漁船ハ無線電信ヲ施設セザルコトヲ得

一　總噸數二百噸未滿ノ捕鯨船
二　專ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル總噸數二百噸未滿ノ漁船
三　總噸數千六百噸未滿ノ推進機關ヲ有セザル漁船

第二條　漁船ノ從業制限ハ第一種、第二種及第三種ノ三種トス

第三條　第四條各號ニ掲グル業務ヲ除クノ外左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第一種トス

一　一本釣漁業
二　延繩漁業
三　流網漁業
四　刺網漁業
五　旋網漁業
六　棒受網漁業
七　投餌漁業
八　曳繩漁業
九　機船底曳網漁業及其ノ他ノ底曳網漁業（汽船「トロール」漁業ヲ除ク）
十　前各號ニ掲グルモノノ外主務大臣ニ於テ前各號ノ業務ニ準ズルモノト認メタル業務

第四條　左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第二種トス

一　鰹竿釣漁業
二　鮪竿釣漁業
三　鰐一本釣漁業
四　鮪延繩漁業
五　旗魚延繩漁業
六　鮫延繩漁業
七　鱈延繩漁業
八　大鮃延繩漁業
九　機船底曳網漁業（手繰網又ハ打瀨網ヲ使用スルモノ）
十　前各號ニ掲グルモノノ外主務大臣ニ於テ前各號ノ業務ニ準ズルモノト認メタル業務

第五條　母船式漁業ニ從事スル母船及左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第三種トス

一　汽船「トロール」漁業
二　汽船捕鯨業
三　專ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル業務
四　漁業ニ關スル試驗、調査、指導、練習又ハ取締業務

第六條　第二種ノ從業制限ヲ有スル漁船ハ第三條各號ニ掲グル業務ニ從事スルコトヲ得

第七條　管海官廳漁船ノ從業制限ヲ定ムルニ當リ必要アリト認ムルトキハ漁船ノ種類、大小、構造又ハ設備ニ應ジ業務ノ種類ヲ限定スルコトヲ得

第八條　漁船檢査證書ノ有效期間内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

一　已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ臨時ニ漁船ヲ其ノ從業制限以外ノ從業制限ニ該當スル業務ニ從事セシムルトキ（第六條ニ該當スル場合ヲ除ク）
二　第一種ノ從業制限ヲ有スル漁船又ハ第二種若ハ第三種ノ從業制限ヲ有スル長サ二十五メートル未滿ノ漁船ヲ漁業

ニ使用セズシテ船舶安全法施行地、朝鮮又ハ樺太ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ヲ爲サシムルトキ

第九條　漁船檢査證書ノ有效期間内ニ於テ漁船ノ從業制限ヲ變更セントスルトキハ申請書ニ新舊從業制限ヲ列記シ船舶檢査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第十條　漁船ニ在リテハ船舶安全法施行規則第四十七條ノ規定ニ拘ラズ長サ七十メートル以上ノモノニ限リ專ラ漁獵又ハ漁獲物ノ保藏若ハ製造ニ從事スル者ノ室ト其ノ他ノ者ノ室トハ常ニ區別シ置クベシ

第十一條　汽罐ヲ有セザル長サ二十五メートル未滿ノ漁船ニ付テハ漁船檢査證書ノ有效期間ハ三年以内トス

前項ノ漁船ハ中間檢査ヲ受クルコトヲ要セズ

第十二條　長サ七十メートル以上ノ漁船ニシテ漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スル母船（特殊漁船）ガ母船式漁業ニ從事スル爲其ノ仕立港ヲ發航セントスルトキハ特殊船檢査ヲ行フ但シ特殊船檢査證書ノ有效期間内ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉逓信農林省令

漁船特殊規程左ノ通定ム

昭和九年二月五日

逓信大臣　南　弘
農林大臣　後藤　文夫

漁船特殊規程

目次

漁船特殊規程

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ動力漁船トハ推進機關ヲ有スル漁船ヲ謂ヒ第一種漁船、第二種漁船又ハ第三種漁船トハ各從業制限第一種、第二種又ハ第三種ヲ從業制限トスル漁船ヲ謂ヒ運搬漁船トハ漁船特殊規則第五條第三號ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ヲ謂フ

第二條　本令ニ該當セザル漁船ノ構造、材料及其ノ寸法竝ニ設備ト雖モ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一效力ヲ有スト認ムル場合ニ於テハ之ヲ合格ト爲スベシ

第三條　漁船ノ構造、材料及其ノ寸法竝ニ設備ニ付テハ管海官廳當該漁船ノ種類、大小、從業ノ期間等ヲ考慮シ適當ニ斟酌シテ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

第四條　發動機ニ依リ推進スル長サ二一メートル以上ノ漁船ニシテ鰹若ハ鮪ノ竿釣漁業又ハ鮪、旗魚、鮫若ハ大鮃ノ延繩漁業ニ從事スルモノニハ其ノ算式ニ依リ算定シタル分量ノ主機關用燃油ヲ容ルルニ足ル燃油庫ヲ設備スベシ

D^2NC リットル

D ハ發動機ノ氣筒ノ徑（糎ニテ）
N ハ發動機ノ氣筒ノ數
C ハ常數ニシテ左表ニ依ル

船舶ノ長サ（米）	「ディーゼル」式單働發動機ナルトキ 二箇程式	「ディーゼル」式單働發動機ナルトキ 四箇程式	「ディーゼル」式以外ノ單働二衝程式發動機ナルトキ
二以上　二三未滿	七・五二	五・二六	四・九九
二三〃　二五〃	九・四〇	六・五八	六・二四
二五〃　三〇〃	一〇・八一	七・五七	七・一八
三〇〃　三三〃	一一・七五	八・二三	七・八〇
三三〃　三六〃	一二・六九	八・八八	八・四二
三六〃　四〇〃	一四・一〇	九・八七	九・三六
四〇〃　四五〃	一六・四五	一一・五二	一〇・九二
四五〃　五〇〃	一八・八〇	一三・一六	一二・四八
五〇〃　五五〃	二一・一五	一四・八一	一四・〇四
五五〃	二三・五〇	一六・四五	一五・六〇

第二章　船體

第一節　通則

第五條　主機關用燃油槽ヲ上甲板以上ノ場所ニ設クルトキハ其ノ容量ハ全燃油庫ノ容量ノ百分ノ十五ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六條　甲板上ニ設クル燃油槽又ハ活魚槽ハ甲板ニ特ニ堅固ニ取附クベシ

第七條　運搬漁船及特殊漁船ヲ除クノ外漁船ノ舷側ニハ載貨門ヲ設クルコトヲ得ズ

第八條　動力漁船ニ非ザル漁船ニハ起倒シ得ベキ檣ヲ用ウルコトヲ得ズ

第九條　舷墻ノ高サハ一一〇センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ各舷墻柱又ハ防撓材ノ間ニ於テ舷墻上部ニ十分ナル面積ノ無蓋開口ヲ設クルトキハ適當ニ舷墻ノ高サヲ增加スルコトヲ得

第十條　漁船ノ舷側ニ設クル釣臺又ハ張出甲板ハ十分ニ排水シ得ル構造ト爲スベシ

第十一條　石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ニ於ケル隔壁其ノ他船體ノ部分木製ナルトキハ之ニ金屬板ヲ張リ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒ノ豫防ヲ爲スベシ

第十二條　暴露セル上甲板又ハ船樓甲板ニ設クル艙口、機關室口、載炭口、出入口、天窓、通風器等ノ諸口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ニ付テハ緣材ノ甲板上ノ高サヲ左表ニ揭グルモノ以上ト爲スベシ但シ直接波浪ヲ受ケザル場所ニ於ケルモノ又ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノハ緣材ノ高サヲ減ジ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

漁船ノ種別

漁船ノ種別	緣材ノ甲板上ノ高サ（糎）
第一種漁船又ハ捕鯨船	一五
第二種漁船又ハ第三種漁船（捕鯨船ヲ除ク）　長サ二五米未滿ノモノ	二三
第二種漁船又ハ第三種漁船（捕鯨船ヲ除ク）　長サ二五米以上ノモノ	三〇

第十三條　艙口ニハ堅牢ナル蓋板又ハ覆蓋及適當ノ締具ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ベキ樣覆布ヲ備ヘルベシ但シ管海官廳ニ於テ覆布ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ヲ備ヘザルモノヲ備ヘ

第十四條　暴露セル上甲板又ハ船樓甲板ニ設クル機關室口ニ付テハ圍壁ノ甲板上面ヨリノ高サヲ左表ニ揭グルモノ以上ト爲スベシ

漁船ノ種別

漁船ノ種別	圍壁ノ甲板上ノ高サ（糎）
第一種漁船又ハ捕鯨船	四五
第二種漁船又ハ第三種漁船（捕鯨船ヲ除ク）　長サ二五米未滿ノモノ	六〇
第二種漁船又ハ第三種漁船（捕鯨船ヲ除ク）　長サ二五米以上ノモノ	九〇

第十五條　暴露甲板ノ機關室口圍壁ノ天窓、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋又ハ蓋板及覆布竝ニ適當ノ締具ヲ備フルカ其ノ他水密トナルベキ裝置ヲ爲スベシ但シ管海官廳ニ於テ水密ト爲スベキ必要ナシト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　前四條ノ規定ハ特殊漁船及總噸數百五十噸以上ノ運搬漁船ニハ之ヲ適用セズ

前項ニ揭グル漁船ノ甲板口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ノ緣材ノ高サ竝ニ機關室口圍壁ノ高サニ付テハ當該船舶ヲ第二級船ト看做シ木船構造規程又ハ造船規程及船舶滿載吃水線規程ノ規定ヲ適用ス

第二節　木製漁船

第十七條　第一種漁船又ハ長サ二五メート

ル未滿ノ漁船ニ在リテハ內龍骨ノ寸法ハ龍骨ノ規定ノ寸法ト等シク爲スコトヲ得

第十八條　龍骨ノ截面積ガ船ノ首尾兩端ニ於ケルモノヲ除クノ外龍骨及內龍骨ノ規定ノ截面積ノ合計以上ナルトキハ內龍骨ヲ省略スルコトヲ得

第十九條　船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長サハ用材ノ深サノ三倍迄減ズルコトヲ得

第二十條　舵心材頂部ノ舵柄取附部ヲ角形ト爲ス場合ニ於テモ其ノ截面積ハ特ニ之ヲ增加セザルモ妨ナシ

第二十一條　二材合セ肋骨ノ肋材衝接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十二條　船ノ中央部ニ於ケル單材肋骨ノ肋根材ノ長サハ船ノ幅ノ二分ノ一迄、其ノ他ノ肋材ノ長サハ船ノ幅ノ四分ノ一迄減ズルコトヲ得但シ衝接又ハ嵌接ノ數ハ五箇以上ト爲スコトヲ得ズ

相隣接スル單材肋骨ノ衝接又ハ嵌接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十三條　船底ノ形狀銳尖ナル漁船ニ在リテ肋根材ヲ中心線ノ兩側ニ止ムル場合ニ於テハ適當ナル副龍骨ヲ龍骨ノ上面ニ取附ケ其ノ上面ニ鐵製又ハ木製ノ根曲材ヲ附シ兩舷ノ肋根材ヲ連結スベシ此ノ場合ニ於テハ內龍骨及側內厚板ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十四條　活魚艙ニ縱通隔壁ヲ設ケ該隔壁ノ下部ニ縱通材ヲ取附ケ之ヲ活魚艙ノ前後ニ二肋骨間延長シ活魚艙兩端ノ肋骨ノ寸法ヲ增シ且該部外板ノ厚サヲ增ストキハ其ノ部分ニ於テ肋骨ノ心距及外板ノ幅ヲ增加シ梁ノ寸法ヲ輕減シ且內龍骨、側內厚板及內張板ヲ省略スルコトヲ得

第二十五條　彎曲部縱通材ノ船ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十六條　彎曲部角形ナル漁船ニ在リテハ其ノ部ニ外部彎曲部縱通材ヲ設ケ其ノ截面積ヲ六五平方センチメートル以上ト爲スベシ

第二十七條　梁歷材ノ截面積ハ木船構造規程ニ定ムルモノノ五分ノ四迄減ズルコトヲ得

第二十八條　甲板梁ノ心距ガ規定ノ心距ヨリ小ナルトキハ其ノ割合ニ應ジ梁ノ寸法ヲ減ズルコトヲ得

梁柱ノ數ヲ增ストキハ適當ニ梁ノ寸法ヲ減ズルコトヲ得

縱通隔壁アル場合ニ於テハ梁柱ハ其ノ取附ヲ適當ニ省略スルコトヲ得

第二十九條　幅五メートル未滿ノ漁船ニ於テハ甲板ロノ兩側ニ設クル半梁ハ木船構造規程第七十八條ノ規定ニ拘ラズ半梁一本置ニ梁曲材ノ取附ヲ省略シ其ノ他ノ半梁ハ竪梁曲材ヲ以テ船側ニ固著シ其ノ他端ハ橫梁曲材ヲ以テ縱梁ニ固著セシムルコトヲ得

第三十條　幅五メートル未滿ノ漁船ニ於テ梁下縱通材ヲ設クルトキハ梁柱ハ甲板梁二本置ニ設クルニ止ムルコトヲ得但シ甲板室、斜橫、揚錨機、揚貨機其ノ他ノ重量物ヲ支フル梁ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條　第二數七〇〇未滿ノ漁船ニ於テハ外部腰板ヲ設クルコトヲ要セズ

第三十二條　第二數二五〇未滿ノ漁船ニ於テハ外板ノ厚サヲ增シ且彎曲部縱通材ノ幅ヲ增ストキハ內張板ヲ設クルコトヲ要セズ

第三十三條　木船構造規程第百十三條第一項ノ規定ハ長サ四メートル未滿ノ機關室ロニハ之ヲ適用セズ

第三十四條　第二數三〇〇未滿ノ漁船ノ側內厚板ハ木船構造規程第百二十八條ノ規

定ニ拘ラズ肋骨一本置ニ蔽釘及打込釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘二箇ヲ以テ固著セシムルコトヲ得

第三十五條　彎曲部縱通材ノ各材ノ幅一三センチメートル未滿ナルトキハ木船構造規程第百三十條ノ規定ニ拘ラズ肋骨一本置ニ蔽釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ固著セシムルコトヲ得

第三十六條　梁曲材ノ兩腕ニ於ケル固著釘ノ總數ハ之ヲ五箇迄減ズルコトヲ得

第三十七條　第二數三五〇未滿ノ漁船ニ於テハ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル場合ト雖モ梁曲材ノ側腕ニ用ウル蔽釘ハ之ヲ外板迄貫通セシムルコトヲ要セズ

第三十八條　外板ノ固著釘ノ數ハ外板ノ幅二二センチメートル未滿ナルトキハ肋骨毎ニ二箇迄ニ、幅二七センチメートル未滿ナルトキハ肋骨毎ニ三箇迄ニ減ズルコトヲ得

第三十九條　外部彎曲部縱通材ハ肋骨毎ニ一箇以上ノ蔽釘ヲ以テ固著セシムベシ

第四十條　動力漁船ニ在リテハ「ジブブーム」、「フライイングジブブーム」及「ブーム」ノ徑ハ長サ一メートルニ付一八ミリメートル迄ニ、「スクーナー」ノ「ガフ」ノ徑ハ長サ一メートルニ付一六ミリメートル迄ニ減ズルコトヲ得

第三節　鋼製漁船

第四十一條　鋼製漁船ノ構造及材料ノ寸法ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外造船規程中重構船ノ規定ニ依ル

第四十二條　第一種漁船及長サ二五メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ管海官廳ニ於テ特ニ必要ト認ムルモノヲ除クノ外材料試驗ヲ省略スルコトヲ得

第四十三條　第一種漁船、捕鯨船又ハ長サ二五メートル未滿ノ漁船ノ構造及材料ノ寸法ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ左ノ各號ノ限度迄之ヲ輕減スルコトヲ得

一　正肋材ノ橫邊、副肋材ノ兩邊及肋骨ノ深サヲ規定ノ寸法ヨリ一三ミリメートル減少スルコト

二　船底ノ傾斜急ナル漁船ニ在リテハ肋板ノ高サヲ增加スルトキハ造船規程別表ニ揭グル翼內龍骨用山形材二箇ヲ以テ中心線內龍骨ヲ構成シ且副肋材ヲ彎曲部ニ達セシムルニ止ムルコト又船側縱通材ニ斷切板ヲ附スルカ又ハ船側縱通材ヲ二重山形材ト爲ストキハ翼內龍骨ニ斷切板ヲ附セザルコト

三　梁ヲ肋骨毎ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ正肋材ノ寸法ト等シクシ梁ヲ肋骨一本置ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ右ニ準ジ相當ニ輕減スルコト又梁ノ肘板ノ幅及深サハ梁ノ深サノ三倍トシ厚サハ梁ノ厚サニ等シクスルコト

四　梁上側板、梁上帶板及翼內龍骨用山形材ノ截面積ヲ各四分ノ一減少スルコト

五　外板ノ厚サヲ造船規程別表ニ揭グルモノヨリ〇・五ミリメートル減少スルコト

第四十四條　第二種漁船又ハ第三種漁船ノ活魚艙ハ其ノ周壁ヲ鋼製ト爲スコトヲ要シ其ノ構造及材料ノ寸法ニ付テハ造船規程第一編第百四十二條乃至第百四十四條、第百四十八條、第百四十九條及第百六十一條ヲ準用ス

第四十五條　第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ノ活魚艙、冷藏艙及氷艙ノ頂部ノ甲板ハ水密構造ノ鋼甲板ト爲スベシ

第四十六條　第一種漁船、捕鯨船及運搬漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ニ付テハ造船規程第一編第百二十九條但書ノ規定ヲ適用セズ

第三章　設備

第四十七條　特殊漁船ニハ最大搭載人員ヲ收容スルニ要スル端艇及之ニ對スル端艇鈎ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ他ノ揚卸裝置ヲ以テ端艇鈎ニ代フルコトヲ得

第四十八條　前條ノ漁船ヲ除クノ外長サ二〇メートル以上二五メートル未滿ノ漁船ニハ容積二立方メートル以上ノ端艇ヲ、長サ二五メートル以上ノ漁船ニハ容積二・八三立方メートル以上ノ端艇ヲ備フベシ但シ端艇ノ容積ハ船舶ノ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル程度ニ止ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ備フベキ容積二・八三立方メートル以上ノ端艇ニ付テハ適當ノ揚卸裝置ヲ備フルコトヲ要ス

長サ二五メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ以テ端艇ニ代用スルコトヲ得

長サ二五メートル以上三〇メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ端艇ノ容積ノ一部ヲ救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ以テ代用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ救命筏又ハ救命浮器ハ其ノ定員一人ヲ以テ、救命浮環ハ一箇ヲ以テ端艇ノ容積〇・二八三立方メートルニ相當スルモノトス

第四十九條　第二種漁船又ハ第三種漁船ニハ最大搭載人員ト同數ノ救命胴衣ヲ備フベシ但シ管海官廳ノ見込ニ依リ鰹竿釣又ハ鮪竿釣漁船ニ在リテハ最大搭載人員ノ四分ノ一迄、第五十五條第二項ニ掲グル漁船ニ在リテハ最大搭載人員ノ二分ノ一迄救命胴衣ノ數ヲ減ズルコトヲ得

第五十條　漁船ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命焰ヲ備フベシ

漁船ノ種類	救命浮環	救命焰
第一種漁船	二	一
第二種及第三種漁船	四	二

第五十一條　第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ノ普通艇ノ附屬具ニ付テハ船舶設備規程第三十三條ノ規定ヲ準用ス

前項以外ノ漁船ノ普通艇ニハ船舶設備規程第三十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五十二條　「アムモニア」式冷却機ノ設備アル漁船ニハ「アムモニア」防毒「マスク」二箇以上ヲ備フベシ

第五十三條　漁船ノ居室ニハ船舶設備規程第八十條乃至第八十五條及第八十七條第二項ハ之ヲ準用セズ

第五十四條　居室ノ高サ一・六メートル以上アル場合ヲ除クノ外居席ヲ二層ト爲スコトヲ得ズ

第五十五條　漁船ノ最大搭載人員ハ各居室ノ定員ノ和トス

各居室ノ定員ハ左ノ各號ノ計算法ニ依リ算出シタル員數ノ中小ナルモノトス

一　居室ノ容積ヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シタル員數

二　寢臺ヲ備フル室ニ付テハ寢臺ノ數ト寢臺外ノ場所ノ面積ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トノ和

三　寢臺ヲ備ヘザル室ニ付テハ居室ノ面積ヲ左表ニ掲グル單位面積ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數

漁船ノ種類	單位面積（平方米）	單位容積（立方米）
第一種漁船	〇・四五	—
第二種漁船　鰹竿釣又ハ鮪竿釣漁船	〇・三〇	〇・六〇
第二種漁船　前欄ニ掲グルモノ以外ノ漁船	〇・六〇	一・〇〇
第三種漁船	〇・八五	一・五五

長サ二五メートル未滿ノ漁船又ハ長サ五〇メートル未滿ノ母船ニ付テハ管海官廳ニ於テハ前項ノ單位面積又ハ單位容積ヲ適當ニ輕減スルコトヲ得

漁業ニ關スル試驗、調査、指導又ハ練習ニ從事スル漁船ノ鰹竿釣又ハ鮪竿釣ヲ行フ場合ニ於ケル最大搭載人員ノ算定ニ付テハ第一項ノ表中鰹竿釣又ハ鮪竿釣漁船ノ率ニ依ルコトヲ得

第五十六條　特殊漁船ニハ上甲板以上ノ場所又ハ上甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ於テ成ルベク船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ適當ナル病室ヲ設クベシ

第五十七條　特殊漁船ニハ第一號表ニ定ムル醫藥其ノ他ノ衛生用品ヲ備フベシ

第五十八條　特殊漁船ニハ其ノ搭載セル人員ニ對シ出漁期間ニ應ジ第二號表ニ定ムル食料及飲用水ヲ備フベシ但シ仲積船ニ依リ操業ノ場所ニ於テ食料又ハ飲用水ノ補給ヲ受クルコトヲ得ル船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ備フベキ食料又ハ飲用水ノ量ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第五十九條　艤裝數ノ算定ニ付テハ鋼製動力漁船ハ之ヲ鋼製汽船ト看做ス

第六十條　漁船ニハ其ノ艤裝數ニ應ジ動力漁船ハ船舶設備規程第四號表ニ、動力漁船ニ非ザル漁船ハ同規程第五號表ニ定ムル錨、錨鎖及索ヲ備フベシ

第六十一條　第一種漁船ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ大錨三箇ヲ備フベキ場合ト雖モ其ノ數ヲ二箇ト爲スコトヲ得但シ中一箇ノ大錨ノ錨量ハ表ニ掲グル單量以上、他ノ一箇ハ該單量ノ百分ノ八十五以上ト爲スベシ

第六十二條　長サ二五メートル未滿ノ漁船ハ大錨ノ總錨量ガ規定ニ依ル量ヲ下ラザルトキハ其ノ錨數ヲ增シ單量ヲ減ズルコトヲ得但シ一箇ノ錨量ハ表ニ掲グル大錨ノ單量ノ二分ノ一ヲ下ルベカラズ

第六十三條　第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ニ備フル錨（錨鉤ヲ含ミタル重量七六・二キログラム以下ノモノヲ除ク）、錨鎖及鋼索ハ船舶設備規程第百二十八條ニ依ル試驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要ス

第六十四條　長サ二五メートル未滿ノ漁船ニハ日本形錨ヲ代用スルモ妨ナシ

前項ノ規定ニ依リ代用シタル日本形錨ニ對シテハ相當ノ錨索ヲ以テ錨鎖ニ代用スルモ妨ナシ

日本形錨ノミヲ備フル漁船ニ在リテハ錨量ハ船舶設備規程第六號表ニ定ムルモノノ十分ノ九以上ト爲シ錨索ハ同表ニ定ムルモノヲ備フベシ

大錨ヲ除キ其ノ他ノ日本形錨ニ對スル錨索ノ長サハ船舶設備規程第六號表ニ定ムル大錨索ノ長サニ等シクシ其ノ徑ハ錨量ニ應ジ船舶設備規程第七號表ニ定ムル所ニ依ルベシ

第六十五條　長サ六〇メートルヲ超ユル動力漁船ニハ動力ニ依ル操舵裝置ヲ備フベシ

第六十六條　漁船ニ備フベキ航海用具其ノ他ノ屬具ハ第三號表ニ定ムル所ニ依ル電氣船燈ヲ常用スル漁船ニ在リテハ第三號表ニ定ムル所ニ依リ豫備燈ヲ要セザル

場合ト雖モ各電氣船燈ニ對シテ豫備ノ油船燈ヲ備フベシ

第六十七條　油船燈ヲ備フル漁船ニ於テハ船燈一種ニ付第一種漁船又ハ長サ二一メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ三箇以上、其ノ他ノ漁船ニ在リテハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備フベシ

第一種漁船ヲ除クノ外長サ二一メートル以上ノ漁船ニ在リテハ綠及紅ノ挿入硝子ヲ使用スル舷燈ヲ備フルトキハ綠、紅各二箇ノ豫備挿入硝子ヲ備フベシ

第六十八條　第二種漁船又ハ第三種漁船ニハ其ノ從業場所ノ海圖ヲ備フベシ

海圖ハ水路部ノ最近刊行ニ係ルモノ又ハ管海官廳ニ於テ適當ト認メタルモノヲ使用スベシ

第六十九條　帆檣ヲ有スル漁船ニハ檣ニ相當スル帆一揃及左ノ豫備帆ヲ備フベシ

豫備帆ノ種類	數	備考
「フォール、ステースル」	一	「カッター」、「ケッチ」又ハ「スループ」ノ帆裝ヲ有スルモノハ「フォールステースル」一枚ノミ又「ラッガー」ノ帆裝ヲ有スルモノハ「フォースル」一枚ノミト爲スコトヲ得
「フォースル」	一	

第四章　機關

第七十條　船舶機關規程ニ定ムル乙種機關ハ左ノ各號ニ掲グル漁船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

一　「トロール」汽船
二　捕鯨船
三　母船ニシテ動力ニ依ル漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スルモノ
四　長サ三〇メートル以上ノ母船ニシテ動力ニ依ル漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有セザルモノ
五　長サ三〇メートル以上ノ第二種漁船
六　長サ三〇メートル以上ノ運搬漁船
七　漁船特殊規則第五條第四號ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ニシテ長サ三〇メートル以上ノモノ

第七十一條　船舶機關規程ニ定ムル丙種機關ハ長サ三〇メートル未滿ノ第一種漁船ノ外漁船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第七十二條　發動機ヲ備フル木製漁船ノ推力軸、中間軸又ハ螺旋軸ノ徑ハ船舶機關規程ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ同規程第百四十六條ノ發動機ニ付テハ一・〇七ヲ、「ディーゼル」式發動機ニ付テハ一・〇五ヲ乘ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第七十三條　備品ハ機關ノ種類ニ應ジ第四號表又ハ第五號表ニ定ムル所ニ依リ之ヲ機關室又ハ船內適當ノ場所ニ備フベシ

附　則

第七十四條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十五條　本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ノ船體又ハ機關ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ漁船ノ大小、業務ノ種類等ヲ考慮シ差支ナシト認ムルトキハ特ニ之ヲ合格ト爲スコトヲ得但シ本令施行ノ日ヨリ三年以後ニ於テ漁船ニ新ニ備附クル機關ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條　本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ第四條、第五條、第七條、第九條、第十二條、第十四條、第四十四條乃至第四十六條及第五十六條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第七十七條　本令施行前製造シタル漁船ニシテ引續キ從前ノ業務ニ從事スルモノニ付管海官廳本令ニ依リ救命設備、航海用具其ノ他ノ屬具又ハ機關備品ヲ備フルコト困難ナリト認メタルトキハ本令施行後二年以內ニ於テ行フ最後ノ中間檢査又ハ定期檢査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第七十八條　本令施行ノ際現ニ存スル居室ニ付テハ第五十四條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第七十九條　本令施行ノ際現ニ漁船ニ備フル錨、錨鎖又ハ鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ第六十三條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第一號表　特殊漁船ニ對スル醫藥及衛生用品表

(一)　內用藥

藥名	數量	藥名	數量	藥名	數量
アスピリン錠	五〇〇箇	硼酸錠	一〇〇箇	阿片吐根錠(ドーフル散)	二〇〇箇
塩酸キニーネ丸	五〇〇グラム	硼酸散	二〇〇グラム	カルモチン錠(ブロムワレツル尿素錠)	三〇〇グラム
重曹	五〇〇グラム	稀ヨードチンキ	一〇〇グラム	硫酸マグネシヤ	二五〇グラム
複方健胃錠(B)	五〇〇箇	アンモニア水	一〇〇グラム	サンタル油	一〇〇グラム
ヂアスターゼ錠	三〇〇グラム	ロート眼藥	一〇立方糎入五〇箇	サンタル球	五〇〇箇
バルビタール錠	一〇〇グラム	クレオソード丸	五〇〇箇	オリザニン錠	一、五〇〇グラム
ミグレニン錠	二〇〇グラム	過酸化水素水	五〇〇グラム	サントニン錠	二五〇グラム
ラキサトール錠	一五〇グラム	オリセリン	一〇〇グラム	燐酸コディイン錠	五〇〇グラム
ヒマシ油	五〇〇グラム	グリセリン	一〇〇グラム		
タンナルビン錠	二〇〇箇	アルコール	一〇〇グラム		
		流動石炭酸	五〇〇グラム		

(二)　外用藥

藥名	數量	藥名	數量
硼酸軟膏	五〇〇グラム	硼酸軟膏	五〇〇グラム
硼酸軟膏	五〇〇グラム	水銀軟膏	一〇〇グラム
石炭酸軟膏	一〇〇グラム	タールパスタ	五〇〇グラム
ピックル軟膏	五〇〇グラム	亞鉛華絆創膏	一本
亞鉛華オレフ油	一〇〇グラム	サルチル酸	一グラム
エリナコール	二〇〇グラム		

(三) 醫療器械類

品名	數量	品名	數量
小外科器械	一函	リンゾート	一本
消毒盤	一箇	亞麻仁油紙	一〇〇枚
スポイト	一グラム	片眼帶	一〇〇箇
檢溫器	三グラム	副木	一二本
浣腸器	一〇〇グラム	カプセル	〇・三グラム入
洗眼コップ	一〇〇グラム	藥袋	三〇〇〇枚
挿便器	一グラム	內用外用	一〇〇〇箇
挿込尿器	一〇〇グラム	藥包紙	一、〇〇〇グラム
氷囊	一〇〇グラム	眞鍮製水牛角製各	一組
氷枕	五〇〇グラム	藥匙	小二箇
懷爐	一〇〇グラム	漏斗	一〇〇〇立方糎
指サック	三六〇グラム	液量器	一〇〇〇グラム
ガーゼ	五〇〇グラム	瓶	五〇〇グラム
昇汞ガーゼ	二〇〇グラム	金屬製水牛角製各	一〇〇グラム
脫脂綿	三〇〇〇グラム		
卷帶	四〇〇〇グラム		
三角巾	一〇〇本		
吸入器	大型二〇〇枚		

備考

一 管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ本表ニ揭グル錠劑ハ同一效力ノ粉末劑又ハ液體劑ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

二 最大搭載人員四百人未滿又ハ出漁期間百五十日未滿ノ場合ニ於テハ本表ニ揭グル藥品ノ量ハ管海官廳ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ輕減セシムルコトヲ得

第二號表 特殊漁船ニ對スル食料及飲用水表

品名	量額
七分搗米	八〇〇グラム
骨附魚肉類	一六〇〇グラム
骨附野菜類	五〇〇グラム
生干梅味噌類	一一二〇グラム
漬物砂糖類	一一二〇グラム
調味料 醬油脂類	二五〇グラム
調味料 酢類	適宜
飲用水	三・六リットル

備考

一 本表ノ量額ハ一人一日ニ對シ支給スベキ最小額トス

二 七分搗米ハ半搗米又ハ白米ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ白米ヲ用ウルトキハ必ズ適量ノ大麥ヲ混用スベシ

三 骨附獸肉ノ可食分ハ五四%骨附魚肉ノ可食分ハ六六%トス

四 獸肉ニ代ウルニ魚肉ノミヲ以テスルトキハ其ノ用量ヲ倍額トスベシ

五 肉類ハ同量ノ塩乾肉又ハ燻肉ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

六 生野菜ハ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ限リ本表ノ量額ノ半量ヲ超エザル範圍內ニ於テ乾野菜ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ乾野菜二五グラムハ生野菜一〇〇グラム ニ相當スルモノトス

北洋方面以外ニ出漁スル母船ニ付テハ管海官廳ニ於テ調味料ノ量額ヲ適當ニ酌減スルコトヲ得

第三號表 屬具表

屬具名稱 ＼ 漁船ノ種類	第三種漁船 長サ五十メートル以上	第三種漁船 長サ五十メートル未滿	第二種漁船 長サ二十一メートル以上	第二種漁船 長サ二十一メートル未滿	第一種漁船 動力漁船 動力ヲ有セザル漁船	第一種漁船 動力漁船 動力ヲ有セザル漁船及總噸數百噸未滿ノ運搬漁船
錨	一	一	一	一	一	一
號鐘	一	一	一	一	一	一
時計	二	一	一	一	一	一
雙眼鏡	一	一	一	一	一	一
晴雨計	一	一	一	一	一	一
海水用寒暖計	一	一	一	一	一	一
手用測程具	一	一	一	一	一	一
砂漏計	一	一	一	一	一	一
測程機械	二	一	一	一	一	一
手用測鉛	二	一	一	一	一	一
深海測鉛	一	一	一	一	一	一

摘要

動力ヲ有セザル漁船及總噸數百噸未滿ノ運搬漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

測鉛ノ重量ハ手用測鉛ニ在リテハ一三二瓩以上、深海測鉛ニ在リテハ一二七瓩以上ナルコトヲ要ス

測鉛ニ附スル綫ノ長サハ手用測鉛ニ在リテハ四六メートル以上、深海測鉛ニ在リテハ一二三〇メートル以上ナルコトヲ要ス

總噸數三十噸未滿ノ動力ヲ有セザル漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

碇泊燈	船尾燈	舷燈 豫備	舷燈 常用	檣燈 豫備	檣燈 常用	羅針儀	航海暦	六分儀	時辰儀	
二	一	一對	一對	二	二	二	一	一	一	總噸數千噸未滿ノ母船及運搬漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
一	一	一	一對	一	一	二	一	一	一	總噸數二百噸未滿ノ母船及運搬漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
一	一	一	一對	一	一	一	一	一	一	總噸數二百噸未滿ノ母船及運搬漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
一	一	一	一對	一	一	一	一	一	一	二箇ヲ有スルモノニ在リテハ一箇ハ天象艸角ヲ測リ得ベキ器具ヲ備フルコトヲ要ス
一	一	一	一對	一	一	一	一	一	一	總噸數二百噸未滿ノモノハ一箇ト爲スモ妨ナシ
一	一	一	一對	一	一	一	一	一	一	總噸數四十噸以上ノ動力漁船ニハ甲種檣燈ヲ備ヘ總噸數四十噸未滿ノ動力漁船ニハ甲種又ハ乙種檣燈ヲ備フベシ
一	一	一	一對	一	一	一	一	一	一	長サ四五・七メートル以上ナルトキハ常用燈二箇ヲ備フベシ曳船ニ從事スル動力漁船ハ常用燈トシテ甲種檣燈二箇以上ヲ增備スベシ
一	一	一	一對	一	一	一	一	一	一	豫備燈ハ油船燈ト爲スコトヲ要ス
一	一	一	一對	一	一	一	一	一	一	動力ヲ有セザル漁船及總噸數四十噸以上ノ動力漁船ニハ甲種舷燈ヲ備フベシ
一	一	一	一對	一	一	一	一	一	一	總噸數四十噸未滿ノ動力漁船ニハ甲種又ハ乙種舷燈ヲ備フベシ但シ甲種兩色燈一箇ヲ以テ代用スルコトヲ得
一	一	一	一對	一	一	一	一	一	一	豫備舷燈ハ油船燈ト爲スコトヲ要ス
一	一	一	一對	一	一	一	一	一	一	總噸數四十噸未滿ノ漁船ニ於テハ甲種乙種又ハ丙種白燈ヲ以テ代用スルコトヲ得
一	一	一	一對	一	一	一	一	一	一	碇泊燈ハ甲種、乙種又ハ丙種白燈ナルコトヲ要ス
一	一	一	一對	一	一	一	一	一	一	長サ四五・七メートル以上ナルトキハ碇泊燈二箇ヲ備フベシ

信號燈	海錨	船名錄	國際通信書	國際信號旗	國旗	火箭又ハ榴彈	霧中號角	黑球	漁業燈	
一	一	一	一	一組	二	六	一	二	一揃	總噸數四十噸未滿ノ動力漁船ニハ黑球ヲ備フルコトヲ要セズ
一	一	一	一	一組	一	二	一	二	一揃	黑球ハ直徑六一〇ミリメートルニシテ布其ノ他ノ保存ニ耐フベキ材料ヲ用ヒタルモノナルコトヲ要ス
一	一	一	一	一組	一	二	一	二	一揃	
一	一	一	一	NC二旗	一	二	一	二	一揃	
一	一	一	一	NC二旗	一	二	一	二	一揃	
一	一	一	一	NC二旗	一	一	一	一	一揃	
一					一				一揃	本表備考表ニ依ルベシ
一	一	一	一			一				總噸數百噸未滿ノ漁船ニハNC二旗ノミヲ備フルモ妨ナシ但シNC旗ノミヲ備フル漁船ト雖モ信號符字ノ點符アルモノハ其ノ符字ニ對スル信號旗ヲ備フベシ
一	一	一	一			一				總噸數百噸未滿ノ漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナク又無線電信裝置ノナキ漁船ニハ國際通信書中電信篇ヲ備ヘザルモ妨ナシ
一	一	一	一			一				總噸數百噸未滿ノ漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
一	一	一	一			一				總噸數二百噸以上ノ漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
一						一				總噸數百五十噸以上ニシテ國際航海ヲ爲ス漁船ニ限リ之ヲ備フベシ

榴彈ヲ備フルトキハ打上臺一箇ヲ備ヘ適當ノ場所ニ揺附クベシ

口徑八九ミリメートル以上ノ信號砲又ハ口徑一四〇ミリメートル以上ノ臼砲附屬具及十二發以上ノ發射設備ヲ備フル漁船ニハ火箭又ハ榴彈ヲ備ヘザルモ妨ナシ

總噸數千噸未滿ノ運搬漁船ハ二箇ト爲スモ妨ナシ

備考

漁業燈ヲ備フベキ漁船ノ種別及備フベキ漁業燈ノ種類竝ニ數ハ左ノ各號ニ依ル但シ各號ノ白燈ハ之ト同種以上ノ白燈ヲ碇泊燈トシテ備フルトキハ碇泊燈ヲ以テ兼用スルコトヲ得

(一) 甲板ヲ張詰メザル漁船ニシテ夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出セル漁具ノ端ト本船トノ水平距離ガ四五・七メートル以内ナルモノ

甲種、乙種、丙種又ハ丁種白燈一箇

(二) 甲板ヲ張詰メザル漁船ニシテ夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出セル漁具ノ端ト本船トノ水平距離ガ四五・七メートルヲ超ユルモノ

甲種、乙種、丙種又ハ丁種白燈二箇

(三) 甲板ヲ張詰メタル漁船ニシテ夜間流網又ハ延繩ヲ用ヒテ漁業ニ從事スルモノ

甲種白燈二箇

(四) 夜間打瀬網、桁網其ノ他海底ニ曳ク漁具ヲ用ヒテ漁業ニ從事スルモノ

甲種又ハ乙種白燈一箇

(五) 前號ノ漁船中夜間機關ヲ以テ推進シ漁具ヲ海底ニ曳クモノ

前號ノ白燈ノ外三色燈一箇

第四號表

蒸汽機關ヲ備フル漁船ノ機關備品表

漁船ノ種別	名稱	摘要
第二種漁船、「トロール」汽船又ハ漁船特殊規則第五條第四號ニ掲グル業務ニ從事スル漁船	「ピストン」環	各一組
	「ピストン」發條	各一組
	「ピストン」抑環螺釘及母螺	六箇
	連接桿上下ノ栓受金・連接桿上下ノ螺釘及母螺	一桿分
	「クランク」軸受螺釘及母螺	一桿分
	「ローター」軸受金	各種一組
	「ローター」軸受螺釘及母螺	各形一組
	減速裝置軸受金	各種一組
	減速裝置ノ軸受螺釘及母螺	各種一組
	「ローター」推力受	一組
	「ローター」軸ノ汽密環及發條	各「タービン」ニ付一組
	接軸鍔螺釘及母螺	各墳座毎ニ半組
	單環式推力軸推力受	各種一組
	復水器管	片面分
	復水器管墳筒	總數ノ四十分ノ一但シ最少十本
	抽氣「ポンプ」桿	總數ノ三十分ノ一但シ最少三十箇
	抽氣「ポンプ」弁	一箇
	循環水「ポンプ」桿	一組
	循環水「ポンプ」弁	一箇
	給水「ポンプ」弁	一組
	給水「ポンプ」弁	一組
	潤滑油「ポンプ」弁及發條	一組
	逃出弁發條	各種一箇
	給水制限弁	一組
	安全弁發條	各罐ニ付一箇
	火床棧	總數ノ五分ノ一

摘要
同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ之ヲ一組ニ止ムルコトヲ得
廢汽「タービン」用ナルトキハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
同右
同右
同右
同右
扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ
扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ
同上
同上
同上
同上
同上
同上
同上
同上
汽罐四箇以上ナルトキハ更ニ一組增備スベシ
同形ニシテ相轉用シ得ルモノナルトキハ三箇ニ止ムルコトヲ得
汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得

燃油裝置用噴油器	各罐ニ付一箇	同上	同上	同上	
微粉炭燃燒裝置用噴炭器	各罐ニ付一箇	同上	同上	同上	
微粉炭燃燒裝置用碎炭具	一組	—	—	—	
示面計硝子管	各罐ニ付四箇但シ最少六箇	六箇	六箇	六箇	中半數ハ汽罐前面ニ於テ直ニ使用シ得ルモノナルコトヲ要シ水管汽罐ニハ管寨径ヲ上記ノ倍數備フベシ汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得
管擦器	一	同上	同上	同上	
管塞器	各罐ニ付二箇但シ最少四箇	四箇	四箇	四箇	
滑車及綱	一組	—	—	—	
螺旋切道具	一組	—	—	—	
鐵孔器	一組	—	—	—	
鞴	一箇	—	—	—	
金敷	一箇	—	—	—	
据附萬力	一箇	同上	同上	同上	
鋼板	各種若干	同上	同上	同上	
鋼棒	各種若干	同上	同上	同上	
螺釘及母螺	各種若干	同上	同上	同上	
機關室小道具	一揃	同上	同上	同上	
驗鹽器	二箇	一箇	一箇	一箇	
溫度計	二箇	一箇	一箇	一箇	

備考

汽機又ハ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ「ピストン」環乃至逃出弁發條ハ之ヲ汽機又ハ「ポンプ」一箇分ニ止ムルコトヲ得

第五號表

發動機ヲ備フル漁船ノ機關備品表

名稱	漁船ノ種別 / 船體ノ長サ	第二種漁船「トロール」汽船又ハ漁船特殊規則第五條第四號ニ掲グル業務ニ從事スル漁船	其ノ他ノ漁船			摘要
		三〇米以上	三〇米未滿	三〇米以上	三〇米未滿	
氣筒蓋	弁其ノ他附屬品ノ完備セルモノ	各形一組	—	—	—	長サ五〇メートル以上ノ船舶ニ備フル「ディーゼル」式發動機ニ限ル
「ピストン」環	「ピストン」完備セルモノ	一箇	上同	上同	上同	同右
噴油弁	弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組同	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組同	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組同	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組同	中半數ハ弁、弁座及發條ノミニ止ムルコトヲ得複動式ナルトキハ上記ノ倍數トス
吸氣弁	弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組同	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組同	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組同	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組同	上同右
排氣弁	弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ	氣筒一箇毎ニ一組同	上同	上同	上同	上同右
噴油管及接合金具		一揃	上同	—	—	無空氣噴油「ディーゼル」式發動機ニ限ル
「ピストン」冷却用伸縮嵌合管又ハ搖動管		一組同	上同	—	—	
主軸受螺釘及母螺		一氣筒分同	上同	上同	上同	
連接桿上下ノ軸受金		二桿分同	上同	上同	上同	
連接桿上下ノ螺釘及母螺		一桿分同	上同	上同	上同	

接軸鍔螺釘及母螺	各種一組	同	上	同	上
始動弁及發條	一組	同	上	同	上
正副空氣壓縮機ノ壓縮筒	各形一組	同	上	同	上
ノ「ピストン」環	各形半組	同	上	同	上
正副空氣壓縮機ノ吸入弁及排出弁並ニ發條	一組	同	上	同	上
掃除空氣「ポンプ」弁及發條	一組	同	上	同	上
燒球式發動機ノ掃除空氣弁	二氣筒分	同	上	一氣筒分	同
噴油「ポンプ」ノ弁、弁座及發條	氣筒二箇又ハ其ノ端數ハ毎ニ一氣筒分	氣筒四箇又ハ其ノ端數ハ毎ニ一氣筒分	同	一氣筒分	同
氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等ノ冷却「ポンプ」ノ扇車軸	一箇	同	上		
氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等ノ冷却「ポンプ」ノ弁及發條	一組	同	上		
潤滑油「ポンプ」ノ弁及發條	一組	同	上		
移油「ポンプ」ノ弁及發條	一組	同	一組		
淦水「ポンプ」弁	一組	同	上	同	上
燒球	氣筒一箇毎ニ一箇	同	上	氣筒二箇又ハ其ノ端數ハ毎ニ一箇	同
點火栓	氣筒一箇毎ニ一箇	同	上	同	上
電池	常用ト同數	同	上	常用ノ半數	同
電線	若干	同	上	同	上
始動用燈	常用ノ外二箇	同	上	常用ノ外一箇	上

滑車及綱	一組	同	上	同	上
螺旋切道具	一組	同	上	一組	上
鍍孔器	一組	同	上	一組	上
鞴	一箇	同	上		
金敷	一箇	同	上		
据付萬力	一箇	同	上	一箇	上
鋼板若干	一箇	同	上		
鋼棒若干	一箇	同	上		
螺釘及母螺各種若干	一擔	同	上		
機關室小道具	一箇	同	上	二箇	上
溫度計	二箇	同	上	一箇	上
回轉計	一箇	同	上	同	上

備考

發動機又ハ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ氣筒蓋乃至點火栓ハ之ヲ發動機又ハ「ポンプ」一箇分ニ止ムルコトヲ得

◉文部遞信省令第一號

船舶氣象觀測報告規則左ノ通リ定ム

昭和九年二月八日

文部大臣　鳩山　一郎
遞信大臣　南　弘

船舶氣象觀測報告規則

第一條　公衆通信ヲ取扱フ無線電信ノ施設ヲ有スル船舶及主務大臣ノ特ニ指定スル船舶ハ海岸局ノ通信距離内ヲ航行中毎日中央標準時午前六時、正午及午後六時ニ氣象觀測ヲ爲スベシ

天候異常ノ場合ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ前項ノ時刻外ト雖モ氣象觀測ヲ爲スベシ

第二條　前條ニ定ムル氣象觀測ヲ爲シタルトキハ直ニ中央氣象臺宛電報ニ依リ之ヲ報告スベシ

第三條　前條ノ報告ハ中央氣象臺ノ告示スル船舶氣象電報式ニ依ルベシ

附　則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

法律

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船舶職員法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和八年三月十四日

内閣總理大臣　子爵　齋藤　實

遞信大臣　南　弘

法律第十二號（官報　昭和八年三月十五日）

船舶職員法中左ノ通改正ス

第一條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セサル船舶ハ此ノ限ニ在ラス

第八條第一項中「船舶賃貸借」ヲ「船舶貸借」ニ、「賃借人」ヲ「船舶借入人」ニ改ム

第九條第二項中「賃借人」ヲ「船舶借入人」ニ改ム

第九條ノ二中「船舶檢査法第十七條ニ掲クル外國船舶」ヲ「日本船舶ニ非サル船舶ニシテ船舶安全法第十四條各號ニ掲クルモノ」ニ改ム

第九條ノ三中「又ハ臺灣總督」ヲ削ル

第九條ノ四　地方長官ハ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セサル船舶ニ於テ船舶職員ニ該當スル職務ヲ執ル者ノ資格ニ關シ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

第一號表（其ノ一）及（其ノ二）中「航路」ヲ「航行區域」ニ、「平水航路」ヲ「平水區域」ニ、「沿海航路」ヲ「沿海區域」ニ、「近海航路第一區」ヲ「近海區域」ニ、「遠洋航路又ハ近海航路第二區」ヲ「遠洋區域」ニ改ム

第一號表（其ノ一）遠洋航路又ハ近海航路第二區帆船二百噸未滿ノ項免狀種類ノ欄中「丙種船長免狀（近海航路第二區ニ限ル）」及「丙種運轉士免狀（近海航路第二區ニ限ル）」ヲ削ル

附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（參照）

明治二十九年四月七日公布法律第六十八號船舶職員法抄錄

第一條第一項

日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乘組マシムヘシ但シ船舶檢査法第一條各號ニ掲クル船舶ハ此ノ限ニ在ラス

第八條第一項

此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ相當スル船舶職員ヲ乘組マシメサルトキハ船舶所有者、船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人、船舶賃貸借ノ場合ニ於テハ賃借人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條第二項

前條第一項ノ罰則ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ賃借人カ法人ナルトキハ其ノ代表者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ船舶ノ管理ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ二　此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ船舶檢査法第十七條ニ掲クル外國船舶ニ準用スルコトヲ得

第九條ノ三　朝鮮總督又ハ臺灣總督ノ授與シタル海技免狀ニシテ遞信大臣ニ於テ第五條ノ規定ニ依リ授與シタルモノト同等ト認メタルモノハ之ヲ第五條ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ授與シタル海技免狀ト看做ス

勅令

朕昭和八年法律第十二號船舶職員法中改正法律施行期日ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和九年二月六日

内閣總理大臣　子爵　齋藤　實

遞信大臣　南　弘

勅令第十八號（官報　二月七日）

昭和八年法律第十二號（昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

省令

◉遞信省令第二十五號

船舶職員法施行細則中左ノ通改正ス

昭和九年二月七日　遞信大臣　南　弘

第二章船舶職員ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二　本令ニ於テ近海區域トハ船舶安全法施行規則第二十八條ノ規定ニ拘ラズ同條第二項ニ掲グル近海區域第一區又ハ同第二區ヲ謂ヒ二區以上ノ近海區域ヲ連續シタルモノ又ハ近海區域第三區ハ之ヲ遠洋區域トス

第五條　漁船ニ乘組マシムベキ船舶職員ニ付テハ第三號表ニ依ル但シ機關ヲ有スル漁業帆船ノ機關部職員ニ付テハ第六條ノ規定ニ依ルコトヲ得

第六條ノ二　船舶安全法施行規則第三十五條ノ認可ヲ受ケタル場合ト雖船舶職員ニ關シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該船舶ガ航行ヲ認可セラレタル區域ニ付定メラレタル範圍內ニ於テ海技免狀ヲ受有スル者ノ乘組ヲ命ズルコトヲ得

第七條中「前二條」ヲ「前三條」ニ改ム

第九條第一項第四號中「平水航路又ハ沿海航路」ヲ「平水區域又ハ沿海區域」ニ改メ同條第三項ヲ左ノ如ク改ム

船舶安全法施行規則第三十七條ノ規定ニ依リ旅客又ハ貨物ヲ搭載セズシテ船舶ヲ回航スルニ當リ第四條ノ二ニ定ムル遠洋區域ヲ航行スルトキハ近海區域ニ相當スル船舶職員、近海區域ヲ航行スルトキハ沿海區域ニ相當スル船舶職員、沿海區域ヲ航行スルトキハ平水區域ニ相當スル船舶職員ヲ各乘組マシムルコトヲ得

第十條第二號中「平水航路ヲ航路定限ト爲シ」ヲ「平水ノ航行區域ヲ有シ」ニ改ム

第十條ノ二　第四條ノ二ニ定ムル遠洋ノ航行區域ヲ有スル總噸數二百噸未滿ノ帆船ノ船長ハ丙種船長免狀、一等運轉士ハ丙種運轉士免狀ノ受有者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十條ノ三　第二種甲又ハ第三種甲ノ從業制限ヲ有スル漁船ニシテ「ベーリング」海及第二種乙若ハ第三種乙ニ付規定スル區域內又ハ東ハ東經百七十五度、西ハ同九十度、南ハ南緯十三度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域內ニ於テ從業スルモノハ第二種乙又ハ第三種乙ノ從業制限ニ付定メラレタル船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得此ノ場合內地又ハ臺灣ニ在リテハ管海官廳、外國ニ在リテハ領事官又ハ貿易事務官ニ就キ其ノ旨當該船舶檢査證書ニ記載ヲ受クベシ

前項ノ場合總噸數三十噸未滿又ハ公稱馬力五十馬力未滿ノ船舶ニ在リテハ小形船乙種二等運轉士免狀、小形船丙種運轉士免狀又ハ小形發動機船三等機關士免狀ヨリ上級ノ免狀受有者ヲ乘組マシムルコトヲ要ス但シ第五條但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條　海技免狀原簿ニ登錄ヲ爲シ又ハ之ヲ抹消シタルトキハ其ノ旨官報ニ公告ス

海技免狀滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スベキ場合ニ於テ返還セザルトキハ其ノ無效ナルコトヲ官報ニ公告ス

第三十四條中「第九條第二項及第四項、」ノ次ニ「第十條ノ三第一項、」ヲ加フ

第一號表中左ニ掲グル海技免狀ノ項ヲ

小形船丙種運轉士免狀	沿海ノ航行區域ヲ有スル總噸數三十噸未滿ノ帆船第一種、第二種乙又ハ第三種乙ノ從業制限ヲ有スル總噸數三十噸未滿ノ漁業帆船
沿岸丙種運轉士免狀	沿海ノ航行區域ヲ有スル總噸數七十噸未滿ノ帆船漁業帆船

沿海以下ノ航行區域ヲ有スル總噸數三十噸未滿ノ旅客定員小形船乙種二等運轉士免狀

第一種乙第二種乙又ハ第三種乙ノ從業制限ヲ有スル總噸數三十噸未滿ノ漁業汽船

沿海以下ノ航行區域ヲ有スル總噸數四十噸未滿ノ汽船沿岸乙種二等運轉士免狀

公稱馬力五十馬力未滿ノ發動機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル公稱馬力三十馬力未滿ノ發動機船小形發動機船三等機關士免狀

公稱馬力百五十馬力未滿ノ發動機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ平水ノ航行區域ヲ有スル公稱馬力二百馬力未滿若ハ沿海ノ航行區域ヲ有スル公稱馬力百馬力未滿ノ發動機船沿岸發動機船三等機關士免狀

發動機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ近海以下ノ航行區域ヲ有スル發動機船發動機船三等機關士免狀

近海發動機船二等機關士免狀

ニ改メ湖川港三等機關士免狀ノ項ヲ

湖川港汽船三等機關士免狀（發動機船ヲ包含セズ）

ニ改メ近海二等機關士免狀

近海汽船二等機關士免狀

ニ改メ發動機船三等機關士免狀ノ項ノ次ニ

汽船三等機關士免狀

ヲ加フ

第二號表上級ノ欄中「近海二等機關士免狀」「發動機船二等機關士免狀」ノ中「近海二等機關士免狀」ヲ削リ同欄中「近海二等機關士免狀」ヲ「二等機關士免狀」ニ改メ同項ノ次ニ

近海汽船二等機關士免狀

汽船三等機關士免狀

湖川港汽船三等機關士免狀

ヲ加フ

第三號表ヲ左ノ如ク改ム

第三號表（其ノ一）漁船船長及運轉士定員表

從業制限	船種類	總噸數	船舶職員	海	技	免狀	定員
第一 汽船	三十噸未滿船		船長	小形船乙種二等運轉士免狀			一
	二百噸未滿船		船長	沿岸乙種二等運轉士免狀			一
	五百噸未滿船		船長	漁船乙種一等運轉士免狀			一
	五百噸以上船		船長	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長			一
	漁船乙種一等運轉士免狀						一

種					
帆船	三十噸未滿船	長	小形船丙種運轉士免狀		一
	二百噸未滿船	長	沿岸丙種運轉士免狀		一
	二百噸以上船	長	丙種運轉士免狀		一
第二種 汽船	三十噸未滿船	長	小形船乙種二等運轉士免狀		一
	百噸未滿船	長	沿岸乙種二等運轉士免狀		一
	二百噸未滿船	長	漁船乙種一等運轉士免狀		一
	五百噸未滿船	長	漁船乙種一等運轉士免狀		一
	一等運轉士		沿岸乙種二等運轉士免狀		一
	千噸未滿船	長	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀		一
	一等運轉士		漁船乙種一等運轉士免狀		一
第三種 乙又ハ	二千噸未滿船	長	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀		一
	一等運轉士		漁船乙種一等運轉士免狀		一
	二等運轉士		漁船乙種一等運轉士免狀		一
	五千噸未滿船	長	漁汽船甲種船長免狀		一
	一等運轉士		漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀		一
	二等運轉士		漁汽船甲種二等運轉士免狀		一
	船長		漁汽船甲種船長免狀		一

第三種乙	船	五千噸以上	一等運轉士	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長	一
			二等運轉士	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
			三等運轉士	漁船乙種一等運轉士免狀	一
	帆船	三十噸未滿	船長	小形船丙種運轉士免狀	一
		二百噸未滿	船長	沿岸丙種運轉士免狀	一
		二百噸以上	船長	丙種船長免狀	一
			一等運轉士	沿岸丙種運轉士免狀	一
第二種甲	汽船	五百噸未滿	船長	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
			一等運轉士	漁船乙種一等運轉士免狀	一
		千噸未滿	船長	漁汽船甲種一等運轉士免狀	一
			一等運轉士	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
		五千噸未滿	船長	漁汽船甲種船長免狀	一
			一等運轉士	漁汽船甲種一等運轉士免狀	一
			二等運轉士	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
又ハ甲	船	五千噸以上	船長	漁汽船甲種船長免狀	一
			一等運轉士	漁汽船甲種一等運轉士免狀	一
			二等運轉士	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一

(其ノ二) 漁船機關長及機關士定員表

從業制限	公稱馬力	船舶職員	機關種類	海技免狀	定員
第三種甲	二百噸未滿	船長	漁汽船甲種二等運轉士免狀		一
		一等運轉士	丙種運轉士免狀		一
	五百噸未滿	船長	漁船甲種二等運轉士免狀		一
		一等運轉士	漁船甲種一等運轉士免狀		一
		二等運轉士	漁船甲種二等運轉士免狀		一
	五百噸以上	船長	漁船甲種船長免狀		一
		一等運轉士	漁船甲種一等運轉士免狀		一
		二等運轉士	漁船甲種二等運轉士免狀		一
第一	五十馬力未滿	機關長	發動機	小形發動機船三等機關士免狀	一
	百五十馬力未滿	機關長	發動機	沿岸發動機船三等機關士免狀	一
	三百五十馬力未滿	機關長	發動機	發動機船三等機關士免狀	一
			汽機	汽船三等機關士免狀	一
			發動機	近海發動機船二等機關士免狀	一
	千五百馬力未滿	機關長	汽機	近海汽船二等機關士免狀	一

種				
一	二千馬力未滿	機關長	發動機	發動機船一等機關士免狀
			汽機	一等機關士免狀
		一等機關士	發動機	發動機船二等機關士免狀
			汽機	二等機關士免狀
			發動機	發動機船機關長免狀
			汽機	機關長免狀
	二千馬力以上	機關長	發動機	發動機船一等機關士免狀
			汽機	機關長免狀
		一等機關士	發動機	小形發動機船三等機關士免狀
			汽機	一等機關士免狀
第二	五十馬力未滿	機關長	發動機	沿岸發動機船三等機關士免狀
	百五十馬力未滿	機關長	發動機	發動機船三等機關士免狀
	三百馬力未滿	機關長	發動機	發動機船三等機關士免狀
			汽機	汽船三等機關士免狀
	六百馬力未滿	機關長	發動機	近海發動機船二等機關士免狀
			汽機	近海汽船二等機關士免狀
	千馬力未滿	機關長	發動機	發動機船一等機關士免狀
			汽機	一等機關士免狀

種				
乙	千五百馬力未滿	機關長	發動機	發動機船一等機關士免狀
			汽機	一等機關士免狀
		一等機關士	發動機	近海發動機船二等機關士免狀
			汽機	近海汽船二等機關士免狀
又	二千馬力未滿	機關長	發動機	發動機船機關長免狀
			汽機	機關長免狀
		一等機關士	發動機	發動機船一等機關士免狀
			汽機	一等機關士免狀
八	四千馬力未滿	機關長	發動機	發動機船機關長免狀
			汽機	機關長免狀
		一等機關士	發動機	發動機船一等機關士免狀
			汽機	一等機關士免狀
第		二等機關士	發動機	發動機船二等機關士免狀
			汽機	二等機關士免狀
三		機關長	發動機	發動機船機關長免狀
			汽機	機關長免狀
		一等機關士	發動機	發動機船一等機關士免狀

乙種	四千馬力以上	二等機關士	汽機	一等機關士免狀
			發動機	發動機船一等機關士免狀
		三等機關士	汽機	一等機關士免狀
			發動機	發動機船二等機關士免狀
			汽機	二等機關士免狀
			發動機	發動機船二等機關士免狀
第二種甲又	六百馬力未滿	機關長	汽機	二等機關士免狀
			發動機	發動機船二等機關士免狀
		一等機關士	汽機	汽船三等機關士免狀
			發動機	發動機船三等機關士免狀
	千馬力未滿	機關長	汽機	一等機關士免狀
			發動機	發動機船一等機關士免狀
		一等機關士	汽機	近海汽船二等機關士免狀
			發動機	近海發動機船二等機關士免狀
	二千馬力未滿	機關長	汽機	機關長免狀
			發動機	發動機船機關長免狀
		一等機關士	發動機	發動機船一等機關士免狀

第三種甲	三千馬力以上	機關長	汽機	一等機關士免狀
			發動機	發動機船機關長免狀
		一等機關士	汽機	一等機關士免狀
			發動機	發動機船一等機關士免狀
		二等機關士	汽機	二等機關士免狀
			發動機	發動機船二等機關士免狀
		三等機關士	汽機	二等機關士免狀
			發動機	發動機船二等機關士免狀
第八	三千馬力未滿	機關長	汽機	機關長免狀
			發動機	發動機船機關長免狀
		一等機關士	汽機	一等機關士免狀
			發動機	發動機船一等機關士免狀
		二等機關士	汽機	二等機關士免狀
			發動機	發動機船二等機關士免狀

備考

一、第二種乙又ハ第三種乙ト稱スルハ第二種又ハ第三種中東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域內ニ於テ從業スルモノヲ謂フ

二、第二種甲又ハ第三種甲ト稱スルハ第二種又ハ第三種中前號ニ規定スルモノヲ除キタルモノヲ謂フ

第四號表海技免狀ノ欄中「三等機關士免狀」ヲ「汽船三等機關士免狀」ニ又「近海二等機關士免狀」ヲ「近海汽船二等機關士免狀」ニ改ム

第二號書式備考中「近海航路第一區」ヲ「近海區域」ニ改ム

第五號書式中「航路定限」ヲ「航行區域」ニ改ム

附　則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶安全法第三十五條ノ規定ニ依リ船舶檢査ニ關シ舊法ニ依ル船舶ニ付テハ同法第三十六條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クルニ至ル迄之ニ乘組マシムベキ船舶職員ニ關シテモ仍從前ノ例ニ依ル

昭和五年二月遞信省令第一號船舶職員法施行細則第一條ニ依ル湖川港三等機關士免狀及近海二等機關士免狀ハ第一條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依リ之ヲ行使スルコトヲ得

近海二等機關士免狀ハ近海汽船二等機關士免狀ノ上級免狀トス

〔參照〕

昭和五年二月十五日遞信省令第一號船舶職員法施行細則抄錄

第五條　總噸數千噸未滿又ハ公稱馬力千五百馬力未滿ノ近海航路以下ノ航路ヲ航路定限ト爲ス漁船及總噸數五百噸未滿又ハ公稱馬力千馬力未滿ノ遠洋航路ヲ航路定限ト爲ス漁船ニ乘組マシムベキ船舶職員ニ付テハ第三號表ニ依ルコトヲ得但シ機關ヲ有スル漁業帆船ノ機關部職員ニ付テハ第六條ノ規定ニ依ルコトヲ得

第七條　前二條ニ掲グル船舶ヲ除キ船舶職員法第七條第二號又ハ第三號ニ該當スルモノニ付テハ最寄遞信局長ノ認可ヲ受ケ同法第一號表ニ掲グル船舶職員ヲ減ジ又ハ之ニ代ヘテ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乘組マシムルコトヲ得

第九條第一項及第三項

左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船舶職員法第四條又ハ本令ニ定ムル船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乘組マシメザルコトヲ得但シ第一號乃至第三號ニ付テハ船舶職員ヲ雇入レ難キ場合ニ限ル

四　平水航路又ハ沿海航路ニ該當スル外國各港間ノミヲ航行スル船舶ガ當該外國政府ノ法規ニ依リ相當免狀受有者ヲ乘組マシメタルトキ

船舶檢査法施行細則第三十四條ニ依リ旅客又ハ貨物ヲ搭載セズシテ船舶ヲ回航スルニ當リ近海航路第二區ノ區域ヲ航行スルトキハ近海航路第一區ノ區域ヲ航行スル船舶職員沿海航路ノ相當スル船舶職員近海航路第一區ノ區域ヲ航行スルトキハ平水航路ニ相當スル船舶職員ヲ各乘組マシムルコトヲ得

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニ付テハ船長及機關長以外ノ船舶職員ノ乘組ヲ省略スルコトヲ得

二　平水航路ヲ航路定限ト爲シ始發港ヨリ最終港迄ノ航程三十海里未滿ノ航海ニ從事スル船舶

第十條ノ二　船舶檢査法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ航路ノ延長ノ認可ヲ受ケタル船舶ノ職員ニ關シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ延長セラレタル部分ノ本來ノ航路定限ニ付定メラレタル範圍內ニ於テ海技免狀ヲ受有スル者ノ乘組ヲ命ズルコトヲ得

第三十一條　海技免狀滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スベキ場合ニ於テ返還セザルトキハ其ノ無效ナルコトヲ官報ニ公告ス

第三十四條　第九條第二項及第四項、第十三條第一項第十七條第一項、第二十條第二十三條第一項、第二十五條第一項、第二十九條第一項及第三十一條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本令ノ規定ニ依リ海技免狀ヲ返還スベキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

◉遞信省令第二十六號

船舶職員試驗規程中左ノ通改正ス

昭和九年二月七日

遞信大臣　南　弘

第一條中「三十六種」ヲ「三十七種」ニ、「湖川港三等機關士試驗」ヲ「湖川港汽船三等機關士試驗」ニ、「近海二等機關士試驗」ニ、「近海二等機關士試驗」ヲ「近海汽船二等機關士試驗」ニ改メ「發動機船三等機關士試驗」ノ次ニ「汽船三等機關士試驗」ヲ加フ

第四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

小形船丙種運轉士試驗、小形船乙種二等運轉士試驗及小形發動機船三等機關士試驗ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且試驗ノ種類ニ應ジ別表受驗履歷表ニ定ムル履歷ノ一ヲ有スルコトヲ要ス

一　所轄管海官廳ノ認可シタル講習會ニ於テ所定ノ講習ヲ卒リ講習ノ終了日迄ニ年齡滿二十年ニ達シタル者

二　別ニ告示スル水產學校、水產講習所其ノ他船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ關スル學術ヲ敎授スル學校ヲ卒リ年齡滿二十年ニ達シタル者

第五條第二項中「近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船」ヲ「近海以上ノ航行區域ヲ航行スル帆船」ニ、第三項及第五項中「汽船」ヲ「汽船(發動機船ヲ包含セズ)」ニ、第四項中「湖川港三等機關士試驗、汽船三等機關士試驗」ヲ「湖川港汽船三等機關士試驗」ニ改ム

第六條第二項中「沿海航路」ヲ「沿海區域」ニ改ム

第十一條第三項中「近海二等機關士試驗」ヲ「近海汽船二等機關士試驗」ニ改ム

第十九條中「湖川港三等機關士試驗」ヲ「湖川港汽船三等機關士試驗」ニ改ム

別表受驗履歷表其ノ二ノ試驗種類ノ欄中「湖川港三等機關士試驗」ヲ「湖川港汽船三等機關士試驗」ニ、「三等機關士試驗」ヲ「汽船三等機關士試驗」ニ、「近海二等機關士試驗」ニ改メ海技免狀ノ種類ノ欄中「三等機關士免狀」ヲ「汽船三等機關士免狀」ニ、「近海二等機關士免狀」ヲ「近海汽船二等機關士免狀」ニ改メ汽船三等機關士試驗ノ項ノ次ニ

三等機關士試驗			
一、三百馬力以上ノ汽船	三十馬力以上ノ發動機船	一年以上	機關運轉
二、四百馬力以上ノ汽船	三十馬力以上ノ發動機船	一年以上	機關運轉
三、五百馬力以上ノ汽船	三十馬力以上ノ發動機船	一年以上	機關運轉
四、二百馬力以上ノ航洋汽船	三百馬力以上ノ航洋發動機船	一年以上	機關長
五、四百馬力以上ノ航洋汽船	三百馬力以上ノ航洋發動機船	二年以上	機關長
六、四百馬力以上ノ航洋汽船	四百馬力以上ノ航洋發動機船	一年以上	機關運轉

沿岸發動機船三等機關士免狀		
一、六百馬力以上ノ航洋汽船	二等機關士免狀	機關運轉
二、四百馬力以上ノ航洋汽船	二等機關士免狀	機關運轉
三、五百馬力以上ノ航洋汽船	二等機關士免狀	機關長
四、二百馬力以上ノ航洋汽船	二等機關士免狀	機關長
五、三百馬力以上ノ航洋汽船	二等機關士免狀	機關運轉
六、四百馬力以上ノ航洋發動機船	近海汽船二等機關士免狀	機關運轉

第十條第二項ヲ左ノ如ク改ム

二、漁船以外ノ船舶ニ付テハ航洋船舶トハ沿海以上ノ航行區域ヲ航行スルモノ、大航洋船舶トハ近海以上ノ航行區域ヲ航行スルモノヲ謂ヒ漁船ニ付テハ航洋船トハ總噸數五噸以上ノモノ、大航洋船トハ從業制限第二種又ハ第三種ノモノヲ謂フ

六、其ノ二表中ノ汽船ニハ發動機船ヲ包含セズ

學術試驗科目表中沿岸丙種運轉士試驗、湖川港乙種二等運轉士試驗及沿岸乙種二等運轉士試驗ノ試驗科目法規中「船舶檢査法」ヲ「船舶安全法(滿載吃水線及無線電信ニ關スル事項ヲ除ク)」ニ、丙種運轉士試驗及乙種

二等運轉士試驗ノ試驗科目運用術中「萬國船舶信號旗」ヲ「國際信號旗」ニ、同法規中「船舶檢査法、船舶滿載吃水線法」ヲ「船舶安全法(無線電信ニ關スル事項ヲ除ク)」ニ、丙種船長及乙種一等運轉士試驗ノ試驗科目運用術中「萬國船舶信號」ヲ「國際信號(國際通信書信號編)」ニ改メ乙種船長試驗ノ試驗科目運用術中海上氣象學ノ項ノ次ニ

信號

國際信號(國際通信書信號編及電信編)

ヲ加ヘ同法規及商事實務中船荷證券ニ關スル事項ノ前ニ「船舶安全法」ヲ加ヘ甲種二等運轉士試驗ノ試驗科目運用術中「萬國船舶信號」ヲ「國際信號(國際通信書信號編及電信編)」ニ、同法規中「船舶檢査法、船舶滿載吃水線法」ヲ「船舶安全法」ニ改メ「湖川港三等機關士試驗」ヲ「湖川港汽船三等機關士試驗」ヲ「三等機關士試驗」ヲ「汽船三等機關士試驗」ニ改メ汽船三等機關士試驗ノ項ノ次ニ

三等機關士試驗

發動機船三等機關士試驗及汽船三等機關士試驗ノ全科目

ヲ加ヘ「近海二等機關士試驗」ヲ「近海汽船二等機關士試驗、湖川港汽船三等機關士試驗、發動機船三等機關士試驗及汽船三等機關士試驗ノ試驗科目法規中「船舶檢査法」ヲ「船舶安全法(滿載吃水線及無線電信ニ關スル事項ヲ除ク)」ニ改ム

試驗手數料表ノ試驗ノ種類欄中「湖川港三等機關士試驗」ヲ「湖川港汽船三等機關士試驗」ニ改メ「發動機船三等機關士試驗」ヲ「汽船三等機關士試驗」ヲ加ヘ「近海二等機關士試驗」ノ次ニ「近海汽船二等機關士試驗」ヲ「近海發動機船二等機關士試驗」ヲ、「近海汽船二等機關士試驗」ヲ「近海二等機關士試驗」ヲ創ル

第一號書式及第二號書式中「航路」ヲ「航行區域又ハ從業制限」ニ改ム

附則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

漁船ニ付テハ本令施行前ノ規程ニ依ル航洋船舶又ハ大航洋船舶ニ乘組ミタル履歷ハ本令ニ依ル航洋船舶又ハ大航洋船ニ乘組ミタル履歷ト看做ス

近海二等機關士免狀ヲ受有スル者ハ本令施行前ノ規程ニ依ル乘船履歷ヲ以テ仍一等機關士試驗ヲ受クルコトヲ得

本令施行前近海二等機關士試驗ノ筆記試驗ニ合格シ口述試驗ニ合格セザリシ者ハ受驗者ノ選擇ニ依リ近海汽船二等機關士試驗又ハ近海發動機船二等機關士試驗ノ筆記試驗ニ合格シタルモノト看做ス

(參照)

昭和五年三月十八日 遞信省令第六號船舶職員試驗規程抄錄

第一條 船舶職員試驗ハ左ノ三十六種トス

(左記略ス)

第四條第二項

小形船丙種運轉士試驗、小形船乙種二等運轉士試驗及小形發動機船三等機關士試驗ヲ受ケムトスル者ハ所轄管海官廳ノ認可シタル講習會ニ於テ所定ノ講習ヲ卒リ且講習ノ終了日迄ニ年齡滿二十年ニ達シ試驗ノ種類ニ應ジ別表受驗履歷表ニ定ムル履歷ノ一ヲ有スルコトヲ要ス

第五條第二項第三項第四項及第五項

總噸數百噸以上ノ機關ヲ有セザル縱帆裝置ノ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ニ乘組ミタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間橫帆裝置ノ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ニ乘組ミタルモノトシテ之ヲ換算スルコトヲ得

機關長及機關士ノ試驗ニ在リテハ別表受驗履歷表ニ定ムル乘船期間ノ二分ノ一ニ達スル迄汽船ニ乘組ミタル期間ハ發動機船ニ又發動機船ニ乘組ミタル期間ハ汽船ニ乘組ミタルモノトシテ之ヲ換算スルコトヲ得

湖川港三等機關士試驗及三等機關士試驗ニ對スル乘船履歷ニ付テハ火夫トシテ勤務シタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間機關運轉ニ從事シタルモノトシテ之ヲ換算スルコトヲ得但シ換算シタル期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

機關ヲ有スル帆船ニ乘組ミタル履歷ニ付テハ機關長及機關士ノ試驗ニ在リテハ其ノ乘船期間ノ二分ノ一ニ相當スル期間汽船又ハ發動機船ニ乘組ミタルモノトシテ計算ス但シ此ノ場合ニ於テハ第三項ノ規定ヲ準用ス

第六條第二項

上海漢口間ヲ航行スル汽船ニ乘組ミタル期間ハ別表受驗履歷表ニ定ムル乘船期間ノ二分ノ一ニ達スル迄沿海航路ヲ航行スル汽船ニ乘組ミタルモノト看做ス

第十一條第三項

發動機船二等機關士試驗又ハ近海發動機船二等機關士試驗ノ受驗履歷トシテノ工場ニ勤務シタル期間ハ別表受驗履歷表ニ定ムル工場履歷ノ二分ノ一ニ達スル迄二等機關士試驗又ハ近海二等機關士試驗ノ受驗履歷トシテノ工場ニ勤務シタルモノト看做シ之ヲ換算スルコトヲ得

第十九條 沿岸內燃運轉士試驗、湖川港ノ種二等運轉士試驗、沿岸ノ種二等運轉士試驗、沿岸發動機船三等機關士試驗及湖川港三等機關士試驗ニハ筆記試驗ヲ行ハズ

勅令

朕海事諸法臺灣施行令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和九年一月三十一日

内閣總理大臣　子爵　齋藤　實

遞信大臣　南　弘

拓務大臣　永井柳太郎

勅令第十四號（官報　二月一日）

海事諸法臺灣施行令中左ノ通改正ス

第一條中「船舶法」ノ次ニ「船舶安全法但シ同法第二條第一項第十一號ニ關スル規定及第二十七條ノ規定ヲ除ク」ヲ加ヘ「船舶檢査法」、「船舶滿載吃水線法」及「船舶無線電信施設法」ヲ削ル

第十三條　削除

第十四條　削除

附則

第一條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　本令施行ノ際從前ノ第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ船舶檢査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶檢査、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ仍從前ノ規定ニ依ル

一　從前ノ第十三條ノ汽船檢査證書又ハ假證書ノ有效期間滿了ノ爲船舶檢査法ニ依リ檢査ヲ受クベキトキ

二　從前ノ第十四條ノ規定ニ依ル臺灣總督ノ命令ニ依リ檢査ヲ受クベキトキ

第三條　前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ受クベシ

前項ノ檢査ニ合格シタル船舶ニハ船舶檢査證書ヲ交付ス但シ其ノ有效期間ハ四年以內ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有效期間ノ滿了ハ船舶安全法第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同法第十條ニ規定スル有效期間ノ滿了ト看做ス

〔參照〕

昭和六年十一月十日公布　勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令抄錄

第一條　左ニ揭グル法律ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

船舶法

船舶檢査法

船舶滿載吃水線法

船舶無線電信施設法

第十三條　本令施行ノ際臺灣汽船檢査規則ニ依リ受有スル汽船檢査證書又ハ假證書ハ其ノ有效期間滿了ニ至ル迄船舶檢査法ニ依ル船舶檢査證書又ハ假船舶檢査證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第十四條　本令施行ノ際臺灣汽船檢査規則ニ依リ檢査ヲ要セザリシ船舶ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ受クル迄船舶檢査證書ヲ受有セズシテ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

昭和九年六月二十八日印刷
昭和九年六月二十八日發行

船舶安全法關係法令集
定價金五拾錢

東京市深川區清澄町二丁目一番地
編輯兼發行者　大矢五作

東京市京橋區槇町一丁目一番地
印刷者　横田與作

東京・博英社・京橋

發行所　東京市深川區清澄町二丁目一番地
大矢書店
振替東京三六九六五番

終